澱江

'91

大阪経済大学同窓会

祝 ★経営情報学科開設★

▲F館定礎除幕および竣工式

▲F館(MIC館)外観

▲F館内庭

▲F館遠望

▲F館2階電算実習室

F館(MIC館)は経営情報学科の専用学舎として新設された。

1991 No.27

グラビア
祝・経営情報学科開設……1
平成3年度同窓会行事風景……2

特集座談会
心のふるさと、我が母校
―北陸・山陰からみた我が母校……3

▼キャンパスだより……16
'91経営情報学科生大アンケート　クラブ戦績……21

▼同窓会本部だより……22

▼同窓会支部だより……28
話題の同窓生
大阪市役所支部　物部秀恒氏　寄吉哲司氏……41
東海支部　中川　進氏……42
徳島支部　樫本　孝氏……43
藤村　豊氏……43

▼学園の近況……46

▼ゼミ短信・先生の近況……61

▼同期生クラブOB会……74
卒業生直撃インタビュー
川西市議会議長　井上武彦氏……85
茅濠窯　古野幸治氏……86
北興化学工業㈱取締役企画部長　上岡豊晴氏……86

▼北から南から……88

▼事務局だより……97

募金芳名録……24
同窓会支部役員……45

作者からのメッセージ

油絵は中学校時代から始めましたが、気まぐれな性格で色々変わった方法を研究しています。それは商売柄材料がいくらでもあるからかも知れません。今回も「澱江の表紙に」との事務局長のご要望にお断りしましたが、たっての事でお引き受けしました。以前は風景ばかり画いていましたが、心筋梗塞を3回患ってからはもっぱら静物のみ画いています。個展を2回行いましたがもう一度と考えています。とにかく納得のいく作品をと、毎日2時間ばかり張り切っている今日この頃です。

作者紹介

松本旬弘(まつもと・ときひろ)氏／大正7年9月26日、和歌山市生まれ、72歳／昭和14年(5回)昭和高等商業学校卒業／メリヤス製造に従事、召集2回、その間和歌山市長秘書(1年8ヵ月)／昭和47年より洋画材料店を始め現在に至る、同窓会和歌山支部長／中学校より油絵を学び昭和17年県展特選、47年以来一陽会出展4回／趣味は油絵(元武蔵美大教授須田寿氏に師事)、謡曲(芸術院会員、人間国宝後藤得三氏に師事)、謡教授、仕舞教士、篆刻(深谷市小林石寿氏に師事)／和歌山市に在住。

特集　座談会

心のふるさと、我が母校
北陸・山陰からみた我が母校

平成３年８月25日(日)・宝塚ホテル　若竹の間

出席者

津田恭一(16)	津田家具店社長(島根県)
柚木　繁(21)	近江町市場理事長(石川県)
小林真人(32)	テレビ山口アナウンス部長(山口県)
大丁雄治(32)	福井中央学院理事長(福井県)
藤井　亨(32)	花屋別館社長(鳥取県)
高橋　努(34)	富山第一高等学校教諭(富山県)

オブザーバー

鈴木　亨	母校理事長
山本晴義	母校学長
田所清市	母校事務局長
磯野　斉(3)	同窓会会長
陰下嘉典(16)	同窓会事務局長
前田悦子(13)	同窓会常任理事
波根伸俊(32)	同窓会広報部長
司会　鶴谷利一(28)	同窓会広報部副部長
記録　大門由秀(46)	同窓会広報部

平成３年度
同窓会行事風景

▲新学科開設記念品目録贈呈

▲目録と祝電

▲チアリーダーズ(総会賛助出演)

▲学内を見学するＯＢ達

▶優勝クラブの表彰

▼全国支部長会(於・宝塚ホテル)

▲総会パーティ風景

特集

座談会

出席者プロフィール

津田恭一（つだ・きょういち）　昭和25年(16回)卒

大阪経専卒、在学中は社研・山岳部に所属／現在、㈱津田家具店代表取締役社長、㈱コスモプラン取締役、松江ロータリークラブ、中海経済同友会会員、松江市各種団体役員、同窓会島根支部理事／松江市在住

柚木　繁（ゆのき・しげる）　昭和30年(21回)卒

在学中は竹林(庄)ゼミ、英文タイプ部所属／現在、㈱ライフコーナー（日用雑貨、家庭用品小売）代表取締役社長、近江町市場商店街振興組合理事長、同窓会石川支部長／信条らしきもの「あらゆる分野の一流と言われるものに出来るだけ接するように心がけております」／趣味「何でも見たり聞いたりの鑑賞、ゴルフ、スキー」／好きな言葉「知・情・意」／家族は妻・一姫二太郎／金沢市在住

小林真人（こばやし・まこと）　昭和41年(32回)卒

在学中は経営学部、岩井ゼミ、文化放送部所属／現在、テレビ山口㈱報道制作局アナウンス部長、同社ニュース編集委員／昭和50年から『ＴＹＳニュース６』キャスター、現在毎週月～水を担当／ニュースデスクの他にスペイン、韓国、ハワイ、中国を取材、ハワイではオアフ島からＪＮＮ特派員として日本全国へ衛星生中継をしたことは小生の放送生活の中で特に印象に残る／日常取材やインタビューで知り合った人達は我が人生の大きな財産と思っている／山口市在住

大丁雄治（だいちょう・ゆうじ）　昭和41年(32回)卒

在学中は喜田ゼミ所属／現在、福井中央学院理事長／福井県内唯一の予備校として地元に貢献、400名前後の生徒数ながら受験技術だけでなく、人間形成にも力を入れユニークな予備校だと自負している／この10年間で3,000名以上の生徒が巣立ち、既に半数以上が第一線で活躍していることは大きな喜びであり、責任を感じている／ライオンズクラブの幹事として地域の発展に微力ながらお手伝いできることも喜んでいる／福井市在住

藤井　享（ふじい・とおる）　昭和41年(32回)卒

在学中は渡辺(敬)ゼミ所属／現在、㈲花屋別館代表取締役社長／２～３年間在阪の旅行会社に就職する予定が家業の手が足らずやむなく帰郷、㈲花屋別館入社／昭和43年倉吉青年会議所入会／昭和59～63年三朝温泉旅館組合、三朝温泉観光協会、三朝町商工会理事／平成元年代表取締役就任、三朝町議会議員当選／平成３年三朝町商工会副会長就任／三朝町在住

高橋　努（たかはし・つとむ）　昭和43年(34回)卒

在学中は経営学部、井上ゼミ所属／現在、富山第一高等学校教諭（20余年勤務）、現代社会・政治経済、商業の各教科を担当、進路指導部長として高校生の進学・就職指導を一貫して行う／木村武生先生に公私共に格別の指導を受ける／著書に『児童福祉序説』ほか教育、産業関係の論文がある／日本社会学会／関西社会学会の会員、同窓会富山支部事務局長／趣味は山岳写真、ゴルフほか／富山市在住

司会・鶴谷利一（つるや・りいち）　昭和37年(28回)卒

在学中は井上ゼミ所属／現在、興国高等学校教諭、進路指導部長、同窓会広報部副部長

司会（鶴谷）　本日は大変お忙しい中、ご遠路同窓会誌『澱江』の特集座談会にご出席賜りましたことを、厚くお礼申し上げます。

「心のふるさと我が母校シリーズ」ということで、最初東京、2回目が関西、今回は3回目になるわけなんですが、「心のふるさと我が母校――北陸・山陰からみた母校」というテーマで座談会を進めていきたいと思っております。

最初に各先輩方の近況報告、自己紹介をお願いします。最初に津田先輩からどうぞ。

先輩なんて何十年振り

津田　先輩なんて何十年振りにおっしゃっていただいて誰のことかいなと思って、どうも私のようで(笑)。

私が大阪経済専門学校（当時）へ入りまして、いちばん記憶に残っていることは部活ということでしょうか。社研へ入りまして、1年生はまず永田広志の『唯物弁証法』というのからやろうじゃないかという提案がありまして、我々は戦前・戦中の教育をくぐったものので、そういう唯物弁証法なんていうのがあるということが全然わかりませんで、ものの考え方というものはいろいろあるもんだなぁということがわかりました。

我々のときは学生運動がものすごく盛んでして、社研の若月先輩なんかが学校のストライキのリーダーをやっておられたようです。非常にファイトのある方で、2年生は何をやっておったかというと、初歩のマルクス『資本論』を我々が入ったときにやっておられた。それで我々新入生をつかまえていろんな質問をされますけれども、何分資本論そのものを聞いたこともはじめてだというような状況だったものですから、「これはおられんかな」と、思ったようなわけです。

それと山岳部へ入りまして、そこで中谷君という同級生と知り合いました。穂高とか毎週六甲でロッククライミングを練習しまして、それで人の和をいうことについて学ぶことが多く、有意義な部活ができたことを私は感謝しております。やっぱり学校へ行くからには何か一つ、自分で残るものをやらないといかんなということをつくづく社会へ出てからも感じております。

津田　恭一

本当にやっぱり心のふるさと

柚木　私なんかはまったく4年間本当に勉強したかと言われたら、とにかく卒業しましたという程度でございます(笑)。

私にとって、大阪経済大学は、本当によくやっぱり心のふるさとだなぁといまでも思っております。というのは、私は高校、中学と陸上をやってまして、山も歩いておったんです。ただ大学へ行きましてからは、スポーツ関係には入る気がさらさらなかったんです。でも、何かやらなきゃいかんと思いまして、はじめて手をつけたのが英文タイプライターでして、これが私の4年間にとっては非常によかったと思います。

それは英文タイプが打てたということじゃなくて、それがためにいろんな先生とのつながりができたということなんです。外書講読のテキストをタイプしまして、そういうつながりで図書館へ本当によく通いました。

ですから、その時分の図書館長の藤原先生は、ゼミの竹林(庄)先生以上の実質的なゼミの先生というふうに私は思うわけです。藤原先生には、本当によく可愛がっていただきまして、いろいろお話を聞かせていただいたわけです。図書館へよく出入りしましたので、倉辻先生、中村(九)先生とか、普通ならあんまりしゃべらない先生にもいろいろご懇意にしていただき、本当に今となっては大きな学生生活の財産だったなぁというふうに、つくづく思っております。

学生時代は文化放送部

小林　私は、学生時代は文化放送部におりました。当時からアナウンサーを志していたんですが、ご承知のようにアナウンサーは非常に門が狭いものですから、各局採用しても一人か二人、それも数年に1回という感じで非常に門が狭いんで、残念ながら3年8カ月地元の金融機関にいたんです。その後、新しくテレビ局が開局するということを聞きまして、またあきらめていたものがムラムラと起こりまして、幸か不幸か合格し、現在に至っています。

現在は、毎週月曜から水曜まで、6時半からの「ニュース6」というワイドニュースのキャスターをやらせて頂いております。

私のライバル局に山口放送さんがありますけど(読売系)、そこに勝津さんという後輩がアナウンサーをやってます。広島にいきますと、ＴＳＳ（関西テレビ系）にも後輩のアナ

ウンサーがいまして、何人かポツポツと後輩が育っており心強い感じがいたしております。

先日、山口で同窓会をやりまして、私はこういう座談会に呼ばれているんだと言いましたら、「一生懸命言いたいことを言ってくれ」と託されました。そんなことで山口県の皆さんを代表して私がやってきたようなことでございます。

福井県で唯一の予備校

大丁　福井県で唯一の予備校をやらせていただいております。人数は都会の大手の予備校と全然違いまして、一桁も二桁も少ないんですが、福井県の浪人が七百から八百人ぐらいの中での四百名前後でございますから、まあ半分ぐらいは来ていただいている、信頼されているんではないかなと自負しております。そういうことで、大阪経済大学とは送り出す側からみれば深いつながりがございます。

だが、私どもが大阪経済大学を受験したときとは雲泥の差というんでしょうかね、大変な激戦の大学になってまいりました。十八歳人口がこれから減少期に向かいつつある中で、そういうことを大事にしていただいて、少しでも全国に大阪経済大学の名前を広めていただきたいなというふうに思っております。

また、福井の同窓会は年1回総会をやってますけど、年1回では面白くないという若手の発想が10年ほど前に起きまして、「大淀会」という若手分会を2月に1回必ずやっております。それが支部活動の中核になり、3年か4年ほど前、子供やら女房を連れて母校を訪問させていただきました。それは、今までにない快挙だとお褒めの言葉をいただいた記憶がございます。

都会に4年間出られる

藤井　私のばあい、山陰の鳥取から出てまいりましたため、まず都会に4年間出られるということ、すなわち田舎から出られることに非常な意義があったわけで、「4年間いかに充実した時を過ごそうか」ということでした。

最初の2年間は、淀川近くに下宿しまして、一生懸命勉強したわけですが、3、4年になるにしたがって少しは離れてみたいというようなことで神戸のほうに住みました。いまでも私の子供らに言うんですけど、当時は住宅ひとつにしましても、いま思えば本当に雲泥の差があるわけなんですね。神戸に移り住んだときには二畳一間におりまして、そこで1年間過ごしました。田舎に帰れば広々したところにおったわけですけれども、そういった貴重な体験がいまでも非常に役に立っていると思います。

そして、本来なれば3年ぐらい旅行業とか、旅館と違ったホテルで勉強して帰りたい希望を抱いておったわけですが、卒業と同時に帰郷してしまいまして、大阪でもっといろんな勉強をしたかったなと、非常にその点を残念に思っております。

藤井　享

基本をしっかり教わる

高橋　昭和43年に経営学部を卒業し、ゼミは井上先生でした。レーニンの『帝国主義論』とかヒルファーディングの『金融資本論』なんかをよく読みなさいと言われたのですが、その後教師になって、政治経済なんかを担当しますと、そのあたりで俄然時間が長くなるということで、非常に基本を教えていただいたなあという感じをしております。

また、多くの先生方のご指導いただいたわけですが、私の場合は木村武夫先生に公私ともよくお世話になりました。ラーメンを食べながら将来について教えていただきました。また、金沢経済大学設立のことでよく金沢におみえになりましたけど、いろんな「大学づくりの話」とか、教師になることを勧めていただいたということで非常にお世話になりました。

また、いろんな学生運動にも参加しておりましたが、当時は比較的穏やかで、「全学懇談会」で先生方と一緒にいろんな問題を懇談し、非常によかったなぁという感じを持っております。

現在、同窓会の富山支部の事務をしていますが（二百名近い会員）、「非常に大学がよかったな、〝心のふるさと〟であるな」といった思いを皆さん抱いているわけで、この座談会に行ってくるという話をしましたら、その点を強調してきてくれと言われました。

司会　ありがとうございました。ちょっと私事なんですが、実は私は小、中、高等学校と新潟におったんです。生まれは大阪なんですけどね。そういったこともあって、非常に6人の先輩とは身近な感じがしてならないんですけども…。

家族的な学生生活だった

柚木　やっぱり最近の大阪経済大学の規模と我々の時代の規模とを比べると隔世の感を持つわけです。私ら、本当に下宿から学校が歩いて5、6分ぐらいのところにおりました。淀川の堤防下でしたけど、学校へ行くといったら下駄履いて行ったものでしてね。いつもカランコロン、カランコロンと、いまの何館というんですか、一番古いコンクリート廊下（B館）を図書室のほうへ歩いて行くと、「おっ、あれが来た」ということがいつも話題になっておったと言われておったんです。事務室もあの時分は一部屋だったんじゃなかったかと思いますね。

私は本当に家族的な学生生活を送ったなと思います。おそらく、いま同じようなことをしておっても、やっぱりあれだけ家族的なものを感ずる学生生活は送れないんじゃないかなというふうに思いますね。

柚木　繁

高橋　私も先生方が非常にざっくばらんにいろんな面でよくご指導いただいたなという面では、他大学にない大阪経済大学のいいところではないだろうかという感じがございます。例えばゼミの先生ではなかったですが、木村先生は当時、富山県というのは米騒動発祥の地ということで魚津市なのですが、木村先生は社会事業史の研究もやっておられまして、ぜひお前のところを一遍見たいという話で、わかりましたと言うたら本当にすぐ来られまして、いろいろその後富山大学に行きました り、いろんな関係の先生方を含めてよく懇談なんかをしたことがありました。そのように他大学にない身近な、非常にまたざっくばらんな風通しのいい大学だなということをいまも思っております。

司会　まったくそのとおりですね。私も鈴木理事長とウイスキーを交わしながら、山本学長ともアイスクリームを食べながら、そういう思い出がたくさんありますけども（笑）。

コレスポンデンスは悩みの種

津田　私の下宿はちょうど学校の真下の瑞光通というんですかね、あそこにありまして、鐘が鳴ってから駆けて行く。ですから、ほとんど毎日溜まり場で、代返を誰にするかということも大体私の下宿で決めてました。

だが、決定的に欠点でいつもやられていたのはコレスポンデンスですか、商業英語は全然だめだったですね。教科書から出ればいいんですけど、教科書から出るのは1問か2問で、応用問題が出ますから、実に悩みの多い科目だったですね。

1年目に久野収先生が講義しておられまして、1年上の社研の連中が、非常にええ話だから、背の低い者が一人ぐらい合併教室へ入っておってもわからへんから、毎回聞きに来いと誘ってくださって、それだけは真面目に聞きました。なかなかええ講義をされよったですね。ゼミは熱心にやりましたけど、この久野先生の話は学科の点数には関係なかったけど、よかったです。

小林　心のふるさとの話では、この10年間で2回ぐらい母校へ寄ってみたんですが、今日も実は午前中行ってみたんですが、何回行っても何か昔と違うんですね。よく考えたら、バスの通る道が一本違うんですね。今日はつ

いに通りがかりのおじさんに尋ねたら、やっぱりバス道が一本違うと。それでやっと思い出しまして。確か、昔、鉄塔の鉄線が頭上を通ってまして、その鉄塔だけはさすがに残ってるんですね。ですから、鉄線づたいに行ったら学校があったということで、ずいぶん浦島太郎のような感じがいたしました。

当時、新幹線がちょうど在学中に開通しまして、当時30分か15分に1本じゃなかったかと思うんですが、新幹線が通るのを目安に先生も、時間だからやめようやとか言った経験があります。

私は、勉強はしたという記憶はあまりないんですが、ただ、いまの私の仕事は当時の学生クラブ活動の延長みたいなことでやっています。何ゼミをやった、どこの大学のどの学部で学んだと言っても、なかなかいまの社会にそのまま当てはまるというのは難しいと思います。文化放送部をやっていて本当によかったなぁというふうに思います。当時、徹夜

小林　真人

してテープを継いだり、剝いだりした思い出があるんですが、そういった思い出というのが一番ですね。

入学の動機は

司会　なぜ自分は大阪経済大学を選んだのかという話はあまり出てきませんけど、やはり言いにくい……(笑)。

柚木　私のばあい大学進学については、両親の考えが違いまして少々困ったんですが、どうしても進学したいと考えておりました。だから、どうしても浪人するわけにいきませんもんね。ここなら大丈夫だなと。それともう一つ、試験科目に数学がなかった。もちろん、金沢大学へ入る自信もあまりなかったし、同級生が金沢大学に入るのに、私が入れんとやっぱりかっこ悪いしね、そういうことが本音なんですけども、いや、この機会に親元を離れるのが一番ベターなんだというふうに自分で自分を説得して、そして大阪へ出てきたというのが本当の気持ですね。

大丁　なぜ大阪経済大学を選んだかということは、当時はまだ北陸トンネルができてませんでしたので、福井からでも4、5時間ぐらいかかったんですね。東京まで行くとなるとえらいもんですので、やっぱり関西方面の大学だと。ところが、京都をみると入れるような大学はない。大阪までくると大阪経済大学っていうのは難しいと思いまして、徹夜で自分を説得して、そして大阪へ出てきたというのが本当の気持ですね。

司会　藤井さんはどうですか。

藤井　私ははっきりした理由というのはなかったようですが、ただ、あんまり大きいいわゆるマンモス大学に行きたくないという気があり、家業に進まねばならんというふうに私自身も心に決めておりましたから、やっぱり大阪経済大学が、私の今後の人生においてぴったりするんじゃないかなというような発想でした。じっくり勉強ができるんじゃないかなと。あんまり何千名という大きい大学ではそこらへんがちょっと薄くなるんじゃないかというようなことのように記憶しております。

先ほど言われましたようにちょこちょこ大学へ寄ってみますけども、当然のことながら昔の面影がだんだん薄れていくということが非常に残念で、前には本当に汚いドブもあり、もう少し南のほうに行けば大淀のほとりがありましたが、面影といいますか、郷愁がすっかりなくなってしまったということが、これは当然のことなんですけれど非常に残念に思うんです。

ただ、新幹線に乗る度に我が母校が間近に見えますし、だんだんそれが発展していく姿をずっと見てきてますんで、非常にそのへんはわが大学もだんだんと素晴らしい大学になりつつあるということは非常に喜んでおります。

大丁　いままだ江口グラウンドはあるんでしょう。もちろん、僕らは体育の授業は江口グラウンドでありましたので、バスで通った記憶があるんですけど、いまの学生さんは。

小林　スクールバスが出るんですね。

大丁　大したもんですな、そうですか。

学食・下宿がなつかしい

津田　我々旧制中学のときには、この学校が昭和高商という名前だったんですね。東京に大倉がありまして、東京へ行くか、関西へ行くかというようなことで、受験するときには戦後のああいうような時期だったものですから、大阪だったら半分で帰られへんかいな。なら、東京へ行くよりは大阪へ行ったほうがええじゃないかというようなことで。叔父が河内天美というところにおりまして、とりあえずそこへ頼り、たまたま田中君という同級生がおって、「津田君、お前、そんなに困るんだったらうちへ来い」というようなことで行ったんですが、そこも夏休みまでおって、夏休みが済んでからさっき言ったところへ引っ越しました。

ちょうど我々のときには部屋代というのは取られませんで、畳一畳が米一升だったんですわ。それで私は八畳の間におりまして、毎月八升田舎から米を送ってもらって、そこへ支払いする。学食だって、あそこは瑞光通りの食堂は何という食堂だったか、ちょっと名前覚えてませんけど、おたくらのときはありましたか。

大丁　学食はありましたよ。右側入って、正門の近くですか。ありました。

津田　あそこへ学食券を持って食べよったですわ。それで支払いには米で、2年生の夏休みまで米で支払いよったですね。

あるとき、突然、復員した学生さんが訪ねてこられまして、「下宿がないけん、あんたは八畳ぐらいにおるらしいけん、ちょっと泊めてくれい」と言われて、「はあー」と言って。そしたら、上がった途端に掛物を書かれる。「お寺さんですか」と聞いたら、お寺さんとは違うと言うて、兵隊の位を聞いたら、海軍予備学生だって言っておられたですわ。年は私よか六つか七つ多かったでしょうね。それが何の掛物かと思ったら麻雀の掛物で、二萬、三萬、ずっと書いてある掛物で、その人があんまり毎晩友だち呼んで麻雀されるものだから、とうとう反対に私が出たんです(笑)。そういう思い出があります。その人は、いま福知山で大僧正だそうですけどね。若いときはそういうことで月月火水木金金、海軍と同じように麻雀されて、私ももうおられんようになったですわ(笑)。

もっと大学のPR(進学説明会)を

司会　いろいろ盛り上がってきて話も尽きないと思うんですけれども、母校への提言をお願いしたいと思うんです。近畿圏以外からの学生数が関西ではどこの大学でも減っているという、こういう傾向があるようなんですね。先ほどの18歳人口の減少というそういう客観的な状況もございますし、いちばんメインになるところ、いちばん言いたいこと、たくさんおありかと思いますので…。

大丁　関西方面の大学進学説明会というのか懇談会の中に、なぜ大阪経済大学が入ってないのかという点を大学側からお聞かせ願いたいなと思ってるんですけど(笑)。

福井の場合でしたら私立の関西、関東の説明会があるんですけれども、それが唯一の情報提供の場なんですね。その中に大阪経済大学が入ってないということになってきますと、PRがちょっと不足してるんじゃないかなという気がするんです。この点が僕らはちょっとわからないんで、お聞かせ願えたらというふうに思っております。

高橋　ご参加の各県のほうも、大体説明会というのは、皆さんないんですか。

柚木　金沢もないですね。だから、同じ気持だと思います。

高橋　鳥取もないんじゃないですか。

藤井　だから同じ気持だと思います。

大丁　これは何かまとめてやるんでしょう、所属している団体で。だから、所属してないということですね、大阪経済大学は。

波根　それは大体、そういう受験産業というんですかね、広告産業が代理業をしてますから、そこが企画し、そこへ各大学が参加費を出して、説明会、懇談会をするんです。

大丁　県の教育委員会が後援してますからね、そういう懇親会とか説明会は。となってくると、バックアップしてない大学のうちに入るんじゃないかなぁと気掛かりなんです。

小林　各府県教育委員会ともそういうふうになってますね。

高橋　これは大体高等学校の進路指導担当の先生がからんでいるんですね。同時に高校生諸君も参加するんです。その意味ではやはり大学のPRもそうだし、大学を知ってもらう

という意味でぜひこういう企画に参加してほしいという感じがしますね。

特に最近受験生が関西中心で、北陸、山陰あたりが少ないという話ですが、全国的に見てみますと、母校では北陸、山陰の受験生は比較的多いんじゃないかという感じがするんです。そういう意味でもこういう企画にはぜひ参加してほしいなという感じがしますね。

津田　なぜそういうことを言うかというと、例えば地元にいろんな団体がありますね。そういうクラブ等で自己紹介があり、何々学校卒なんて書いてあると、電話がかかってくるんですわ。「おたくは大阪経済専門学校という学校を出ておいでるそうですが、あれは大阪経済大学と違いますか」と。そして、「詳しいことを教えてください」と頼まれるのですが、私は卒業したのは昭和25年のときですけん、もう私に聞かれてもだめですよ。直接学校へパンフレットを請求しなさいというようなことがよくあるんです。

高橋　これは偏差値というのはいいか悪いかは別にしまして、偏差値が母校と近い大学、例えば竜谷大学とか京都産業大学はうちとほぼ同ランクです。そういうところあたりは富山県でもみんな参加してるんです。

そういう場合、大阪経大が省かれると、いろんな面でここを受けなさいと言うようなことを生徒に指導しにくく、理解が得にくいですね。

小林　今朝の新聞にも母校だけが出ていないんです。今回に限らず、よく落ちてるんです。今日はオブザーバーの方もいらっしゃるので、そのへんのことを聞いてみましょう。僕らが憤慨してもしようがない。

田所　そのへんのご不満をお聞きしておりまして、はっきり申しますと予算的な問題です。実は本学の予算面では大体5千万円ぐらいしかないわけです。うちと同規模の大学の予算を聞きますと、その4倍とか5倍とかで、入試部としましては限られた予算の中でどうするかというと、いちばん効率のいいところへ集中的にやるしかしようがないということです。

これからは、陰下同窓会事務局長ともご相談いたしまして、年度はじめに、決まってる範囲での各地のこの種催しについて、各支部長さんにご報告をするということが一つ。

それから、もう一つは大学側での来年度の予算計上のときに、こういう切実なご意見をお受けしたということを伝えて、ぜひともできるだけ多くの予算を配分していただくというふうに方策を講じたいと考えております。

スポーツ推薦の枠を広げて

大丁　18歳人口がだんだん減少していく中で、確かに地元の学生さんが沢山いらっしゃるというので地元を大切にする。これはよくわかるんですけども、しかし、いま言ったように18歳人口が減っていくとやっぱりほかの大学に散らばりますでしょう。そうすると、やっぱり地方からも集めてこなければだめですからね。そのときになって、はじめて大阪経済大学の名前を出したって何じゃということになりますのでね。やっぱり事前に大阪経済大学というのは絶えずアピールする必要があるんじゃないかと思っているんです。

小林　特にPRをしなくてもいい大学もあるんですね、どことは言いませんけれども。そういう大学はしなくてもいいけど、やっぱりしなきゃいけない大学というのはあると思うんです。

波根　今年から体験入学ですか、うちの大学を受験しようとする生徒を対象に、オープンキャンパスを実施します。

高橋　推薦の話になるんですが、特に一つだけお願いしたい点は、スポーツ推薦の枠をぜひ広げていただきたいですね。地方にいてスポーツ関係の記事というのは皆さん非常に楽しみにしておるという意見を聞きますので、特に総花的で全スポーツという形も大事でしょうけど、例えばサッカーであるとか、ラグビーであるとか、野球であるとかというように絞りまして、そういった推薦枠を広げていただくという希望を持っているわけです。

大丁　雄治

ただくという希望を持っているわけです。

先ほど新聞等に掲載すると非常にお金がかかるという話がありましたが、これは勝てば相当宣伝効果は大きいですね。やはり集団スポーツを強めていくということは、ある程度まとめて入れるということが大事になってきておりますので、普通科とか商業科とか幾つかありますが、それとは別にスポーツ推薦だけはぜひ今後の課題として早急に枠を広げていただいて、見直していただきたいなという考えをもってます。これは将来的にもプラスになるだろうという判断をしてます。

津田　いま入試でかたまって大阪経済大学へ入ってくる学校は何校ぐらいありますか。例えば80名だとか60名だとか。これは隣の鳥取県の話なんですけども、境高等学校という学校があります。これが立教大学へ180人ぐらい入るんですね。ここは立教大学への推薦入学というのが学問分野だけで3学部あるんだそうですわ。だから、大阪経済大学へ集団で行くというようなのが、数は30だろうが20だろうが、あればいいなぁと思ってます。その境高等学校というのも、立教大学へは20年ぐらい前はほんの7、8人しか行かんかったのが、なかなか試験が難しいにもかかわらず、集団的に入学するんですね。

大丁　もともと母校は地味な大学でしてね。昔からあんまり派手な大学ではないんですけどね。

小林　最近の若い人は、私の娘も今年入ったんですが、やっぱり総合大学にどうしても魅力を感じるんですね。魅力を感じるし、有名というかね。

藤井　本当に皆さん感じておられるとおりなんです。いろんな意味で現代はPRをしていかないと取り残される時代ですから、新聞見ても何で母校の名がないのかなあと、ずっと何年も前からそのことを思って、一度これは言わないといかんと思ってたんです。いい機会ですから、いろいろ事情もあるようですが、やはり企業も人手不足という時代ですから、いつの日か学生が不足するという事態にもなりかねませんので、常日頃から手を打っていかないと間に合いませんから、特にそれを今回お願いしたいと思うわけです。

予備校にも入学案内を

大丁　もう入学案内はできているでしょう、来年の。

波根　もうそろそろ出来上がります。

大丁　うちら予備校ですけど、私立大学から入学案内を何も言わないのにまとめて送ってくる大学が何校かあるんです。ですから、大阪経済大学でも10部か20部程度各予備校に送ってもらうと、それも一つのいいPRになりますから、ぜひこの点もお考え願いたいなとおもいます。

高橋　高等学校には送っていただいてます。今年の新しい入試制度は既に来ています。

大丁　うちには大阪経済大学は送ってきてないね。うちの予備校は割愛で、数のうちに入ってない(笑)。

高橋　最近、母校の入試制度も工夫されておりまして、A方式という英語のみの試験ができましたね。従来のB方式にも数学が入るという形で入試制度ではいろいろご努力されておると思います。

なお、今後キーワードで大学を考えると、「自由化」という形に入っていくんじゃないかと思います。それに伴って大学自身で自己評価をしなさいという方向になってくるわけです。そういう意味では、今後、大学間の市場競争の原理といいますか、競争の時代に入っていきますので、やはり母校においてもそういった流れに対応して、PRの問題もありましたけれども、根本的に学内的な対応をどのようにされていくかということを一度伺いたいなという希望を持っているわけです。

マスコミに名物教授を

小林　それとPRの話ですが、私はマスコミの末席を汚しているんですが、やはり各大学に名物教授というのがいらっしゃるんです。この話についてはあの先生に聞いたらいいとかね、そういうことを最初は大学側から積極的に売り込むとか、山口でしたら私はご協力するんですけど、例えばこの間の証券補塡問題の話でも、ぱっと大阪経済大学の誰々先生が専門だからコメントを取るとか、そういう先生が何人かいらっしゃると、ずいぶん違うんですよ。

高橋　看板教授という意味では西山先生という名前をよく新聞で見ますね。ぜひ、ああいう先生方がふえてほしいなという感じがしま

すね。これは非常に大学のPRになるんじゃないかと思います。

津田　学校の規模は今後どういうふうな方向に進んでいきますか。いまのままじゃあ、もう狭くて狭くて、いけんのじゃないですか。生駒のほうへ思い切って行ったらどうですか（笑）。

大丁　京都にあります橘女子大学が「京都」と上へ名前をつけただけで非常に受験生が殺到したというご時世でございますので、大阪経済大学もひとつネーミングを替えていただきたいと思います。何か大阪経済大学というと非常に男の大学で、しかも骨太の子しか行かれないような大学の名前ですから、横文字を使うとか何とかして、人寄せを考えるのも一つの方法ではないですかね。

高橋　それと、国際交流についても今後力を入れてほしいですね。

津田　現在、留学生はどのくらいおりますか。

波根　正規の留学生は現在いません。学内にその国際交流を検討する委員会をつくり取り組んでいる最中です。学園マスタープラン、それから新設置基準に対する委員会等、学内でも対応がなされてきていますので、近いうちに母校の将来計画が発表されるはずです。

大丁　その中で帰国子女対策なんかもお考えになってますか。

波根　国際交流の中で考えています。

公開講座と地方での大学行事

小林　先ほどから批判的な話ばっかりしましたけれども、市民講座が始まりましたね。あれは非常にいいと思いますね。

高橋　公開講座の実施もそうですが、まとめが本になりましたですね。あれをこの間いただいて帰ったんですけど、「やっぱり経大の先生方はすごいな」と言うて、富山の同窓生はすごいんですが、公開講座の後、すべての方が参加されない場合もありますので、大変でしょうけど、まとめをできるだけ出版された方がいいんじゃないかという感じがします。

波根　講座のまとめが、本として蓄積されなければもったいないですね。

小林　ああいうのはこれからも続けてほしいですね。

大丁　軽音楽とかいろんな学生サークルがございますね。僕らが何年前だったろうか、20年ほど前に福井で経大のマンドリンの演奏会をやって非常に好評を得て、また3年か後にまたやったんですが、それでぴたっと止まってしまったんです。そういう学生のクラブの地方公演なんていうのは今も盛んにやっておられるんでしょうか。

波根　盛んじゃないと思います。それと、我々の時代は学生間に県人会組織があったでしょう。例えば福井県人会が何かやろうというときには、そういうクラブを地元に引っ張って行った。今はそういう県人会組織がなくなってきていますね。

小林　やっぱり同窓会で受入れないとしょうがないでしょう。

大丁　あれは大変でしたけど、やりがいはありました。面白かったんですけどもね。

波根　各クラブの合宿は関西じゃなくて、あっちこっちでやってるんです。それをもうちょっと援助・活用してはと思いますね。

小林　結局、大学が何かする時は、やはり地元のマスコミに知らせてやらないとわからないですから、そういうのは大学サイドのお仕事じゃないかと思います。

津田　私などの県は小さい県ですから、同じ町にしましても、物事をやるときに必ず記者クラブに連絡するんですわ。例えば会報みたいなものがあれば、そこへ必ず送るんです。

座談会風景

それで記事を全部取ってくれる場合と、取ってくれん場合がありますけど、その記者クラブには各社の記者が皆おりますから、わりに掲載してくれる率が多いんです。大阪なんていうのは広いから、記者クラブへそんな情報を流しても、なかなか取り合ってくれませんかね。

柚木　細かいことでもいい。根気よくずっと続けることです。私いつも思ったり言ったりするんですけども、結局PRの方法なんていうのは頭から金槌でぶん殴る方法と、後ろからさわるかさわらんかわからんけども背中をさわるとか、コツコツってね。はたしてどっちがPR効果が長い目でみたらあるかというのは、ひとつ考えるところだと思いますよ。小さいところでも、そういうような意味で根気よくやっておられるところがありますからね、我々と同じメーカーなりいろんな店でもね。

大丁　福井でも大学の説明会があるでしょう。どうしても行かれないときには、向こうから来るんですわ。大学の担当者の方が、昨日おみえにならなかったからといって、入学案内を持ってね。そういう努力もやっぱり必要でありますし、それにはまずそういう会合にも絶対参加してもらいたいということです。

数学の充実と学生気質

高橋　ですから、今後減少期を考えるときに、推薦入学制度そのものをもう少し枠を決めて、指定校推薦の枠をさらに広げるとか、一芸推薦あたりも取り入れてもいいんじゃないかと思います。

　それから、現在経営情報学科増設に伴って実際に良い設備はあるんですから、あそこらあたりの実際の実習状況とか、高等学校の先生方も参加されたサマースクールの話がありましたけども、もっとPRしてもいいんじゃないかという感じがしますね。

高橋　努

小林　PRの方式は、これはある程度僕たちがない知恵をはたくよりも、どんどん広告代理店に出して、例えば電通なんかね。それで総合PRする方法も勧めてみてくれと言われて来たんですが、いまの事務局長の話を聞くと、ちょっと桁が違う（笑）。

柚木　先ほどからの「PRの声」というのは、これは全国に共通する声でしょうね。

高橋　それと、やはり時代の要求というのは例えば環境問題あたりは不可欠に進んできますし、あるいは情報公開であるとか、もっと身近でいくとスポーツと社会とか、いろんなテーマについて、先ほど公開講座の話もありましたけども、学生諸君のカリキュラムの中にも新しい時代の変化に対応できるような講座等を開設していただきたいと感じますね。

津田　いま大体学生はどういうことを考えてますか。

大丁　いちばん難しいね（笑）。

津田　ただ先生方のいろいろなノウハウを聞いて理解しておるんでしょうけども、どういう考えを持ってるんでしょうかなぁ。

チアーリーダーが誕生

波根　最近では学生自治会のない大学がふえてきていますが、母校には自治会があります。そして、女子学生の間に自然発生的にチアーリーダーの活動が始まり、野球はじめいろんなスポーツで母校チームの応援をし、頑張ってくれています。

津田　学生自身で発行する機関誌のようなものがありますか。

波根　学生新聞とゼミ協の機関誌がありますが、低調ですね。放送部もね。

津田　新聞も残っておるんだけど、あまりそういうような所で自分の意見を発表するようなことはしてないんですか。

波根　発行回数がちょっと減ってますね。そういう意味では昔のほうがこじんまりとして充実していましたね。最近ではそういう組織すらでき憎いですね。

柚木　そういう話を聞きますと、やっぱり先

ほどから北陸あたりでも吹奏楽とかマンドリンクラブとか何回か来ておったんですけども、それが止まるなんていうのは、その部だけじゃないんで、全体的にそういう傾向なんですか。

大丁　いまの若い人の考え方が、どうしても楽な方向、楽な方向というのへ流れてますからね。僕らもあんまり偉そうなこと言われないんですけど、現在の出席率の状況やら、出席してもぺちゃくちゃしゃべるとか、そういう学生はふえてますか。

波根　出席率はよくなってると聞いてます。

司会　女子がふえたからでしょう。

藤井　女子はふえてますか。

波根　ふえてます。４００人を超えました。だんだんふえる傾向にあります。

津田　大体我々のときは少なかった関係もありますが、みんな真面目な人でして、ノート借りるのは女の子のを借りてたら間違いなかった。

教育には金がかかる

高橋　いまは女子単独の大学というのは、だんだん後退してますね。やはり共学指向だと思います。また、本来共学がお互いに助け合ってやっていくというのはいいことだと思いますし、学問の研究もそのほうがいいんじゃないかと思いますね。

小林　だから総合大学が人気あるんですよ。

柚木　各地にそれぞれ何とか経済大学というのがありますね。たくさんあるでしょう。少なくとも私らの時分のころからみると、本当にちょっとしたところにみんな何とか経済大学というのはあるんじゃないですか。

津田　いま、授業料はどのくらい払うんですか、一人の学生が。

波根　授業料は我々の時代は非常に安かったんですけど、いま世間並みになっています。

田所　入学年度が94万円です。

小林　しかし、まだ安いですよ。世間相場は100万円超えとるもんね。

田所　入学金から授業料など在学中のトータルで、一人につき大体310万円で卒業できます。

津田　文部省はどのくらい補助金を出してますか、一人の学生について。

田所　いま6千人に対して大体4億円ですから、一人につき6万円ですか。

高橋　同系の大学で授業料１００万円という大学が多いですね。ですから、広告費足らんから授業料上げろというわけじゃないですけども、教育にはお金がかかる場合もありますので、やっぱり思い切って。学生の考えもあるでしょうけど、やっぱり裏付けも大事だと思います。

波根　我々の学生時代は学費も安いし、国公立的な真面目な大学というのが特色であったと思うんです。だけど、いまはもう国立がちょっと人気ないぐらいですから、そういう私学的経営方針の方が今様風であり、安かろう悪かろうではなく、大きく、美しくなんでしょうかね。

小林　いまでは大学の進学を決めるときに、学費では決めないでしょう。

津田　しかし、我々はいい時代でした。いま、試験の問題出されて、本当に試験受けたら大阪経済大学には入れんわ。

柚木　入るどころか問題も読めませんわ。私、毎年問題を見てますけど(笑)。

津田　いま難しいなぁと思うね、解答編が出てますが、難しいなぁと思います。

推薦制度と地方試験

小林　浪人と現役の比率で浪人が高いというのは、やっぱり難しいということなんですか。

波根　第一志望で狙っている大学へ入れなくて、どこでも浪人率が高くなるんでしょうね。そういう意味でも推薦制度を取り入れての現役学生の受け入れが重視される傾向にあります。あまり浪人がふえると学生の雰囲気が沈滞し、受験地獄の延長線となりますから、そういう意味でも推薦制度は必要だと思います。

大丁　しかし、一浪の推薦枠をだんだん採用する大学がふえてきましたからね。一浪でもオーケーという大学が。それもちょっと考えてもらわないといけないでしょうね。

波根　予備校推薦制度ですか。

大丁　予備校推薦というのはまだ白鴎大学の一つしかありませんが、いままでだったら推薦は現役だけと決まってましたけど、一浪でも可という大学が徐々にふえてきてます。

波根　入学辞退の調査なんかしても、大体私学だったら関関同立とか京産、甲南、龍谷のあたりですね。両方合格した場合逃げるケースがふえている。我々の時代は入学辞退理由

に国公立もあったが、国公立とうちへの併願はほとんど無くなってきている。

津田　現在、入学試験は大阪と広島と東京と3ヵ所ですか。

柚木　福岡、広島、姫路、高松、大阪、金沢、名古屋、それだけですね。まだありますか。

来年度から東京でも入試

波根　今度、東京が一つふえたんです。

大丁　金沢でもやってるんですか。

高橋　金沢では随分以前からやってます。

大丁　知らなかったねぇ(笑)。どこの会場ですか、会場は。

高橋　北陸三県ですと、昨年度では石川は80名、福井が65名、富山が50名なんです。ですから、もう少しＰＲしたらいいですね。

柚木　会場はいろいろ変わったんですけども、現在落ち着いておるのはＭＲＯ会館（北陸放送）。大丁さん、知らなかった。

大丁　知らなかった。こんな商売していて申しわけないけど(笑)。

高橋　いまご出席の島根で65名ですね。山口で１１０名、鳥取で83名ですか。ですから、これもやっぱりＰＲするともう少しふえそうな気がします。

小林　それは受験生ですか。

高橋　受験生です。

大丁　合格者は少ないでしょう、非常に。

高橋　合格は大体10名前後ですね。厳しいですね。

小林　それだけ難しく、各大学と肩を並べておるんだから、もっと名前が有名になってもいいんじゃないかと思いますね。

津田　入学試験は2月のはじめですか。1月の終わりですか。

柚木　2月の9日、10日。

波根　2月9、10日はそのまま固定していますが、来年度から大阪だけとなり、地方試験はＡ方式で早くやります。2月1日に。

高橋　あれはいいですね。英語だけの試験というのは。これは英語を使わないとやっぱりわかりませんので、いい制度改革だと思いますね。

　ところで、合格発表は地方紙に全部出してますか。聞くところによると、出てないそうですね。

小林　やっぱりマスコミとお金ですよ。紙面の60パーセントがＣＭ料ですからね。ＣＭと考えてお願いするしかないですね。

高橋　紙上参加だけのそういう説明会もありますので、そういう形でも参加していただいていいんじゃないですか。そうすると、みんな担当者は個々の資料を持って帰りますのでね。

小林　全国各県でこんなことやられたらたまらんでしょうね。

高橋　大変なんですね。ただ厄介なことに、関西有名私大というふうに、そこが問題なんです(笑)。

大丁　それは言えますね。有名でなくなってますね。

大学同士のお付き合いも

小林　この間、50周年祝賀会のときに、私、田所事務局長の依頼で司会をさせていただいたんです。その時感じたんですが、近隣の大学との付き合いが悪いんじゃないかと思ったんです。というのは、来賓として来ていただく他大学の学長さんが極めて少ないんですね。普段からお付き合いしていないから、向こうも来てくれないんじゃないかというような気がするんですが、やっぱり大学同士でもお付き合いするというのが、真面目もいいんですけども、やっぱり必要じゃないかと思うんです。

田所　おっしゃるとおりです。

司会　どうも本日は貴重なご意見を本当にありがとうございました。この後、オブザーバーの先生方を囲んで、更にお話し合いいただきましょう。

司会・鶴谷利一

'91経営情報学科生大アンケート

～第1期生はどんな学生?～

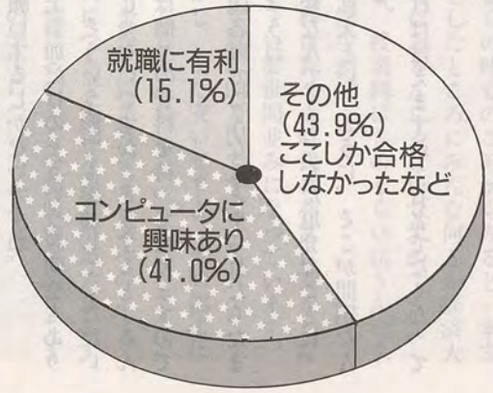
嫌いな科目ベスト3	1位	英語
	2位	独語
	3位	中国語

好きな科目ベスト3	1位	情報処理実習
	2位	情報処理概論
	3位	体育実技

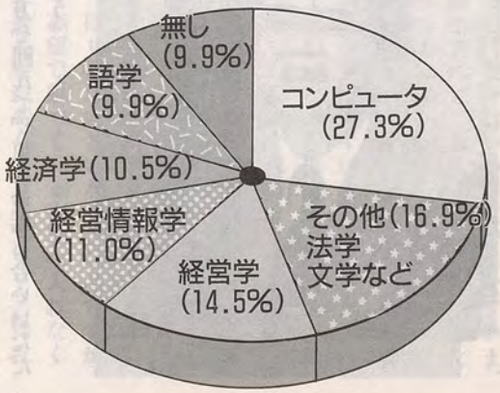
どんな社会人になりたいですか

- 立派な社会人
- 楽しい社会人
- 物事にこだわりを持った社会人など

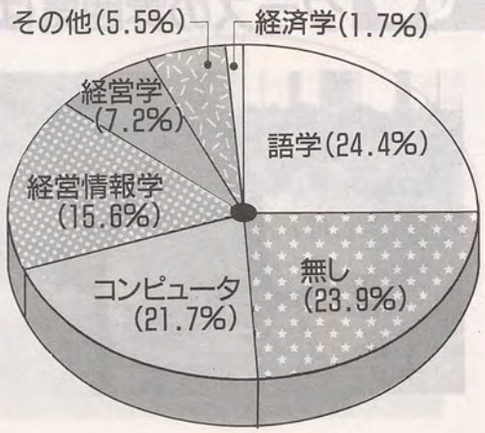
Q1 経営情報学科を選んだ理由



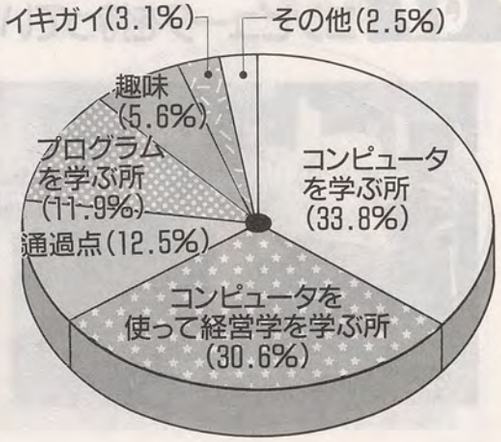
Q2 入学前したかった勉強



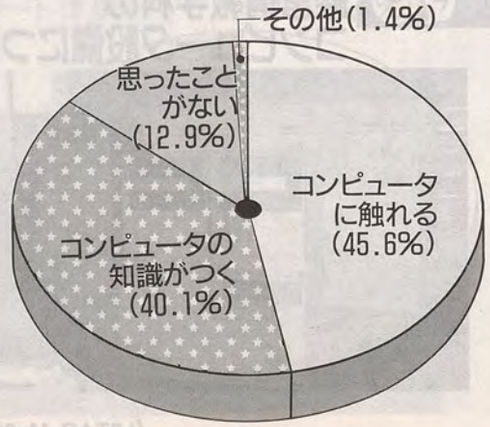
Q3 現在している勉強



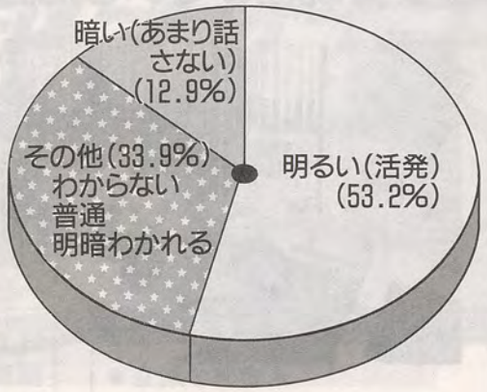
Q4 経営情報学科とは



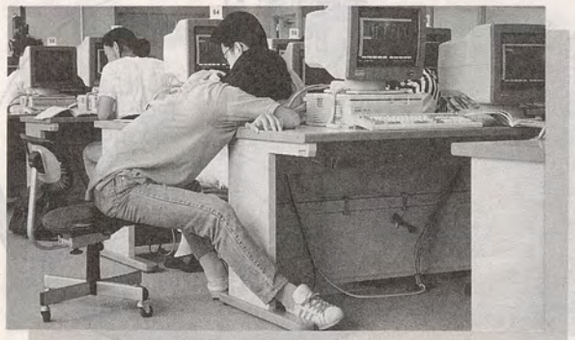
Q5 経営情報学科に入って良かったことは

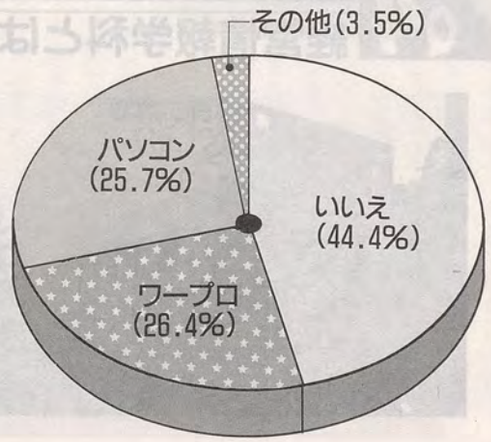


Q6 クラスの雰囲気は

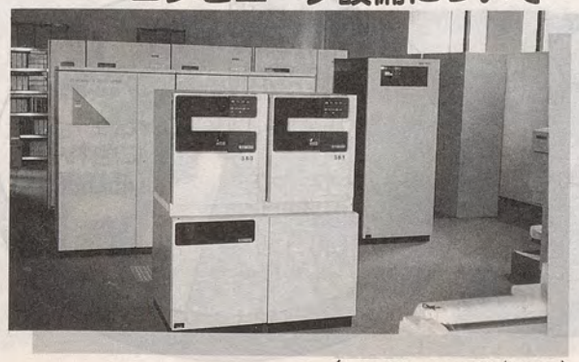


Q7 コンピュータを持っていますか

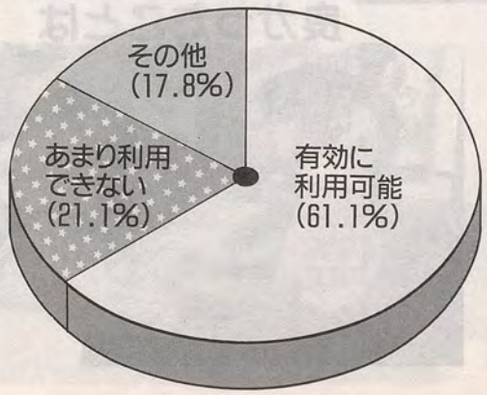




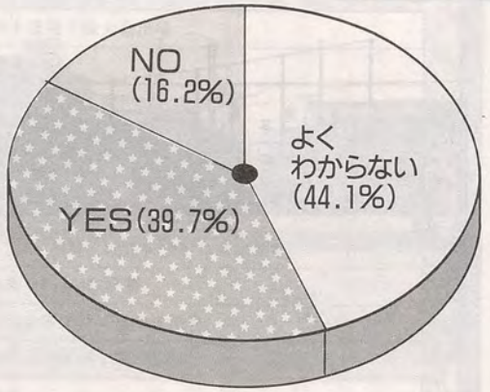
Q8 経営情報学科のコンピュータ設備について



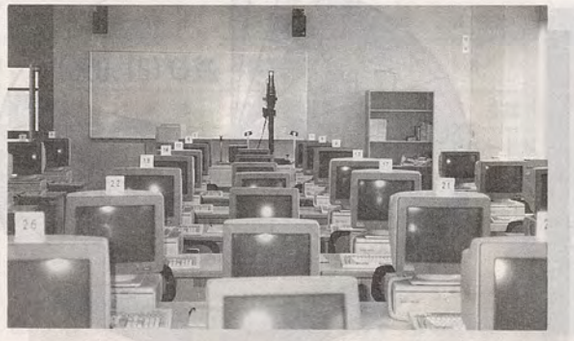
(HITAC M-660/120E)

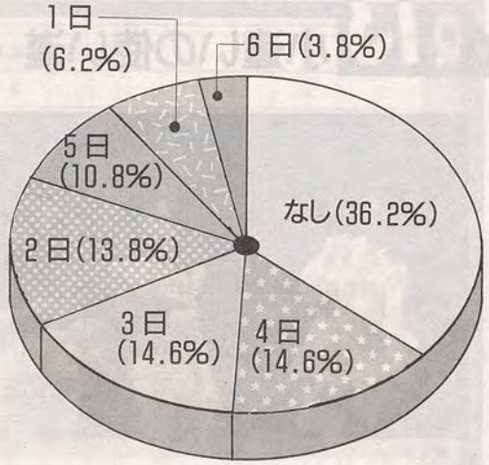


Q9 将来コンピュータ関係の仕事をしたいですか

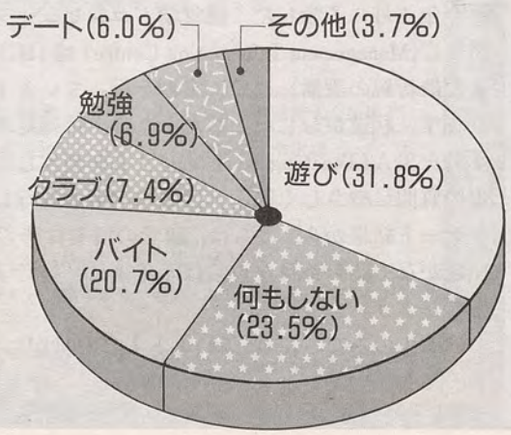


Q10 1週間のバイト日数は





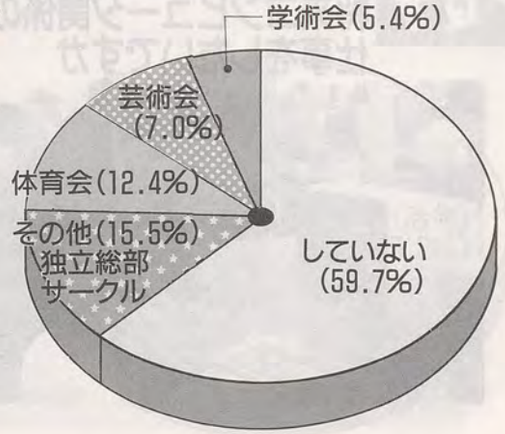
Q11 休みの日の過ごし方



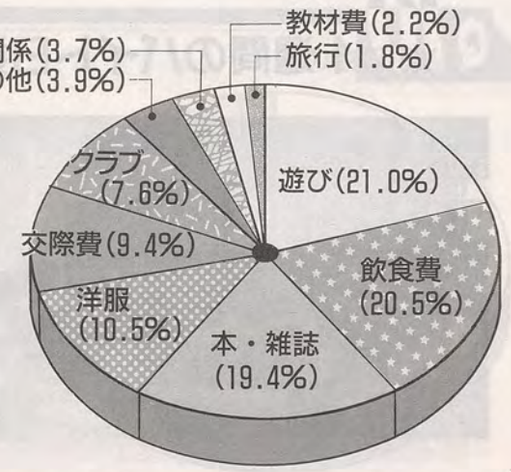
平成3年度クラブ戦績

空手道部	西日本学生空手道選手権大会出場　全日本大学空手道選手権大会出場
日本拳法部	全国大学選抜選手権大会出場
柔道部	全日本学生柔道優勝大会出場　関西学生柔道選手権大会　ベスト8
剣道部	西日本学生剣道大会　ベスト8　全日本学生剣道選手権大会　三好隆宏出場
合気道部	全日本合気道演武大会出場
少林寺拳法部	関西学生少林寺拳法大会出場
硬式野球部	関西六大学野球春季リーグ戦　第5位　秋季リーグ戦　優勝　明治神宮野球大会出場
準硬式野球部	近畿六大学準硬式野球春季リーグ戦　第2位　秋季リーグ戦　優勝
硬式庭球部	関西大学対抗テニス2部リーグ戦　第3位　全日本学生テニス選手権出場
軟式庭球部	全日本学生軟式庭球大会　ベスト8　関西学生秋季リーグ戦1部　第3位
サッカー部	関西学生春季リーグ戦　1部　第7位　秋季　第6位
ラグビー部	関西大学ラグビーAリーグ戦　第6位
ハンドボール部	関西学生ハンドボール春季リーグ戦1部　第2位　秋季優勝　西日本学生ハンドボール選手権大会　第2位 全日本学生ハンドボール選手権大会　出場
卓球部	関西学生春季リーグ戦2部　第2位　西日本卓球選手権大会出場
バスケットボール部	西日本学生バスケットボール選手権大会　ベスト8
バレーボール部	関西学生春季リーグ戦　3部　優勝　2部昇格
アメリカンフットボール部	近畿学生選手権大会　ベスト8
ボクシング部	近畿学生ボクシングリーグ戦　3部　第3位
陸上競技部	出雲くにびき全日本大学招待ロードリレー　第17位 全日本大学駅伝　第18位　関西学生駅伝　第5位　関西学生秋季大会　100m　寺村　200m　大川優勝
バドミントン部	関西学生春季リーグ戦1部　第4位　全日本学生バドミントン選手権大会出場 関西学生選手権大会ダブルス　今井・伊藤組　優勝
自転車部	(サッカー班)関西学生春季リーグ戦　1部　第5位 関西学生サイクルサッカー選手権　久保・越智組　優勝(全日本学生選手権　第3位) (レース班)西日本大学対抗選手権　第3位
山岳部	穂高岳合宿　北アルプス後立山縦走
アイススケート部	(フィギュア)関西学生氷上フィギュア新人競技会　石村雄志　優勝 (スピード)関西学生ショートトラックスピードスケート選手権　総合　第6位
ゴルフ部	関西学生男子2部校対抗戦　第5位
スキー部	全関西学生スキー選手権大会　2部　第9位
カヌー部	大阪学生カヌー選手権大会出場　浅岡・橘組　優勝　日本カヌーレーシング選手権大会出場
自動車部	全日本学生ジムカーナ選手権大会出場　全日本学生ラリースプリント選手権大会出場
ヨット部	関西学生ヨット選手権大会出場
洋弓部	関西学生アーチェリーリーグ戦　2部　第3位
重量挙部	西日本学生新人ウェイトリフティング選手権大会　52kg級　芦高数宏　優勝
水泳同好会	マスターズ短水路　大阪大会　200m個人メドレー　橋本誠也　優勝 大阪学生選手権水泳競技大会出場

Q12 クラブ活動はしていますか



Q13 小遣いの使い道



アンケートにご協力いただきました西山先生(情報処理概論)ありがとうございました('91年7月実施)。

あとがき

今年4月に入学した〝経営学とコンピュータの間に出来たアカデミック・ハーフ〟学科の学生達はＭＩＣ(Management Information Centre)館(HITAC　Ｍ６６０／１２０Ｅという大型コンピュータを備えた最新鋭の設備)にて、実習を行っています。全教室は、モニターで監視され、なんと音声まで入ります。私達がおじゃましたときは、情報処理実習Ⅰが行われていました。この授業の特徴は、教員1名をＴＡ(Teaching Assistant)2名が補佐している点です。ＴＡの釆山氏と平田氏は、方々から出る学生の質問にやさしく答え、授業の円滑な進行に大いに貢献されております。実際にみた授業風景とアンケート結果から、彼らは、語学の授業に苦労しながらも、実習には熱を入れている様です。明るく、屈託がなく、お茶目な彼らは4年後に「経営学とコンピュータはまかせてよ」と、胸を張っていることでしょう。

同窓生のみなさん、新学科とともに21世紀に大きく飛躍しようとする彼らを暖かく見守って下さい。

(担当)藤原 広太郎・川崎 章

同窓会本部だより

来年度の創立60周年に向けて

同窓会会長　磯野　斉

東西ドイツ統一、湾岸戦争、ソ連邦崩壊、バルト三国独立と21世紀を控えて、国際情勢は、人間の知識経験を遙かに超えて測り知れない速度で変貌しておりますが、欧州諸国のわが国に対する経済的支援の期待は、今後一層加重するものと思われます。グローバルな情報化がすすみ、ますます情報関係技術者の育成が待望される時期に、母校は文科系大学の施設としては、稀にみる最新装置と誇るべき教授陣によって経営情報学科を開設し、激甚の競争試験に合格した学生達が、目下理論と実技の修得に励んでおります。

この記念すべき新学科開設にあたり、同窓会では大学当局の意向を打診して協議を重ね、年初以来記念事業募金活動を開始しましたところ、早速全国各地からご協力を頂き、お陰さまで目標額を大きくこえることになり、9月末で募金活動を終了させていただきました。これひとえに会員各位の熱いご支援とご期待によるものと厚く御礼申し上げます。

現在、母校には国際的彫刻家として著名な流政之先生の「風」と「雲」の2作品が異彩を放っていますが、この募金によって第3作が経営情報センター中庭に設置されることになります。来年は母校の創立60周年に当りますから、大学の行事が重なり盛大な記念祝典が開催されることになりましょう。

湾岸戦争を契機に英語の国際語としての必要性が改めて認識され、わが国においても、第2の日本語的傾向を強めておりますが、大学ではこの点に着眼し、前述の経営情報学科に続き、画期的とも言うべき方策を来年の入学試験にとりいれました。それは従来の試験施行日とは別に、2月1日に英語1科目の試験によって合否を決定するというもので、国際化の加速する中で母校の時宜に適した決断を高く評価し、その成果に注目しております。

近年とみに活況を呈している支部長会を理事会や総会以外の日に開催して欲しいとの要望にこたえ、本年は学長、理事長両先生をお迎えして宝塚ホテルで開催しましたが、真剣な意見が続出し、極めて意義深い会合になりました。

次にお伝えしたいのは、昨年の岡山支部に続いて本年は香川支部が40周年を迎え、高松ホテルリッチに50名をこえる会員が集まり、記念パーティを開催しました。結成から今日まで香川支部発展に尽力された松原、水野、矢野3支部長の表彰が行われましたが、この記念式典を前に初代松原支部長が急逝されたこと、まことに残念に思います。

また、長らく懸案になっていた会計人会が「大経大税理士大樟会」と命名され、鈴木理事長、田所事務局長のご臨席のもとに同窓会ホールにおいて創立総会を開催しました。会員85名の参加を得ましたが未加入会員の参加ご協力によって、大きく交流の輪が拡がるよう期待しております。

さて、平成2年度決算、3年度予算につきましては例年の如く6月22日全国からの支部長、理事、監事、100名のご参加を賜わり、全議案すべて滞りなく可決確定されました。ここに厚くお礼申し上げます。

おわりになりましたが、公私ご多忙の中『澱江』の編集に少なからぬご尽力を頂いた方がたに深謝申し上げますとともに、全国5万3千余名にのぼる同窓生のご健勝とご多幸をお祈りいたします。

（平成3年9月）

平成3年度理事会盛会裡に終了

◆日　時　平成3年6月22日(土)
午後6時開会

◆場　所　新阪急ビル12階、レストラン・パレス会議室

◆定刻午後6時陰下事務局長の司会で開会

◆磯野同窓会会長が元気で再会出来たことを喜び、日頃の同窓会運営に対する協力に感謝の意を表し、また、経営情報学科の新設を称え、それに伴う記念事業として鈴木理事長のご希望もあり、今や母校のシンボルともいえる世界的彫刻家流政之氏の彫像「雲」「風」に続いて、今一つ同氏の彫像を新しく完成した経営情報学科の専用学舎（F館）の中庭に寄贈することとして募金協力をお願いしたところ、既に目標額を突破する協力を得たことに心から感謝する旨の挨拶をされた。

続いて、磯野会長を議長に選任して議案の審議に入った。

◆第1号議案　平成2年度決算について

中村財務部長（31）が平成2年度収支決算の各項目について詳細な説明を行ない、続いて山上監事（2）から監査報告が行なわれ、本案件は満場一致で原案通り承認可決された。

◆第2号議案　平成3年度予算（案）について

神田総務部副部長（30）が平成3年度予算（案）について詳細に説明を行ない、特に今年度は前年比約12％の収入増が見込まれるので「特別基金組入」700万円を計上したこと、また、名簿発行準備金200万円を計上したことなどを説明し、本案件は満場一致で原案通り承認可決された。

◆第3号議案　その他

特別の動議・提案なし。

以上を以って平成3年度理事会は終了し、議長は閉会を宣した。

◆学校当局からは鈴木理事長、山本学長、上島教務部長、松原就職部長、田所事務局長、中田大学事務部長、香積総務部次長に来賓としてご臨席いただき、鈴木理事長、山本学長からご丁重なお祝辞を、松原就職部長からは今年度の就職状況を詳しくご報告いただきました。

◆懇親会

上島教務部長の乾杯で開宴し、例年のことながら和やかな雰囲気のうちに予定時間は瞬く間に過ぎさり、田所事務局長の力強い万歳三唱で午後9時閉会し、来年の再会を約して三々五々散会しました。

平成3年度同窓会総会華やかに開催

快晴に恵まれた11月3日（文化の日）、平成3年度同窓会総会が、来賓として鈴木理事長、山本学長、田中後援会会長はじめ現・旧教職員方多数のご臨席を得て盛大に開催されました。

午前11時、中村総会特別委員会委員長の開会の辞。

磯野同窓会会長の挨拶に続いて鈴木理事長、山本学長からお祝いの言葉をいただき、来賓紹介の後、母校の経営情報学科の開設をお祝いして磯野同窓会会長から鈴木理事長に対して、記念事業募金による流政之氏作の「風」「雲」に続く第3の彫像寄贈の目録贈呈が行なわれました。

セレモニー終了後、経営情報学科新学舎（F館）見学に続いて、今夏改装された学生会館食堂で懇親会が開かれました。

今年は3連休のうえ、当日が大安吉日ということもあって、諸々の行事と重複した会員も多く、参加者は昨年よりやや少なかったように思われますが、在校生諸君のクラブ活動が目覚ましく、会員諸氏の喜びもひとしお大きく懇親会場の雰囲気は例年以上に華やかなものとなりました。

先ず、母校の硬式野球部が11年ぶりに「関西六大学硬式野球秋季リーグ優勝」のうえ、関西地区大会で明治神宮野球大会出場権獲得の快挙を成し遂げ、また、ハンドボール部が「関西学生ハンドボール秋季1部リーグ優勝」。

更に、準硬式野球部が「近畿六大学準硬式野球秋季リーグ優勝」と運動各部の活躍が目立ちました。

懇親会の冒頭、優勝の喜びに沸く各クラブの顧問・監督・キャプテン等から優勝に至るまでの経過報告が行なわれ、優勝各クラブに対して、磯野同窓会会長からお祝いが贈られました。

続いて、優勝の喜びに沸く華やかな雰囲気の中で鈴木理事長、山本学長、渡辺同窓会名誉会長、磯野同窓会会長によって恒例の鏡開きが行なわれ、萩原顧問の乾杯で懇親会場の雰囲気は一気に盛り上がりました。

2時間の予定時間は、歓談の名残つきないまま一瞬のうちに過ぎ、最後に母校の益々の発展と会員のより一層の健勝を祈念して、桑津顧問の音頭で万歳三唱し、来年の再会を約して散会しました。

募金目標額　大幅に突破!!

（募金総額　12,039,650円　547名　15団体）

「経営情報学科の新設を祝い、卒業生の手で記念モニュメントを建設しよう！」を合言葉に実施した記念事業募金は、おかげさまで無事目標額を達成することができました。ここに厚くお礼申し上げ、芳名録をもってご挨拶といたします。

経営情報学科新設記念事業委員会

募金芳名録（卒回・五十音順　敬称略　単位円）

第1回（昭和10年卒）
宇野善四郎 100,000
内田　真二 10,000
大久保義三 20,000
山下　三吉 5,000

第2回（昭和11年卒）
山上　善彦 50,000

第3回（昭和12年卒）
磯野　斉 500,000
大西　隆蔵 10,000
加茂　清重 10,000
河野　盛志 10,000
木野伊三郎 10,000
長谷川繁信 10,000
中元　大輔 10,000
中村　宗啓 10,000
二宮　清次 10,000
福井　尚吾 10,000
藤本　孝次 10,000
法貴　道礼 10,000
村中外次郎 10,000
吉田　義高 10,000
山崎皖一郎 10,000
呼友会（3期生会） 20,000

第4回（昭和13年卒）
三木　薫 30,000
宮平　盛助 10,000

第5回（昭和14年卒）
阪本　克已 20,000
長岡　辰生 20,000
松本　旬弘 50,000
安田　光雄 7,500

第6回（昭和15年卒）
阿部　英臣 5,000
伊藤音七郎 50,000
内田　甫 20,000
永川　仁一 10,000
榎本　武文 5,000
大森　侃二 50,000
大森喜太志 50,000
黒川源太郎 5,000
杉浦利八郎 5,000
戸田　秀親 10,000
土手　勘次 50,000
中川　克己 50,000
仲　哲彦 10,000
真野　晃 5,000
前田　和夫 10,000
増田　通夫 10,000
町井　清 50,000
三好　悌彦 10,000

第7回（昭和16年卒）
赤松英之介 5,000
秋元　淑男 10,000
石浜　欣弐 5,000
岩崎　武雄 10,000
亀井　弘勝 10,000
木村栄一郎 5,000
木山　弘 10,000
北川　勝一 5,000
田中　豊治 10,000
高尾　勝郎 5,000
高垣　収 10,000
内藤　喜一 10,000
西脇宏三郎 5,000
比企　重 50,000
真鍋　弘 5,000
前田　寿弘 5,000
松本　孝之 5,000
吉田　軍之 5,000

第8回（昭和16年12月卒）
市川　宏 5,000
岡田　清 5,000
梶村　文弥 100,000
河田　堤作 5,000
岸本貞二郎 5,000
串田　一 50,000
柴田　秀一 50,000
中浜　賢治 10,000
長尾　晃 50,000
丹羽　好輝 20,000
宮武　忠智 5,000
横川　英男 5,000

第9回（昭和17年9月卒）
栗野　孝之 5,000
井ノ口　実 20,000
飯田　秀二 5,000
岡村　一清 20,000
岡本　檜男 20,000
北尾　善郎 10,000
国重　嘉郎 30,000
栗原　三男 10,000
佐々木一義 50,000
佐野　義光 100,000
貞方　孝夫 5,000
須々木敏郎 300,000
坪内　敏男 50,000
長島　隆 10,000
南部　俊一 300,000
西沢　敏夫 10,000
堀口　太平 20,000
横山　宏一 50,000
横山　時夫 5,000

第10回（昭和18年9月卒）
今岡　敏雄 10,000
加藤　正秋 50,000
河盛　富三 10,000
北野　繁好 5,000
佐藤　功 10,000
武内　美次 50,000
竹内　泰 10,000
鶴田　昌弘 10,000
中島　孝志 10,000
西出　祐三 5,000
馬場　英一 20,000
萩原　市郎 500,000
服部　友一 10,000
桝井　貞詮 5,000
森田　善蔵 5,000
篭　源一郎 5,000
山本喜久郎 10,000
和田　勉 5,000

第11回（昭和19年9月卒）
岩谷　宣治 50,000
桑津　昇 100,000
鳴田　茂 5,000
重里　実 50,000
田中　秀直 5,000
武田　正 50,000
谷　修自 30,000
玉田　英男 5,000
筒井　英夫 50,000
西浜　健次 5,000
福岡　良治 5,000
吉岡　正二 10,000

第12回（昭和20年9月卒）
坂田　静三 5,000
定本　良重 5,000
高木　敬三 5,000
玉岡　浩 100,000
中張　幹三 10,000
難波　健治 10,000
樋口　錆三 10,000
藤原　大八 5,000
村上　一夫 10,000
森田　武徳 5,000

第13回（昭和22年卒）
奥村美智子 20,000
佐々木秀子 5,000
沢井千代子 5,000
鈴木美登里 5,000
田中美代子 10,000
前田　悦子 50,000
正木　とよ 5,000
母里　節子 5,000
和田　洸 10,000

第14回（昭和23年卒）
上野満里子 50,000
遠藤ふさ子 5,000
尾谷　耕平 10,000
柴田　悦子 50,000
二階堂順子 10,000
樋口　悦子 10,000
藤田富代子 2,000

第15回（昭和24年卒）
井口　淳 4,000
円増　浩之 10,000
数井　安子 5,000
黒田　稔 10,000
片山　俊男 10,000
小森　康司 10,000
田中　桂子 10,000
土田　明 5,000
中山　隆 20,000
松野　圭司 5,000

第16回（昭和25年卒）
加藤　宏 50,000
陰下　嘉典 200,000
高橋　時造 50,000
戸部　克已 5,000
中村　行男 10,000
西山　昭吾 50,000
福田　耕 50,000
松田　和祐 10,000
山本　和男 10,000

第17回（昭和26年卒）
大畠　恒夫 50,000
太田　一澄 10,000
岡本　良夫 5,000
桜井　弘志 50,000
相馬　士朗 50,000
中里　幸一 10,000
西尾　良明 15,000

第18回（昭和27年卒）
貝塚　茂 10,000
鮫島　圭 50,000
田中　昇一 50,000
田中　富三 50,000
浜淵　隆男 50,000
不二　一朗 5,000
松本　義和 100,000

第19回（昭和28年卒）
青野　修 5,000
井阪　健一 100,000
尾本　尚三 10,000
奥野　昇二 10,000
門田　弘敬 5,000
栗本　邦人 5,000
刀禰　啓一 10,000
土居　忠章 5,000
野尻　忠正 100,000
花田　茂 10,000
平田　五郎 10,000
牧田　安夫 10,000
森田　吉夫 10,000
山中　良夫 100,000

第20回（昭和29年卒）
小林　吾朗 5,000
古閑敬一郎 5,000
吉田　叡 50,000
和気　淳 5,000

第21回（昭和30年卒）
稲岡　俊晴 5,000
大上　雄二 5,000
久保田喜八郎 5,000
小林　崇男 10,000
榊　喜作 30,000
勅使河原文雄 5,000
中川　海治 10,000
中村　昭吉 5,000
間　敏幸 10,000
日野　英明 4,000
宮原　史郎 5,000
村上　修 5,000
柚木　繁 50,000

第22回（昭和31年卒）
笹野　彰夫 5,000
塩田　利一 10,000
谷口　一郎 110,000
松岡　英雄 10,000
松谷　嘉隆 100,000
三好　正夫 10,000

第23回（昭和32年卒）
足立　通夫 5,000
植木　隆導 10,000
海野　宏 10,000
小河　弘造 5,000
大供竹太郎 50,000
大野　順 10,000
大亦　章生 10,000
大橋　将二 5,000
大盛　豊一 5,000
岡田　斌 10,000
岡本　健也 10,000
奥山　哲朗 5,000
重松　尚 30,000
北本　伸二 9,000
久保　康夫 5,000
草野　泉 10,000
小松　安夫 10,000
古賀　達也 10,000
佐藤　昌良 5,000
坂口　良三 10,000
酒井　弘光 10,000
酒木　照雄 10,000
志水　利通 10,000
鹿内　健三 5,000
白山　実 5,000
塩月　孝 5,000
杉原　善美 10,000
関　昇 10,000
田中　利明 5,000
滝　重一 10,000
竹井　庸喜 10,000
巽　一郎 5,000
谷口　勝治 5,000
玉岡　良夫 10,000
塚本　勝美 5,000
西本　集一 100,000
林　茂 5,000
淵上　孝 10,000
本間　健介 5,000
前田　博史 10,000
室井　滋 10,000
矢井　久義 10,000
矢田　勁 10,000
山川　裕 10,000
山崎　康雄 10,000
吉岡　善吉 5,000

第24回（昭和33年卒）
清田康太郎 5,000
小谷　芳男 50,000
佐々木　明 10,000
鳴原　正孝 10,000
多田　幸雄 5,000
立花　美保 5,000
西林　泰嗣 10,000
馬場　末光 50,000

第25回（昭和34年卒）
井沢　善彦 5,000
小林　佳彦 10,000
杉岡　倫有 10,000
関　泰一 10,000
高尾　忠之 10,000
坪井　巌 5,000
西羅　隆之 10,000
水納　敏也 100,000
吉岡　善彦 10,000

第26回（昭和35年卒）
岩見　久男 5,000
小野　茂樹 100,000
小野　甫 10,000
香取　進 10,000
笠井　二郎 50,000
白井　正幸 50,000
隅田　豊彦 10,000
松本　孟 5,000
守屋　毅 10,000
諸田　治 5,000

第27回（昭和36年卒）
飯田　信孝 5,000
車野　修三 50,000
坂元　裕 5,000
田中　潔 10,000
錦　忠佐 5,000
平岡　宏和 50,000
平野　義雄 10,000

第28回（昭和37年卒）
大久保儀臣 5,000
勝山　文男 10,000
金丸　嘉徳 5,000
河南　信行 10,000
近藤　哲夫 50,000
高橋　理 10,000
鶴谷　利一 50,000
平尾　哲男 50,000
村田　蒿示 5,000
山本　雄三 20,000

第29回（昭和38年卒）
相木　和己 10,000
飯尾　貞雄 50,000
岩浅　哲夫 5,000
江村　育己 50,000
大門　寿郎 10,000
多田　静男 5,000
津秋　靖博 50,000
鄭　勢恩 5,000
長崎　和夫 10,000
日野　和明 5,000
丸山　俊明 5,000
米村紀代孝 10,000

第30回（昭和39年卒）
青木　和夫 10,000
石川　好貞 10,000
上野　陽一 5,000
大村　丈則 5,000
神田　博 50,000
木戸　俊二 5,000
小泉　俊夫 5,000
斎　貞文 5,000
堂上　邦夫 5,000
中野　昱 5,000
野内　利夫 5,000
隼瀬洋二郎 10,000
船引　洋生 10,000
前田　正志 5,000
三宅　正和 10,000
山本　耕二 5,000
横矢　晃行 5,000

第31回（昭和40年卒）
石井　俊生 5,000
小田　正敬 10,000
織田　武 5,000
荻本　真弘 50,000
木村　宣義 10,000
久保　富夫 55,000
小泉　孝一 5,000
塩見　道弘 5,000
高橋　義敬 10,000
辻本　清孝 5,000
中村　敏啓 50,000
坂東　徳二 5,000
真野　靖久 50,000
前田　勝利 10,000
前田　泰稔 10,000
安井　雅彦 10,000
山本　昭夫 5,000
芳浦　定年 5,000

第32回（昭和41年卒）
稲山　建男 10,000
上田　芳正 10,000
郭　順一 5,000
金丸　州男 10,000
高上　安史 5,000
高谷　政通 5,000
樽井　和夫 10,000
寺川　勲雄 50,000
波根　伸俊 50,000
藤井　享 50,000
本多　茂信 10,000
真鍋　一美 5,000
増田　政晴 20,000
美土路　永 5,000
山崎　勇治 10,000
山下　隆司 10,000

第33回（昭和42年卒）
荒瀬　勝 5,000
植田　洋治 5,000
岡　隆幸 5,000
岡本　任右 5,000
片山　徹雄 5,000
釜崎　忠明 10,000
小林　琢治 10,000
田中　治夫 5,000
高橋　洋 5,000
斎　美笑子 5,000
中井　秀行 20,000
西川　嘉紀 5,000
平沼　勇吉 50,000
前田　金男 10,000
前田　義務 50,000
森　政彦 50,000
山地　義夫 5,000
山仲　義秀 10,000
吉岡誠一郎 50,000

第34回（昭和43年卒）
井上　忠義 5,000
印牧　久 2,500
大塩　正伸 5,000
柏原　誠 50,000
川島　洋一 5,000
小西　広満 500
酒井　博史 10,000
高橋　努 10,000
冨井　昭博 5,000
西川恭三郎 5,000
長谷川篁博 3,000
三木　章 10,000

第35回（昭和44年卒）
市場谷楠雄 50,000
井上　隆夫 10,000
井上　弘 5,000
卯野　和夫 5,000
上田　善信 10,000
小野　隆 10,000
大西　紀一 5,000
木戸　淳一 50,000
木戸　保雄 5,000
栗谷　敏夫 5,000
国富　尚司 5,000
佐藤　実 7,500
塩尻　康勝 10,000
島村与志和 5,000
西山　芳雄 10,000
昼河　紀生 50,000
前川　英和 7,500
山岡　昭男 5,000
山本　才樹 10,000
渡辺　肇 12,500

第36回（昭和45年卒）
足立徳太郎 7,500
泉　俊一 5,000
奥　正信 10,000
片山　剛征 5,000
川崎　正皓 5,000
木村　宣久 100,000
城島　末明 5,000
末川　明男 50,000
鈴木　邦夫 5,000
二宮　学 5,000
西田　正孝 5,000
畠　輝雄 10,000
藤村　良昭 5,000
堀口　明良 5,000

第37回（昭和46年卒）
梅沢　一元 7,500
梶田　宣之 5,000
桑原　広倍 35,000
坂本　俊行 10,000
田口　豊 5,000
竹本　巧 5,000
千坂　哲郎 2,500
寺尾　正志 5,000
中谷　侃司 50,000
平井　義正 5,000
福元　輝雄 50,000
松田　伸一 5,000
湯川　勲 5,000

第38回（昭和47年卒）
井田　実 5,000
植田　富雄 10,000
木下　進 5,000
木村　力 5,000
楠　啓次郎 5,000
桜井　光雄 50,000
末広　薫 5,000
中南　喜視 5,000
藤原　五男 5,000
正岡　六衛 5,000
山田　康 7,500
湯浅　英雄 3,000

第39回（昭和48年卒）
梅原　敏郎 10,000
金沢　一滋 10,000
高須　恭子 10,000
津田　浩志 10,000
中尾　博 5,000
平　秀一 5,000
森田　修 5,000

第40回（昭和49年卒）
芦田　喜良 5,000
川原　茂 5,000
木村　政夫 5,000
坂井　義明 5,000
竹本　良昭 10,000
西川　潔 5,000
木綿谷幸治 5,000
山川　幸男 5,000
吉村　謙輔 10,000

第41回（昭和50年卒）
秦　寿一 5,000
南岩　順一 5,000

第42回（昭和51年卒）
足立　等 5,000
橘高　和之 5,000
倉田　昌幸 2,500
佐々木幹夫 3,000
西村　哲夫 5,000
前田　幸副 5,000

第43回（昭和52年卒）
永原　知康 10,000
原口　公一 5,000
前田真由乃 5,000
南　正治 10,000

第44回（昭和53年卒）
金子　実 5,000
川上　昭典 5,000
岸本　大 5,000
沓抜　正夫 5,000
田村　晃 5,000
津木　満史 5,000
中井　勝也 10,000

第45回（昭和54年卒）
新村　隆 5,000
森　義明 5,000

第46回（昭和55年卒）
清野　光造 5,000
高橋　和男 10,000
谷口　暢 5,000
本多　輝夫 5,000

第47回（昭和56年卒）
阿字地　亨 2,000
兼崎　巌 2,500
福原　誠 5,150
丸尾　弘人 5,000
三宅　孝治 10,000

第48回（昭和57年卒）
井関　豊 5,000
石井　克明 25,000
石原　貞信 4,000
大江　棟春 5,000
榊原　博 5,000
寺見富士男 10,000

第49回（昭和58年卒）
石川　徹 5,000
大原　正利 10,000
小林　光男 5,000
豆野　一彦 5,000
森本　欣治 5,000

第50回（昭和59年卒）
妻木　慶亘 5,000
藤林　靖浩 5,000
柳井　健治 5,000

第51回（昭和60年卒）
河内　良弘 5,000
玉置　浩之 50,000
西村　宏 5,000
前沢　泰弘 10,000

第52回（昭和61年卒）
谷　昭仁 2,500

第53回（昭和62年卒）
青竹　公明 5,000
歌野原浩一郎 50,000
日下　和也 5,000
小坂　朋弘 5,000
堀江　博志 5,000

第54回（昭和63年卒）
枝沢　省吾 5,000
小畑　久起 5,000
西内　英樹 5,000
西山　宇 5,000
藤原広太郎 5,000
森本　嘉則 5,000

第55回（平成元年卒）
逢坂　健一 10,000

第56回（平成2年卒）
石川　正晃 5,000
大田　正樹 5,000
香川　宝賢 10,000
田中　浩之 5,000
辻野　成博 5,000
鄭　明徳 5,000

その他
広瀬　孝子 20,000

団体
北海道支部 270,000
（支部長 田中喜三郎）
福井県大淀会 100,000
（会長　沢村 正宏）
大阪市役所支部 50,000
（支部長 矢野 吉徳）
泉南支部 100,000
（支部長 中川 克己）
淡路島支部 100,000
（支部長 宝川 雅嗣）
広島支部 50,000
（支部長 佐々木一義）
山口支部一同 50,000
（事務局 佐々木克彦）
島根支部 50,000
（支部長 渡部弘一郎）
香川支部 100,000
（元支部長 和田 憲明）
徳島支部 50,000
（元支部長 河野 昭夫）
熊本支部 200,000
（支部長 浜　忍）
幸福大樟会 300,000
（代表　坂口 良三）
中兵庫信用金庫大阪経済大学会
（代表梅垣嘉位） 55,000
日立大樟会 50,000
（代表　田中 富三）
八尾市役所経友会 20,000
（代表　松田 峰義）

平成3年度
全国支部長会宝塚ホテルで盛大に開催

◆**日　時**　平成3年5月24日㈮
午後2時から

◆**場　所**　宝塚ホテル

◆**出席者**
大学から
鈴木理事長、山本学長、渡辺理事（同窓会名誉会長）、田所理事（事務局長）、中田大学事務部長、同窓会から
磯野会長以下常任理事15名並びに北海道・東京（代理）・東海・岐阜・富山（代理）・福井・和歌山（代理）・奈良・大阪市・大阪市役所・北摂・豊中・泉南・尼崎・西宮（代理）・神戸・丹有・姫路・淡路島・岡山・備後・広島・山口・鳥取（代理）・香川・愛媛・徳島・北九州・南九州の各支部長。

◆**支部長会開催までの経過**
今年度の全国支部長会については支部長会幹事会において種々検討を重ね、特にかねてから全国支部長会を理事会当日とは別の日に開催したいとの要望が多く経営情報学科新設に伴う「記念事業募金」について各支部長に格別の協力をお願いした経緯もあり、今年は理事会以前に開催することとした。

当日は、筒井豊中支部長の司会で開会、野尻奈良支部長の「緑豊かな思い出多い地で開催される支部長会を有意義なものにしたい」との開会の言葉に続き、磯野同窓会々長から「従来は理事会当日に全国支部長会を開催していたが、多少時間的に無理があるようにも思われ、支部長各位の要望もあり2～3年に一度は別の日に適当な場所で開催するのも意義あると考え、今年度の全国支部長会の開催を決定した旨、並びに経営情報学科新設に伴う記念事業募金について絶大なる協力をいただいたことに対し感謝の意を表する旨」の挨拶があった。

続いて、八木西宮市長、中山西宮支部長の祝電披露の後、梶村支部長会幹事長を議長に選任し協議に入った。

◆**協議事項**

1　各支部の現況と運営について

毎年各支部で開催されている主な行事は総会、役員会、忘年会、新年会、地区会、職域会、若手グループの会等がある。

ユニークな行事としては、東京の経友会、金融・証券関係者の会、準備中の春秋会、富山の自然探究の会、広島の三水会、豊中の読書会等があり、特に東京支部から具体例をあげて、先輩が後輩の面倒をみることによって母校・同窓会の発展並びに活性化を図りたいとの発言があった。

2　全国支部長会のあり方について

①同窓会の発展を支援すること
②支部の交流を緊密にすること
③本部と支部の連携を図ること
以上のことを是認したうえ各支部長はそれぞれ努力目標として今後の活動を行なうことを申し合わせた。

3　母校発展の方策について

経営情報学科の新設は大変な朗報であり、心から祝福して母校の発展を喜びたいとの意見が多く、今後より一層の母校の発展を望む声が多かった反面、18歳人口の減少期を目前にして、各支部長は全国各地の同窓会会員5万余名と共に母校発展のために積極的に協力すべきであるとの意見があり、全員協力することを申し合わせた。

また、学校当局に対する要望として次のような意見が述べられた。

①適切な高校対策を行なうとともに地方からの入学志願者が減少していることに対する対策を真剣に検討する必要があるのではないか。

②母校の知名度を高めるとともに高校教職員・高校生に親近感を持たせるような努力をすべきであると思う。特にスポーツ振興によるイメージアップを図るべきである。

③より一層マスコミ対策を適切に行うとともに、地方有力新聞対策を積極的に行うよう切望する。

④各地で開催される進学説明会には積極的、且つ効果的に参加されるよう希望する。

⑤卒業と同時に何等かの国家資格を取得できるような配慮をされたい。

⑥卒業生の高校教職関係従事者との懇談会は、合理的な方法を考え継続して開催されることが望ましいと思われる。

母校の発展を願って積極的な意見や要望が出されたが、要約すると概ね以上のようなものであった。

従来の全国支部長会は、その前半を各支部長の意見交換の場とし、後半を学校当局との懇談の場としていたが、今年度の支部長会は各支部長の意見交換の場とし、その結果並びに要望事項等は日を改めて同窓会会長・支部長幹事会幹事長から学校当局に伝えることとし、学校当局との懇談会は持たず会議終了後、学校当局からご臨席いただいたご来賓各位を囲んで懇親会を開催した。

懇親会の冒頭、鈴木理事長、山本学長から学園・学内事情等の説明を兼ねてお祝いの言葉をいただき和やかな雰囲気の中に懇親会を終え午後9時前後散会した。

平成2年度収支決算書（単位：円）

自　平成2年4月1日　至　平成3年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	決算額	予算額	科目	決算額	予算額
前期繰越金	11,754,224	11,754,224	総会費	4,114,058	5,000,000
会費収入	45,470,000	43,000,000	役員会費	1,761,171	1,500,000
総会収入	919,000	800,000	支部費	5,551,204	7,200,000
利息収入	1,786,853	700,000	事務費	396,237	500,000
濺江収入	710,730	600,000	人件費	7,015,960	7,300,000
雑収入	137,520	200,000	旅費交通費	2,404,940	3,000,000
	223,640	0	濺江発行費	14,893,280	16,500,000
			名簿追跡調査費	2,128,145	2,000,000
			学対費	2,383,011	3,500,000
			諸会助成費	1,189,417	1,500,000
			慶弔費	90,850	300,000
			名簿発行積立金	4,000,000	4,000,000
			スポーツ・学術振興積立金	2,000,000	2,000,000
			予備費	(389,316)	2,754,224
			次期繰越金	13,073,694	0
合計	61,001,967	57,054,224	合計	61,001,967	57,054,224

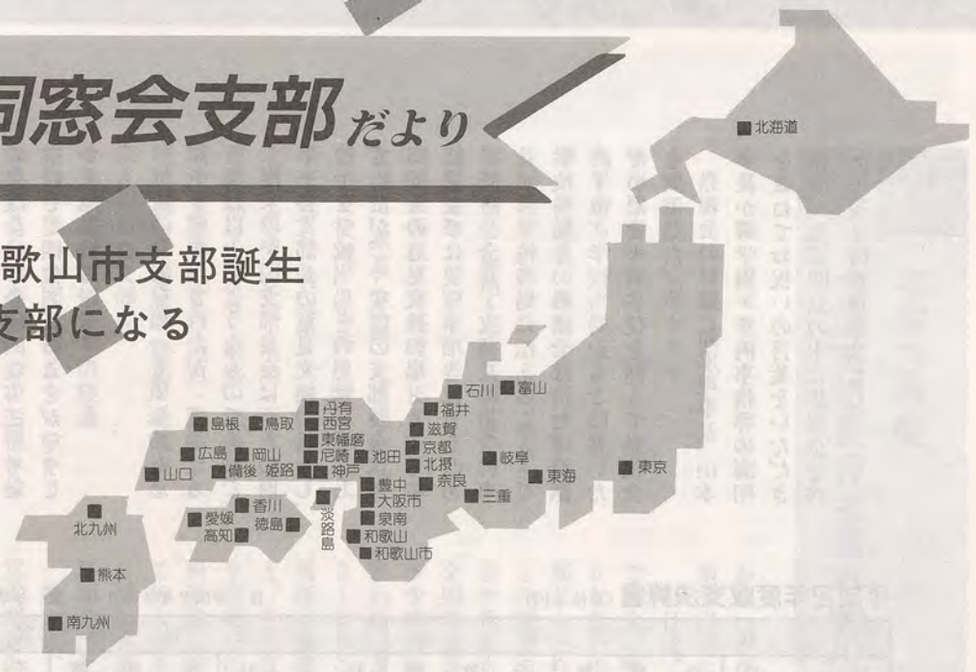
平成3年度収支予算表（単位：円）

自　平成3年4月1日　至　平成4年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	予算額	摘要	科目	予算額	摘要
前期繰越金	13,073,694		総会費	5,000,000	
会費収入	53,000,000		役員会費	2,000,000	理事会・常任理事会・各部会
総会収入	900,000		支部費	7,500,000	運営費・支部総会援助
利息収入	1,000,000		事務費	500,000	
濺江収入	600,000		人件費	7,300,000	事務局人件費
			旅費交通費	3,000,000	
			濺江発行費	16,500,000	
			名簿追跡調査費	2,000,000	
			名簿編集費	2,000,000	
			学対費	3,500,000	大学祭・クラブ活動援助
			諸会助成費	1,500,000	諸会援助
			慶弔費	300,000	
			名簿発行積立金	4,000,000	
			スポーツ・学術振興積立金	3,000,000	
			予備費	3,473,694	
			特別基金組入	7,000,000	
合計	68,573,694		合計	68,573,694	

同窓会支部だより

池田、和歌山市支部誕生
全国39支部になる



41年余の伝統を職場にも生かして!

大阪市役所支部
支部長　矢野　吉徳

当支部は本学同窓会支部の中においては、大変珍しい職域支部であり、大阪市職員で形成され、すでに定年退職した者及び大阪市議会議員等を特別会員として約40名、現役の者を一般会員として約230名の大職域支部となっています。

会員数を「約」で表わしたのは、なにぶんにも大企業なみの大阪市役所が、局、事業所、出張所、区役所等に分割されており、毎年の退職者を含めた人事異動、第2学部の新規卒業者で本支部に入会されるべき人達が、充分に把握されていない面もあり、所属職場の確認にも大層手間がかかるのが幹事の悩みの種であります。

当支部は昭和25年1月、初代支部長　故広田実氏をはじめ十数名の先輩達により結成され、爾来、四十一年余の歴史を持つ伝統ある支部であります。この支部を育ててこられた先輩諸氏に深く敬意を表わします。

現在は第7代支部長　矢野吉徳氏(22)―中央区役所―のもと幹事12名で支部の運営を行っていますが、前述した悩みの種の影響もあり、当初年1回の総会の開催が少々遅れているのが残念です。本年は10月下旬を予定としており、充分に飲みかつしゃべり、秋の夜長を楽しんでいただきたいと考えています。

同じ職場の同窓生として、職域に大いに活用するとともに、支部の発展を期していきたいと思っています。

幹事長　角谷泰秀(29)
(浪速区役所)

読書会一泊旅行で丹有支部と交流

豊中支部
支部長　筒井　英夫

豊中支部は60年7月、豊中市在住者および豊中市内に勤務する人を会員として創立されました。現在、新卒者を含めて約570名の会員で構成されています。

支部の活動は年1回の総会を中心に、趣味同好会の定期的開催により、会員相互の親睦に努めています。

平成2年度の総会は10月20日(土)にホテルアイボリーにおいて、本多助教授をはじめ、大学・同窓会本部からの来賓を迎えて開催。会場では支部行事におけるスナップ写真と一泊旅行やハイキングの予告を提示して、世話人から説明しました。宴たけなわとなると、カラオケの歌声や久しぶりに会う友人たちと楽しそうに談笑するといった和やかな雰囲気でした。

同窓会支部だより

ハイキング同好会は家族で参加できることから、年々参加者が増えています。刀弥氏の企画で6月3日(日)は難波駅に集合、堺の御陵と神社を参拝。その後、懐かしい路面電車に乗り、住吉大社からジャンジャン横丁へ。10月28日(日)は大阪駅に集合して法隆寺から藤の木古墳・龍田神社と白鳳の古里を訪ねました。金丸・笠井・斎・金子さんはご夫婦で、河原さんは父娘でいつも参加されます。持参の弁当を食べながらの団らんは、年齢差を感じさせない楽しいひとときでした。汗を流し一日中歩き、ビールでの乾杯はとても美味しいものでした。

「ユニトピアささやま」植物園

読書会については、例年どおり一泊で11月17・18日の両日、「ユニトピアささやま」において、金子氏の推薦本・三島由紀夫著の『文化防衛論』で開催しました。

特筆すべきは、今回は梶村丹有支部長のお世話で閑静な山間の篠山で開くことができたこと。梶村氏に参加していただいたこと、また熱心な金子氏の友人である大久保牧師さんの特別参加があったことです。おかげさまで上野さん、塩見氏をはじめ、出席者全員から活発な発言があり、当初心配していた難しい『文化防衛論』も何とかまとまったと思います。

入浴後は梶村氏を交えて、丹有支部と豊中支部の親睦の場となり、輪になって歌い、夜遅くまで楽しく過ごしました。

翌日は梶村氏の名ガイドで篠山城跡をはじめ、数々の名所を探訪。本当に勉強にもなり、有意義な旅行となりました。

豊中支部は、このように会員の協力により、色いろな行事を実施して会員相互の友好を高めています。参加希望者は支部長までご連絡下さい。一報をお待ちしています。

連絡先
筒井英夫

なお、総会案内状の返信から会員皆さまの近況を抽出し、年に一度、PR誌を発行したいと考えていますので、何とぞご協力のほどお願いいたします。

今日を語り明日へ向かって支部の結成

池田支部(新設)
支部長　渡邊　泰敏(ヒロトシ)

池田市は大阪府の北西部に位置し、豊中市、箕面市、兵庫県川西市、伊丹市と接する人口十万余で、市域の半分に北摂連山の五月山があせまり、猪名川、箕面川に囲まれた風光明媚なところで、市の南には大阪国際空港を控え、大阪都心から15キロにあります。この狭い池田市に大阪経大同窓生が168名もおられることに驚いた次第です。ふりかえれば本校もすでに半世紀を過ぎ、やがて60年を迎えようとしていることを改めて知るところでありました。

6月11日、第15期大川良さん(池田市議会議員)から池田支部結成について是非相談したい、同期の岡田君を紹介するからとの電話を受け、早速第15期岡田至弘氏との3人で会合し、6月20日午後6時「かっぽうふる里」第28期伊藤勝康さんのところで、世話人10人があい集い、ここで日本労務管理協会副理事長、日本グルメサービス株式会社代表取締役の二枚鑑札をもつ岡田先輩がすすめる酒で話がスムースに進み、7月21日(日)に池田市民文化会館(高砂の間)で25名の同窓の参加のもと結成総会が開催されたのであります。

話に花が咲き2時からの同窓会が延々6時まで続くという結果になり、次回の会合を11月17日(日)池田市民文化会館で再度開催することが決定されました。本会の設立総会激励のため陰下嘉典事務局長、第25期水納敏也総務

各地区が独立支部結成へ発足準備

和歌山支部
支部長　松本　旬弘

和歌山支部本年度総会は平成3年4月21日㈰午前11時から和歌山JRターミナルホテルにおいて、大学より田所清市事務局長、中谷和一就職部次長、同窓会本部より磯野会長、玉岡浩副会長、陰下嘉典事務局長に遠路ご出席をいただき、会員72名出席のもとに開催されました。

当日は好天候に恵まれ、藤岡君㉘の名司会により、先ず松本支部長の年間行事の報告と今後予定の説明等の後、磯野会長のお祝の言葉、田所事務局長より母校の現況、今後の見通しなど報告いただきました。祝電の披露、懇親会に入り各テーブルを囲み、歓談にカラオケに、先輩後輩の交流和気あいあいの裡に2時に幕を閉じました。時の経つのも忘れ、最後に学歌を合唱し定刻

県下在住の同窓生は約950名余、1回～19回まで57名、20回～29回まで102名、30回～39回目で270名、40回～49回まで382名、50回～56回まで134名で、優秀な若い卒業生が多いことが注目されます。

各回毎に責任をもって組織作り、また職場グループの結成等益々充実されつつあるとみられます。

しかし和歌山県は南北に長く、なかなか一堂に集ることは難しく各地区に分れていました。今度各地区が独立して、仮称「和歌山市支部」「紀北支部」「紀中支部」「紀南支部」と

池田支部結成総会

和歌山支部総会（和歌山JRターミナルホテルにて）

部長、第31期中村敏啓財務部長からそれぞれお祝いの言葉を戴き、陰下事務局長からは大阪経大のユニークな校風、スポーツ等を通じて進学者の人気も高まり、受験生の延びが著しいとの報告があり、これも学園苦難のときに同窓生諸氏の絶大なご支援の賜物であると締めくくられました。最後に第14期高橋　弘（ヒロコ）先輩から過ぎし日を偲び、今日を語り、明日へ向かって力強い発展と同窓諸氏の健勝を祈念し、地域活動の進展を誓う挨拶で閉会した結成総会でした。

顧　問　武内　美次(10)　村田　吉司(11)
相談役　大川　良(15)
支部長　渡邊　泰敏(21)
副支部長　荒木登久次(23)　山形　武(23)
事務局長　村田　和之(26)
会計幹事　松田今朝男(34)

「和歌山市支部」結成総会に参加して

和歌山市支部（新設）
支部長　坂田文治

平成3年7月6日の午後6時過ぎ和歌山市三木町華月殿に集合しました。梅雨の晴れ間とでもいうのか天候も祝福して呉れたらしく涼しく気持の良い日和でした。

6時半来賓　田所事務局長、磯野会長、車野常任理事を初め、同窓生出席者74名の多数で盛大に開会しました。来賓者のご挨拶、祝電の披露、初代支部長坂田文治氏選出挨拶、等々の和気あいあいの裡に総会は進行。私の感じたところは出席者は70歳を超えた者から24、5歳の若人までその年齢の層の厚いこと。母校も年輪を重ねたものだなあと、私はその発展と末広がりに感歎せざるを得ませんでした。

関西に大学は相当数あるが、こんなに開放的で、しかも先輩後輩が礼儀正しく、総会を盛り立てる為に、多少の犠牲を払っても出席して発展発足することになります。

和歌山市支部は1回～19回まで35名、20回～29回まで60名、30回～39回まで129名、40回～49回まで181名、50回～56回まで71名、計471名。

紀北支部は1回～19回まで8名、20回～29回まで37名、30回～39回まで91名、40回～49回まで102名、50回～56回まで33名、計271名。

紀中支部は1回～19回まで6名、20回～29回まで4名、30回～39回まで31名、40回～49回まで84名、50回～56回まで25名、計150名。

紀南支部は1回～19回まで6名、20回～29回まで1名、30回～39回まで18名、40回～49回まで19名、50回～56回まで7名、計51名です。

和歌山県の各支部も今後も連絡をとりあいつつ、県下においても大経大ありと頑張ってしてくれる諸兄の姿を眺めて、ただ有難いという気持が湧き、同窓生の一員として喜ばしく思いました。

懇親会場に移って、色々と話題が出ましたが、実のところ私は老人の部類で禁酒禁煙となり身体は満身創痍だから、多分皆様のお付合いに間が持つだろうかと懸念していましたが、その献立を眺めて老人好みの寿司・刺身から若人好みまでのバイキング、日本酒、ビール、ウィスキー、ジュースと至れり尽くせりで、総会発起人の心尽くしの程に頭が下がるのみでした。こんな総会なら生命ある限り万障繰り合わしても出席せねば申訳のない様な気持でした。宴会では、いつも傍観的な私もよく食べよく話し、皆様方の仲間入りして時の経過も忘れておりました。

やがて9時前になって学歌合唱、万歳三唱

和歌山市支部結成総会

閉会の辞として議長挨拶の後解散となりました。土産物の袋に色々とテレホンカードや同窓生の寄付の品、母校のパンフレット等思い出の品があり、重いながらも気持ちは軽やかに帰途につきました。

福井眞八(12)記

気がつけば『ふれあいの場』

神戸支部
支部長　桐月　正邦

大阪とともに西日本工業地帯の中心であり、国際貿易・港湾都市としてますます発展するここ神戸の地で、ビジネスに、社会生活に日頃活躍されている同窓生諸氏が、ふと気がつけば仲間同士のふれあいの場、そういう「時」を過ごせる様な神戸支部としたい……桐月支部長の念願です。

数年前まで、若い母校で先輩ＯＢが他校に比べ少ないと思っていた頃、当時その数少ない諸先輩とより深い絆を保ちながら、叩き上げの人生を切り開いてこられた方々が、今や各界、各層のトップに躍進され、そういった頼りがいのある、筋金入りの先輩はむしろ他校より多いという現状は、わが神戸支部だけでなく全国的な姿で、母校経大の隆盛を感じる次第です。

平成2年11月27日ホテルシェレナにおける神戸支部総会では、60余名の立食パーティで会場狭しと先輩達を巡り、背を叩かれていたＯＢ1年生、それに卒業予定者である4回生の姿も見られ、あたかも祖父が孫に社会人一年生となる自覚を促すが如き姿を垣間見て、実にほのぼのとした楽しい場面もありました。

各クラブや同期生、職場などミニ同窓会を行っておられると思います。神戸市に在住及び勤務されている皆さん、誘い合わせて是非支部総会に参加して下さい。

支部長　桐月正邦（昭和31年22回卒）
株式会社カンキ　代表取締役社長

「和歌山市支部」役員
支部長　坂田文治（11）
事務局長　宇藤博文（28）
会計　青川公明（53）
幹事　阪中伊作（15）
〃　和田憲幸（27）

ホテルシェレナでの支部総会

国際化時代の中小企業の理論と情報

中小企業季報

経済の国際化時代にふさわしい今後の中小企業のあり方を示す論文
解説および書評
中小企業に関する文献目録
年間購買料￥2,840(〒とも)
バック・ナンバーあり(〒別)
お申込み先
中小企業・経営研究所

淡路島支部一周年を迎えて
―高知支部総会に参加―

淡路島支部
支部長　宝川　雅嗣

昨90年7月25日に設立して、早や一年を迎えることになりました。そこで会員の親睦を深めるために何か行事をしてはという事で幹事会をもちました。幹事の中に高知支部の役員をしている友人がいるとの事で7月6・7日高知に行く事になりました。高知では、支部長を初め会員の方々の暖かい歓迎を受けました。宴会の席では、会員の方が大きなマグロを持って来て、みんなの前で解体して見せてくれました。さっそく刺身にしていただき、和気あいあいの楽しい食事となりました。同窓会本部の方々にも出席していただき、意義のある交流会をもつ事が出来ました。あくる日は、桂浜の坂本龍馬像を見たり、浦戸大橋を渡って右手に太平洋のはるか彼方の水平線を見ながら、室戸岬をまわって日和佐の海亀公園に立ちより、無事淡路に帰って来ました。紙面をかりまして、皆様に厚くお礼申し上げます。

桂浜にて

幹事会の報告
永川支部長の雑感

姫路支部
支部長　永川　仁一

支部活動においては、その活性化の為に日毎の積み重ねで歩一歩限りなく前進したい考えで、今年の支部総会は例年の如く幹部会と協議の結果左記の通り決定しました。奮ってご参加され親睦かつ活発、有意義な意見を期待しております。

記

一・日時　10月25日(金)　18:00より
一・場所　ホテル・サンガーデン姫路
一・会費　8,000円

なお支部の同窓生数は約700名余、出席者数は約40名前後と低調でありますが、これには支都特有の地域事情が横たわっており、この問題の解決に頭を痛めつつ、急がず休まず絶えず少しずつの精神で行動を致しております。

今や社会主義経済の弔鐘は到る処に鳴り響いている。この弔鐘に萬斛の涙を注ぎ或いは復活を望む声もあろうが、新しい世紀の黎明として、新世界の秩序として、夜明けの明星と歓迎するものもあろう。宇宙の森羅萬象は須臾も休むことなく生成流転の発展を續けて

いる。我々は繰返し日々経済生活を営んでいる。さて一般に我々の世界観は如何なる様相を呈するものであろうか。安定期社会即ち調和の社会においては認識論的となり、現在の如き混沌とした転換期には存在論的になると言われており、歴史において絶対的なものは変化であります。長い歴史の中で自らの足どりを以て自らのコースをいとも緩やかに歩んで約43年バブル経済の崩壊と共に、より新しい充実した指標を求めるべく日夜微力を尽くしております。

因みにかつてはスミス、マルクス、ゴットル、シュンペータ、レプケ、シュピトホフ、バベルク、ケインズを経て、現在はマクルーハン、サロー、ドラッガー、ガルブレイス等に移行している。バブル経済の崩壊を経てウエーバーの〝資本主義の精神〟とかガルブレイスのバブルの物語。〝A short history of financial euphoria〟も一読に値することでしょう。

姫路支部の面々

同窓生経営のホテルに集う

丹有支部
支部長　梶村　文弥

全国の各支部が、今、非常に活性化してまいりました。その状況を誌上を通じて知ることができるのは誠にうれしいことです。

丹有支部は、三田市・多紀郡・氷上郡の3地区が緊密な連携を保ちながら活動を続けている、全国で最も古い支部の一つです。

支部の会員は約750名になりました。それに、現在、母校には当地域の五つの高校出身者が、合計60名も在学しています。一時、大阪経済大学の進学者が減っていましたが、再び増えつつあり喜んでいるところです。

さて、平成3年度支部総会は、皆様のご協力により次の通り盛大に開催されました。

○とき　平成3年9月8日(日)11時より
○ところ　三田市・三田セントラルホテル
○あつまり　59名（大学・本部来資3名）

大学から理事・事務局長田所清市氏と教務部次長細羽由三氏、同窓会からは事務局長陰下嘉典氏と豊中支部長筒井英夫氏が、ご多忙の中をご出席下さいました。

懇親会では、広瀬幹君(49)（ボッキー掛布）の軽妙な司会に数名のコンパニオンが彩りを添え、カードゲームやカラオケなどに拍手と歓声がわき、談笑が続きましたが、肩を組んでの逍遥歌に余韻を残しながら、次回・篠山での再会を約束して散会した次第です。

三田地区役員の尽力とホテル社長作田善司君(35)の配慮に深く感謝しております。

三田セントラルホテルにて丹有支部総会

○支部長　梶村　文弥(8)
○副支部長　西羅　隆之(25)
　尾崎　修身(29)
　足立、徳太郎(36)

同期・同窓とともに会おう、語ろう

岡山支部
支部長　村上一夫

昨年（平成2年）、「岡山支部発足満40周年記念大会」が盛大に催されました。その節は、みなさまに何かとご協力いただき、心から感謝しています。

平成3年4月現在の支部の概況をお知らせします。

◇県下支部会員数　約1、245名
　1期～12期年（昭和高商）　73名
　13期～30期年（経専・大学）　107名
　31期～40期年（大学）　404名
　41期～50期年（大学）　489名
　51期～57期年（大学）　172名

◇新版支部名簿
　第1版　昭和60年発刊
　第2版　平成2年より発売中

◇支部役員は左記の通りです。何なりとご連絡ください（支部名簿のご用命も受付けています）。

◇支部総会（同窓会）は、毎年6月の第一土曜日を定例として開催。平成3年度総会は6月1日(土)、「平和楼」にて50数名出席。平成4年度総会は、6月6日(土)の予定です。ぜひ、ご出席ください。

支部の発展は母校・同窓会の進展です。

故黒正先生墓参　西大寺観音院

新体制なる—田中良昌支部長誕生

徳島支部
支部長　田中良昌

徳島支部は9月14日、ホテル・サンルート徳島で平成3年度総会を開きました。

来賓として大学から近藤秀麿教養部長（徳島県出身）、中谷和一就職部副部長、同窓会から陰下嘉典事務局長が出席。支部からは顧問の福井尚吾氏(3)（徳島大学名誉教授）ら22人が出席。全員で学歌斉唱のあと、河野昭夫支部長(25)（税務会計事務所経営）のあいさつ。続いて近藤教養部長ら来資3氏があいさつし、経営情報学科の新設など大学の現況報告がされました。

総会では任期（2年）満了に伴う支部役員の改選があり、二期4年間支部長を務められた河野氏の後任に田中良昌氏(26)（徳島新聞社事業部長）が選ばれました。副支部長は3人制にしたほか、職域での同窓会活動の活性化をはかるため、初の試みとして県庁職場を中心とした公務員、教員、警察官などの総取りまとめ役として職域代表幹事を設けました。

今後、卒業生の多い職域に設ける方針です。

河野前支部長に感謝状と記念品を贈り、労をねぎらったあと、田中新支部長が、「支部の活性化をはかり、会員相互の親睦、地域社会への貢献、母校発展への協力に努めたい」とあいさつ、新体制がスタート。このあと懇親会で杯をくみかわし談笑が続きました。

新役員

▽支部長　田中　良昌(26)

▽副支部長　藍野　哲也(28)　新居　成介(30)
　榊原　諒雄(34)
▽事務局長　野々宮　充三(37)
▽会計　高田　浩一(35)
▽職域代表幹事　藤森　忠義(32)

徳島支部総会(ホテル・サンルート徳島にて)

地方出身の学生が少ない現状を憂う

熊本支部
支部長　濱　忍

南部副会長、玉岡学校法人理事、八木田教授、中谷就職部副部長のご臨席を頂き、91年度支部総会を、9月7日、熊本ニュースカイホテルで開催致しました。第2回目の総会を迎えたばかりの若い支部であり、今後の運営方法、開催時期等の討議を行った後、来賓の方々より母校の近況報告を受け、質疑応答となりました。母校の発展を願うにつけ、支部会員より厳しい意見が相次ぎ、活発な意見交換が行われ、特に地方出身者が少ない現状を憂える声が圧倒的であった。後、懇親会となり、今回、ご出席頂いた八木田教授が本県出身、南部副会長、玉岡理事は青春の一時期、熊本に居られたとの事、懐かしい土地との話があり、時間を忘れて遅く迄、旧交を暖めあった。

学歌、逍遥歌を全員で力強く斉唱し、散会となった。来年度は一泊、温泉地で開催の予定です。諸般の事情で参加出来なかった諸氏も、是非共の参集を願い上げます。

政治経済の中心、東京で頑張っています

東京支部
支部長　井阪健一

全国の同窓生及び新しく同窓生になる皆さんお元気ですか。我々東京支部の諸兄姉も地元関西を離れても関西商人の教えを守り、各分野で24時間眠らない街、「東京」で頑張っております。昨年の支部総会では1,600通の案内を送り、約半数が返送され、現在約800名を把握しているのが現状です。年1回の総会は例年通り新宿の超高層ビル「野村クラブ」で開催しております。総会以外に三つの会合を持ち、日頃から接触の機会をふやすよう努力しております。

その一つは「経友会」と称し、30期生以降の自称若年の会合で、総会とまた違った雰囲気で自由闊達にしゃべり、交流を深めております。

その二つ目は「水曜会」と称する証券金融マンの集まりです。会長に井阪健一氏（野村証券投信委託㈱会長19回卒）副会長に松谷嘉隆氏（国際証券㈱社長22回卒）を擁し、ナショナル証券㈱専務取締役上田正義氏㉔をはじめ、多士済々のメンバーで構成され、事務局長には尾崎章氏（日産証券㈱取締役36回卒）が当り、勉強会を随時開いております。

三つ目は大阪経大「春秋会」があります。上場企業の役員およびそれに準じた方を、各業界で活躍するオーナーの方々で構成され、母校の発展のため会合を持ち、如何にして母校をよくするかをテーマに論議していく予定です。同窓生諸兄姉の一層の暖かいご支援をお願いする次第です。

事務局　西山昭吾記

井阪支部長

熊本支部総会(熊本ニュースカイホテル)

デザイン都市に変身する名古屋市

東海支部
支部長　加藤　正秋

広い道だけが目立った偉大な田舎「名古屋」が見違えるほど美しくなった。民間調査機関によるとJR名古屋駅は全国的に最も美しく、デートしたいと思う駅になり、広い道には緑が増えた。中心街セントラル公園に臨む久屋町通りに新築される建造物は、デザイン審査を受けないと着工できない。

大阪の花博より一年前に開かれた世界デザイン博からの変ぼうぶりである。現在都心の栄町には愛知芸術文化センターの建設が進み、さらに4年後には「国際インテリア総会」がアジアのトップを切って開かれるともきいている。偉大な田舎が面目一新し、デザイン都市として生まれ変りつつあるわけである。

さてこの愛知県下に同窓生が357人生活していると、本部からのコンピュータ抽出によると、高商・経専卒の方は41人、あと9割近い316人が大卒者。このうち女性は9人で、3人が経専卒の先駆者ということになる。こうした同窓生は毎年1回（11月下旬）岐阜と合同支部総会を開いて旧交を暖める。大学の同窓会らしく見聞を広める催事もという要望から、卒業生の講師を招いて講演会も行っている。新卒者もどしどし出席して、先輩諸兄の仲間入りを果たして頂きたい。

平成3年の地元ニュースとしてもう一つ特記したいのは、プロ野球、中日ドラゴンズの活躍だった。地元では「たかが野球」も「されど野球」に変身した。証券界や金融界の不祥事で、湿りがちだった経済界に、明るい灯明をかかげる結果ともなった。名古屋市内の4百貨店とも、全国平均を上回る売上げ数字を作り、市民みんなが豊かな、浮き立つ気分を味わえた。来年も地元の明るいニュースを期待している東海支部である。

変貌する名古屋市

講演「人手不足を解消するために」が好評
岐阜・東海合同支部総会

岐阜・東海合同支部総会(柳ヶ瀬にて)

岐阜支部
支部長　坪内　敏男

岐阜・東海合同支部総会は、平成2年11月17日、「柳ケ瀬ブルース」でおなじみの柳ケ瀬地区岐阜会館で、同窓会本部から南部副会長、大学側から上島教務部長を迎え、同窓生約30名が出席して開催しました。

前年に引継き経済講演を、公認会計士中川進氏(10回卒、名古屋市出身)にお願いしました。講演の内容は、企業、会社等が発展する条件のひとつとしては、「適切な会計事務が必要である」と強調されました。約2時間、母校経大の特色をいかんなく発揮するもので した。(講師依頼者は、加藤東海支部長です)

合同総会は、年1回交互に行っているので、数年間の友として顔なじみになった同士が気楽に、勤務会社のPRや、実際の取引の話をはじめ、情報交換も活発に行われました。岐阜・愛知両県にある観光名所の現況、一例として岐阜市に新設された「長良川球場」をはじめ、長良川鵜飼の利用方法等まで語られる楽しい会合でした。

なお、掲載のスナップ写真は、岐阜支部長崎和夫君(29)の協力を得て、出席者全員に配布しました。

支部総会は11月10日

三重支部
支部長　水上　敏夫

三重在住の同窓生のみなさん。ご無沙汰しております。

わが同郷の会員は350名を超え、それぞれの職場でご活躍のことと思います。

年1回の恒例三重支部総会は、来たる11月10日「和田金」で開催します。改めてご案内状をお送りしますが、お誘い合わせのうえ、多数のご出席をお待ちしています。

お目にかかれる日を楽しみに、みなさまのご健闘、ご活躍をお祈り申し上げます。

名簿の発行にご協力下さい

平成4年は名簿の改訂・発行の年に当っております。住所や会社等変られた方は、事務局までお知らせ下さい。また友人・知人で不明者の方で近況をお知りの方も、ご一報下さい。

名簿編集委員会

富山支部総会(高岡にて)

母校の現況に心強く感じた総会

富山支部
支部長　重松　尚

平成3年度同窓会富山支部総会は、7月14日(日)富山県西部の街、高岡市において開催致しました。

今年度は、大学から理事の香川一男教授、教務部長上島武教授、就職部副部長中谷和一氏、同窓会本部から陰下事務局長、松本常任理事の5氏を来賓としてお迎えしました。

会場の、「ホテルニューオータニ高岡」には高岡市を中心とする、富山県の呉西地区の会員が参集されました。

総会は小泉副支部長(30)の挨拶で開会し、来賓の皆様から躍進を続ける母校の現状をそれぞれご報告戴きました。

特に、新「経営情報学科」の認可とMIC館の完成に伴う高倍率の入試状況と偏差値アップについての報告や国際文化公園都市構想に基づく茨木市の校地活用のためのマスタープランづくりの報告等は一同心強く感じた次第でありました。

高橋事務局長(34)からの事業報告や、決算報告等の各種報告、役員改選の案件を承認し、滞りなく総会を閉会致しました。

続いて、待望の懇親会は香川教授の乾杯の音頭で始まり、和やかな気分のなかで杯を酌み交わし、自己紹介や学生時代の思い出話に時間は瞬くまに過ぎていきました。

そして、会員で肩を組んで学歌・逍遥歌を斉唱、万歳三唱し、来年の再会を期して会を終え、夜の街の二次会へと足を運んで行きました。

最後に、来賓ならびにご出席戴きました会員の皆様に厚くお礼申し上げます。

〝福井中央学院理事長 大丁雄治氏を訪ねて〟

福井支部
支部長　内田　甫

母校大経大を卒業後、福井に戻り、父が経営する会計事務所と、福井中央学院の経営に参画することになりました。主として、会計事務所を任され、福井中央学院の方はノータッチでした。しかし、昭和56年父が急死しまして、会計事務所、学院を兼務して、維持することは不可能と判断し、会計事務所を閉鎖して、未経験ながら地元の要望にも応え、予備校経営に邁進する決意を固めました。当時の福井中央学院は、ビルの一室を賃借して運営していましたが、昭和60年、一念発起して、現在のこの土地と、4階建のビルを、一括購

梅雨季の、晴間の蒸暑い日でした。足羽川桜並木を渡る、一陣の風を背に、福井市照手一丁目、福井では、有名な九十九橋北詰に聳え立つ、4階建の白亜の殿堂を訪れました。これが、福井中央学院理事長、大経大同窓会福井支部大淀会名誉会長、大丁雄治氏、32回卒(昭和41年度)が経営する福井中央学院、大学進学予備校なんです。

来訪の旨を告げると、部屋のなかから、例の丸い眼をくるくる回し、快活な笑顔の出迎えを受けました。氏は、謙譲の中にも、信念をもって私に、語られました。

北海道支部総会に参加して

北海道支部
支部長　田中喜三郎

全国、同窓生諸兄ごきげんいかがですか。

北海道支部は昭和57年に第1回支部総会をおこない、今年で9回を重ねるにいたりました。現在名簿の上では30名の会員が登録されており、旭川、帯広から函館までの広い地域の中に点在、活躍しております。総会は毎年10月初旬に開かれる事となっており、今年も10月12日に同窓会から磯野会長、大学側から玉岡理事をお迎えして、会員13名の出席を得て札幌第一ホテルで開催いたしました。

大学を卒業していらい遠隔地で、また友人との交際も容易でない面々は、大学の雰囲気をもってこられた会長、理事になつかしさを感じ、現在の大学の状況をきくにつれ、時代のうつりかわりを感じ、またかわらぬものをかぎとり、皆それぞれが母校を思い出したようでした。

北海道支部は転勤者が多く、10月1日付で1名東京へ転勤がきまり、最後の夜を総会ですごしてゆきました。私自身も昨年4月新潟から転勤してまいり、初めての参加でありましたが、各自の自己紹介のあとは、卒業年度はちがうものの母校が同じという事で初めから心をうちとけて話をすることが出来ました。

総会の方は場所をかえて二次会にうつり逍遥歌を合唱ののち自由解散となりましたが、それぞれまた会う約束をとりつけていたようであります。私たちは仕事に生活に横のつながりをもとめて、日々営業活動を行っているわけではありますが、この同窓会のつながりをもっと太く強くすることにより、会員のみんながそれぞれ幸せになり、豊かになれると信じます。もし北海道の方でこれを読まれて、まだ参加されていない方は是非連絡して下さい。待っております。

松村丈夫(41)記

北海道支部総会(札幌にて)

話題の同窓生

活躍中の市議会議員二人

大阪市役所支部
物部秀恒氏(25)

氏は平成3年4月27日施行の統一地方選挙において、港区で公明党から立候補され、前回に引き続き、見事トップ当選をはたされました。

今回で連続3期目となり、常任委員会の中の民生保険委員会委員長の要職に就かれ、また、特別委員会では大都市税財政制度確立促進実行委員と市議会の中心として活躍中であり、地元港区においては、親切で誠実かつバイタリティー溢れる明るい人柄と熱心な日常活動で区民の厚い信頼を集めておられます。

大阪市役所支部
寄吉哲司氏(30)

氏は同じく平成3年4月27日の統一地方選挙において、母校の地元、東淀川区で民社党から立候補され、輝かしい連続4期の当選をはたされました。

常任委員会では計画消防委員会副委員長であり、議員歴では一番油ののりきった頃というものの、年齢は50歳とまだまだ若く、それに伴なう行動と気さくな人柄と相まって、スポーツ大会の主催等、地元住民とのコミュニケーションを深めながら頑張っておられます。平成3年は統一地方選挙の年でありましたので当支部の特別会員の二氏を紹介しました。

話題の同窓生

体験にもとづいた『経理実務革新ハンドブック』を出版

東海支部
中川　進氏(10)

同窓生の中には、税理士や公認会計士など経理実務のベテランや経理責任者、さらには新人のための、手引書ともいえる図書を出版した卒業生がいる。

題名は『経理実務革新ハンドブック』㈱中央経済社・定価4千円で、副題に「株式公開を目指せるレベルに、経営実力を蓄えつつある中堅企業のための実務テキスト」とある。A5版　332ページの堂々とした書籍で、著者は監査法人伊東会計事務所監修の中川進さん（10回）である。

中川さんは昭和高商から京大農学部農林経済学科を卒業後、当時名古屋市内ではナンバーワンといわれた公認会計士伊東惟芳事務所へ入所、以来退職するまでの40年余を組織変更になった監査法人伊東会計事務所代表社員所長など、この道一筋に生きてきた。

この春、日本公認会計士協会本部・東海会の役員や、公認会計士試験第三次試験委員など、さらにはこの8月に本部の懲戒委員長まで命ぜられるベテランで、退職と同時に出版社から後進のためにと奨められ、執筆へふみ切った。

内容は会計組織の核心、株式上場公開への道、会計組織の中心課題、経理関連事務の手引、財務諸表分析、会計制度に関する会計法規、会計に関する基準、公認会計士の役割など、これまでの専門書にない経理全般のあれこれが、彼の貴重な体験から述べられている。

長い職歴からも想像されるように、彼は支部仲間から「筋を通すまじめ人間」で通っている。同級生でゴルフ仲間でもある㈱盛電社会長の河盛富三さんは、「節税はすすめるが、冗談にも脱税という言葉を口にしない。大蔵省から表彰されてもよい男ですわ」と語り、さらにゴルフに同行しても、いつでも基本に忠実で、反省を忘れない。私の打ち方をながめて、時にはコーチもしてくれる。頼りがいのある、ありがたい友人です—と強調している。

支部長　加藤正秋記

話題の同窓生

徳島県政を担う若手ホープ

徳島支部
樫本（川原）孝氏(35)

今春の統一地方選挙に徳島県麻植選挙区から立候補し、連合の女性候補を大きく引き離して見事初当選。現在、経済常任委員会委員・同和対策特別委員会副委員長として活躍している。建設委などグループ8社を率いた若手経済人として活躍。地元の鴨島青年会議所理事長、日本青年会議所徳島ブロック会長などを歴任し政治の道に入った。

樫本氏は、「福祉の充実、教育の振興、地場産業の育成に努めたい。特に地元議員として三木申三知事を支え、地域の発展を図りたい」と張り切っている。謙虚な物腰で努力家であり、徳島の県政を担う若手ホープとして各方面から期待されている。

樫本氏は、「同窓会活動にも積極的に参加しますのでよろしく」と明るく話していた。

（昭和44年経済学部卒、徳島県議会議員（自民党県民会所属）、会社役員、同窓会徳島県支部会員）

支部長　田中良昌(26)記

MBA（ビジネススクール）進学に燃えて

藤村　豊(56)

目下私の目標は、来年1月からのアメリカでの大学院留学を実現することです。私の留学先は略称M・B・A・—Master・of Business Administration—日本流に言えば経営学修士課程です。M・B・A・Programとは、一般の大学院とは少し性格を異にし、経営に関する専門的な知識を与えるのみならず、将来の実践的経営者を育成する事にあります。

この大学院を選択したのは、専門的知識を修得するだけでなく、文化の異なる国の人々が、同じ目的に向かって集まり、視点も考え方も違う世界が凝縮されていることから、私の将来のビジョン、つまり、世界的視野に立っての経営コンサルタントになるという目標に合致していると思えたからです。

この動機は、先ず、大学2回生の時の夏季休暇を利用して、New YorkにあるColumbia University へ語学留学をした際の様々な経験を通して、M・B・A・Programの存在を知ったこと。

次に、大学3回生から私が所属した松村文武先生の「国際経済の研究」のゼミナールで、世界経済の基礎知識から専門知識までをご教授頂き、それらの知識を基盤にして、「現代世界経済におけるリージョナリズムとグローバリズム」という卒業論文を仕上げました。

この2年間にわたるゼミ活動の中で得た様々な経験・知識を生かし、なおかつ、自分の論理や、価値構造を多様化できる場所で、もっと自分自身を切磋琢磨出来ると考えたからです。

最後になりましたが、私は、大阪経済大学の後輩達がこの文章を読んで、M・B・A・Programに興味を持ち、トライしようという人が出て来るキッカケになれば幸いである、と考えています。

（ふじむら・ゆたか／昭和40年神戸市出身25歳／滝川高校を経て大阪経済大学経済学部1990年度卒）

広島支部からの提案

毎年実施される支部総会で、各支部の支部長をはじめ、支部の役員一同は、「どうすれば、一人でも多くの同窓生が集まってくれるのか?」と、本当に悩んでおられることと思います。私が申しあげたいのは、「支部長ビジョンのもと、ひとつのテーマを掲げて、総会開催の招集通知を発送すること」が成果をあげる方法であるということです。

広島支部の場合も、総会開催時は例年悩んでおります。本年度も恒例により大学入試の前日（2月8日）に実施しました。当日は、「ことしの株の見通しについて」というテーマでセンチュリー証券会長・須々木敏郎氏（9）による1時間にもわたる有意義なお話を約50名の会員がうかがい、大きな示唆を受けました。このほかのテーマとしてご参考までに…

①引き続き証券関係その他経営セミナー
②支部五十周年記念総会（平成4年度）
③広島地方の流通関係の変化への対応
④広島在住のスポーツ代表選手のお話
例：ハンドボールの津川昭氏(40)
サッカーの高橋眞一氏（マツダ）
⑤全国優勝のスポーツの場合は、監督・主将の昭へい…等

支部長　佐々木一義

平成3年中に開催された支部総会一覧表

月　日	支　部　名	開　催　の　場　所
2月8日㈮	広　島　支　部	並木パラスト
2月9日㈯	北　九　州　支　部	タカクラホテル福岡
4月18日㈭	尼　崎　支　部	尼崎市総合文化センター
4月21日㈰	和　歌　山　支　部	和歌山ターミナルホテル
5月19日㈰	大　阪　市　支　部	同窓会ホール
6月1日㈯	岡　山　支　部	平和楼
6月14日㈮	香　川　支　部	ホテルリッチ高松
6月16日㈰	泉　南　支　部	羽衣荘
7月6日㈯	高知・淡路島支部（合同）	高知第1ホテル
7月6日㈯	和　歌　山　市　支　部	華月殿
7月14日㈰	富　山　支　部	ホテルニューオオタニ高岡
7月21日㈰	池田支部（設立総会）	池田市民文化会館
8月3日㈯	南　九　州　支　部	ホテルフェニックス
9月1日㈰	愛　媛　支　部	愛媛全日空ホテル
9月7日㈯	熊　本　支　部	ニュースカイホテル
9月8日㈰	丹　有　支　部	三田セントラルホテル
9月14日㈯	徳　島　支　部	ホテルサンルート徳島
10月5日㈯	豊　中　支　部	ホテルアイボリー
10月6日㈰	備　後　支　部	松乃家
10月11日㈮	北　海　道　支　部	札幌第1ホテル
10月16日㈬	福　井　支　部	福井厚生年金会館
10月25日㈮	姫　路　支　部	ホテル・サンガーデン姫路
10月27日㈰	奈　良　支　部	奈良交通㈱本社ビル
11月8日㈮	神　戸　支　部	神戸東急イン
11月10日㈰	三　重　支　部	和田金
11月16日㈯	西　宮　支　部	西宮市民会館
11月17日㈰	池　田　支　部	池田市民文化会館
11月17日㈰	大　阪　市　役　所　支　部	大阪市健康保険組合宝塚寮
11月27日㈬	東　京　支　部	野村クラブ
12月6日㈮	東海・岐阜支部（合同）	名古屋国際ホテル

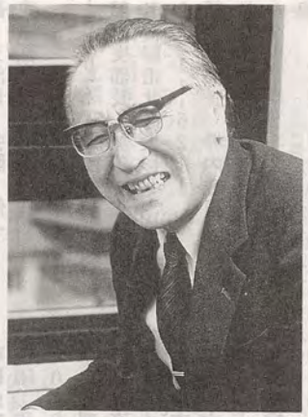
同窓会支部役員

◎全国支部長会幹事会幹事長　○同幹事

北海道支部　支部長　田中喜三郎
東京支部　支部長　井阪　健一
東海支部　支部長　加藤　正秋
岐阜支部　支部長　坪内敏男
滋賀支部
京都支部　支部長　深田　稔
富山支部　支部長　重松　尚
石川支部　支部長　柚木　繁
福井支部　支部長　内田　甫
三重支部　支部長　木戸　董
西宮支部　支部長　中山　隆
○神戸支部　支部長　桐月　正邦
◎丹有支部　支部長　梶村　文弥
東播磨支部　支部長　永井　宏
姫路支部　支部長　永川　仁一
淡路島支部　支部長　宝川　雅嗣
岡山支部　支部長　村上　一夫
備後支部　支部長　小池　勝章
広島支部　支部長　佐々木一義
尼崎支部　支部長　小谷　芳男
泉南支部　支部長　中川　克己
大阪市役所支部　支部長　矢野　吉徳
○大阪市支部　支部長　太田　一澄
○奈良支部　支部長　野尻　忠正
和歌山支部　支部長　松本　旬弘
和歌山市支部　支部長　坂田　文治
○神戸東支部　支部長　江村　育己
鳥取支部　支部長　亀井　寛
島根支部　支部長　渡部弘一郎
香川支部　支部長　岡野　敦
愛媛支部　支部長　小野　茂樹
徳島支部　支部長　田中　良昌
高知支部　支部長　横田　憲介
北九州支部　支部長　嶋原　正孝
熊本支部　支部長　浜　忍
南九州支部　支部長　宮田順一郎
北摂支部　支部長　石川　裕
○豊中支部　支部長　筒井　英夫
池田支部　支部長　渡辺　泰敏

学園の近況

入試制度の改革
A・B方式に―来年度から―



学長　山本　晴義

ちょうど、このご挨拶を書きはじめようとしていた時、大学から「いま無事、文部省で臨時定員増の申請が受理されました」という連絡をうけました。と申しますのは来年度をピークに18歳人口が減少し、今まで急増期に認可されてきていた臨時定員増が平成11年度には相当けずられるであろうという予想のなかで、すこしでも臨時定員を増やしておくことが、今後の困難な状況のなかでは、大学が何をやるにも、またその財政的基盤をかためるためにも必要不可欠であるからであります。そのためこの度、新たに経済学科50名、経営学科100名の臨時定員増を申請したのであります。

お礼があとになって恐縮ですが、同窓会の皆様方の強いご協力によりまして、経営学部に新しく経営情報学科が新設され、受験者4、455名中、334名の第一期生を迎えいれました。この間、同窓会の皆様のありがたい募金により、新学舎＝MIC（マネジメント・インフォメーション・センター）の中庭に有名な彫刻家・流正之氏の彫像が近日中に建つことになっており、この場をおかりして心からお礼申し上げます。この夏休み中、8月28日から3日間、早速、高等学校の先生方を対象にコンピュータ講習会（KEIDAI Summer School）を経営情報学科教授を講師として行いましたところ、さいわい受講された先生方から大変な好評を得、今後毎年実施したいと思っております。

もとより問題は茨木校地の「国際文化公園都市」構想を目標に、今後の困難な時期に新学部増設問題がいそがれ、さらに経営学部大学院問題等々山積しております。現在、理事会・教授会・職員と全学をあげて理事長・学長の諮問による「学園マスタープラン委員会」を設置し、精力的に具体的な方針を検討いたしております。

また来年度からは入試制度につきましても改革し、英語1科目のみによるA方式（なお今までの地方試験会場に東京を加える）と、B方式（選択科目に数学を加える）とにわけて3日間行うことになりました。9月15日には食堂をカフェテリア・ホールに改造竣工式が行われ、同月21日には受験生や父母を対象に一新した全学のキャンパス見学会をひらきました。

とにかく創立60周年を迎えて大阪経済大学は国際国内情勢の大変革とともに大きく変動しようとしております。どうか今後とも同窓会の皆様方の、ますますのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

経営情報学科関係

■経営学部第1部経営情報学科が認可

平成2年6月30日付けで申請しておりました経営学部第1部経営情報学科は平成2年12月21日文部省から認可されました。

◇F館竣工式

1991年4月6日㈯午前11時よりManagement Information Centre（F館）の定礎除幕式および竣工式が挙行されました。

式典には来賓として、同窓会長・後援会長・近隣自治会長をお招きし、理事長・学長をはじめ大学役職者および施工者㈱竹中工務店の出席のもと、とり行われました。

4月から経営情報学科の新入生を迎え、当センターが、情報社会に対応される教育の場として、本格的に始動されることになりました。

鈴木理事長による除幕

◇'91 KEIDAI Summer School開催

MIC 2階電算実習室

8月28日～30日の3日間、経営情報センターにおいて'91 KEIDAI Summer School―コンピュータ実践講座―が開催されました。受講者は高校教諭約60名。受講者の熱心な質問もたくさんあり、好評のうちに無事終えることができました。講座のプログラムは左記のとおりです。

記

8月28日
①コンピュータ　今日　明日
（90年代コンピュータ通信の動向と操作）
講師　松本　良治
②誰でも使えるコンピュータ
（ワープロ入門・名刺の作成）
講師　槇本　淳子
8月29日
①データ・ベースって何だろう
（データ・ベースの動向と簡単なDB操作）
講師　太田　幸一
②成績表を作ってみよう
（表計算・グラフの作成）
講師　太田　幸一
8月30日
①プログラミング言語のあれこれ
（コンピュータ言語の紹介）
講師　松本　良治
②プログラミングに挑戦しよう
（Basicによる計算とグラフィック操作）
講師　西山　豊
③これからの経営情報学
講師　渡辺　泉

マスタープラン委員会

◇学園マスタープラン委員会発足

本学の中・長期計画案を策定するための標記委員会が、4月26日、11名の委員と2名の参与計13名をもって発足し、委員長に久保田諄委員、副委員長に鶴田廣巳委員が、選任されました。委員会発足に伴い、理事長、学長より委員会に対して、左記の諮問がありました。なお、委員会事務局は法人企画室が担当します。

《諮問事項》
企画検討委員会の答申を骨子として、中・長期の将来に関する新学部新学科等の具体的かつ総合的な展望の検討

《構成メンバー》

委員　鶴田　廣巳（経済学部）
　　徳永　光俊（経済学部）
　　藤本　寿良（経営学部）
　　谷口　明丈（経営学部）
　　久保田　諄（教養部）
　　門田　俊夫（教養部）
　　重森　曉（理事会）
　　西野　証治（理事会）
　　替地　勝治（事務部門）
　　西田善三郎（事務部門）
　　波根　伸俊（事務部門）
参与　香川　一男（理事会）
　　渡辺　大介（理事会）

（任期　1991年4月26日～1992年4月25日）

人事

◇評議員選任
（卒業生）
南部　俊一（9回卒）
（役職者）
土井　乙平（経済学部長）
香川　尚道（経営学部長）
近藤　秀麿（教養部長）
浜本　泰（大学院委員長）
（法人の職員）
重森　曉（経済学部教授）
渡辺　泉（経営学部教授）
中田　伊織（大学事務部長）
（学識経験者）
夏住要一郎（色川法律事務所　弁護士）

◇理事選任
（評議員会互選）
重森　曉（経済学部教授）
渡辺　泉（経営学部教授）

◇学位授与
松井　和夫　経済学部教授
中央大学商学博士
（1991.7.16付）

◇新任　よろしくお願いします
左記の方々が着任されました。
今後の活躍が期待されます。
経済学部教授　松井　和夫
（国際金融論担当）

経営学部教授　松本　良治
（情報通信概論・企業情報通信システム担当）
経済学部助教授　藤川　清史
（計量経済学担当）
経営学部助教授　太田　幸一
（情報処理実習担当）
教養部助教授　黒田　勇
（コミュニケーション論担当）
経済学部講師　長岡　延孝
（経済政策担当）
教養部講師　桜井三枝子
（スペイン語・文化人類学担当）
総務部総務課　荒深　信子
総務部人事課　三浦ひとみ
情報処理センター　平田　百合

辞令交付　桜井三技子先生

◇退　職
（定年）　1991・3・31付
永い間ご苦労さまでした。
経済学部教授　浜田　幸策
経営学部教授　竹林　祐吉
企画広報課課長　前田　悦子

なお、浜田・竹林両先生は引続き特任教授として、また前田悦子氏は企画広報課参与として活躍しておられます。

定年退職者を送る会（3月27日）

◇役職者一覧（1991・10・1）
理事長　鈴木　亨
学　長　山本　晴義
経済学部長　土井　乙平
経営学部長　香川　尚道
経営情報学科長　渡辺　泉
教養部長　近藤　秀麿
大学院委員長　浜本　泰
教務部長　上島　武
入試部長　森川　滋
学生部長　松尾　竹彦
就職部長　松原　和男
図書館長　千葉　勇夫
情報処理センター長　内海　健一
体育館長　岡本　昌夫
日本経済史研究所長　山田　達夫
中小企業・経営研究所長　高城　寛
事務局長　田所　清市

教学関係

◇『古稀記念論文集』献呈式
1991年3月27日㈬午後2時から、本館4階会議室において「竹林祐吉・浜田幸策両教授古稀記念式典」が行われました。山本晴義大阪経大学会会長より『古稀記念論文集』が献呈され、その後、竹林祐吉・浜田幸策両先生による「古

稀記念講演」が行われました。
両先生方には今後ますますのご活躍とご健康をお祈りいたします。

◇1991年度入学式の挙行
4月4日㈭、難波の大阪府立体育会館において、1991年度学部ならびに大学院の合同入学式が盛大にとり行われました。
新しい時代の要請にこたえて、本年4月に開設された経営学部経営情報学科第1部の第1回入学生を含め新入生1、600余名、ご父母550名、来賓、教職員が出席し、厳粛な中に21世紀に向かう新しいいぶきに満ちた入学式となりました。

10：30　開　式
　学長式辞
　理事長祝辞
　学部長・大学院委員長紹介
　来賓紹介
　学歌斉唱（グリークラブ）
11：00　閉　式

◇新入生歓迎行事
入学式終了後、引続いて標記行事に移り、国際証券株式会社社長―松谷嘉隆氏（本学22回卒）の講演会が開催されました。
高城寛学生部長の講師紹介後、拍手に迎えられて演壇に立たれた松谷氏は、一先輩の放談として―ニワトリと卵・ファッション・法隆寺―をテーマに豊富な経験をもとに幅広い講演があり、会場を魅了させました。
昼食をはさんで午後1時より、学生による歓迎行事に移りました。タレントの豊島美雪さんが軽快な司会で出演クラブを次々と紹介、大谷女子大学バトントワーリング部も参加して日頃の練習成果を披露しました。観覧した新入生及び父母には一層の親近感を持たれたようです。

松谷嘉隆氏

◇『父母懇談会』の開催
第4回父母懇談会は、7月13日㈯正午からD46号教室において、下記の日程で行われました。参加者は約600名。夏の暑い1日でしたが、両親揃って参加されるなど関心の高さがみられました。
当日は多くの教職員が個人懇談会・ゼミ懇談会を通じて父母と懇談し、実りある懇談会となりました。

記
〔次　第〕（12：00～12：40）
挨　拶　後援会長　田中　博見
　学　長　山本　晴義
学生生活について　学生部長　松尾　竹彦
大学での学習について　教務部長　上島　武
就職状況について　就職部長　松原　和男
〔昼　食〕（12：50～13：20）
〔学年別懇談会〕（13：30～15：00）
〔個人懇談会等〕（14：10～17：00）
成績個人懇談会
ゼミ懇談会
就職部懇談会
施設見学

第4回 大阪経済大学父母懇談会
後援会長　田中　博見氏（15回卒）

■1991年度在学生数　1991.5.1現在
◇学部　　（　）は女子学生内数

1.2部	学科	1年	2年	3年	4年	合計
第1部	経済	632 (53)	644 (45)	562 (24)	866 (15)	2,704 (137)
	経営	494 (74)	615 (53)	545 (55)	807 (33)	2,461 (215)
	情報	334 (34)	— —	— —	— —	334 (34)
	小計	1,460 (161)	1,259 (98)	1,107 (79)	1,673 (48)	5,499 (386)
第2部	経済	102 (2)	105 (0)	165 (0)	163 (1)	535 (3)
	経営	133 (7)	106 (2)	115 (7)	166 (3)	520 (19)
	小計	235 (9)	211 (2)	280 (7)	329 (4)	1,055 (22)
合　計		1,695 (170)	1,470 (100)	1,387 (86)	2,002 (52)	6,554 (408)

◇大学院
経済学研究科前期博士課程（修士課程）　11名
経済学研究科後期博士課程（博士課程）　1名

国際交流

◇研究留学者

このたび国際学術交流の一環として、左記の研究留学者が本学に来られることになり、4月8日着任されました。

記

氏　名　辛　耀（中国　貴州財経学院講師）

研究テーマ　日本の金融理論、政策及び制度、並びに銀行の経営についての研究。

研究内容
1．貨幣金融の理論と実務
2．理論経済学
3．産業経済学
（特に産業構造の理論）
4．財務管理の理論と実務
（特に投資の経済計算）

研究室において

学長室において

留学期間　1991年4月～1992年3月（1年間）

研究指導者　経済学部教授　伊藤　武

◇コミュニティ・カレッジズ・オブ・スポーケン　テランス・ブラウン総長夫妻が訪問

夏期英語研修で、本学の学生もお世話になっている米国ワシントン州立コミュニティ・カレッジズ・オブ・スポーケンのテランス・ブラウン総長夫妻が、2月28日㈭午前11時本学を訪問、山本学長と親しく懇談されました。

その後、50周年記念館の情報処理教育施設、視聴覚教室等を見学され、12時過ぎに本学を後にされました。

1991年度入試結果

◇特技（スポーツ）推薦

1990年11月2日㈮に実施されました標記入学選考の志願者・合格者状況は左記のとおりです。

（11月10日合格発表）

1　志願者・受験者・合格者状況

経済学部　経営学部

志願者数	101	108
受験者数	99	106
合格者数	32	38

2　合格者の種目別内訳

柔　道	5	卓　球	3
剣　道	4	バドミントン	2
陸上競技	6	サッカー	9
競技スキー	1	ラグビー	11
硬式野球	9	バスケット	
準硬式野球	4	ボール	3
硬式庭球	1	バレーボール	3
軟式庭球	4	ハンドボール	5

◇普通科・商業科推薦

1990年12月2日㈰に実施されました標記推薦入学選考の志願者・合格者等の状況は左記のとおりです。

（普通科）

1　志願者・合格者等状況

	経済	経営	合計
志願者数	181 (26)	181 (26)	362 (52)
受験者数	181 (26)	145 (36)	326 (62)
合格者数	181 (26)	144 (36)	325 (62)

2　依頼校別状況

依頼した高等学校数〔200〕

志願者のあった高等学校数〔186〕

（商業科）

志願者・合格者等状況

	経済	経営	合計
志願者数	47 (15)	55 (26)	102 (41)
受験者数	44 (15)	54 (25)	98 (40)
合格者数	33 (13)	39 (21)	72 (34)
入学手続者数	33 (13)	39 (21)	72 (34)

＊（）は女子内数

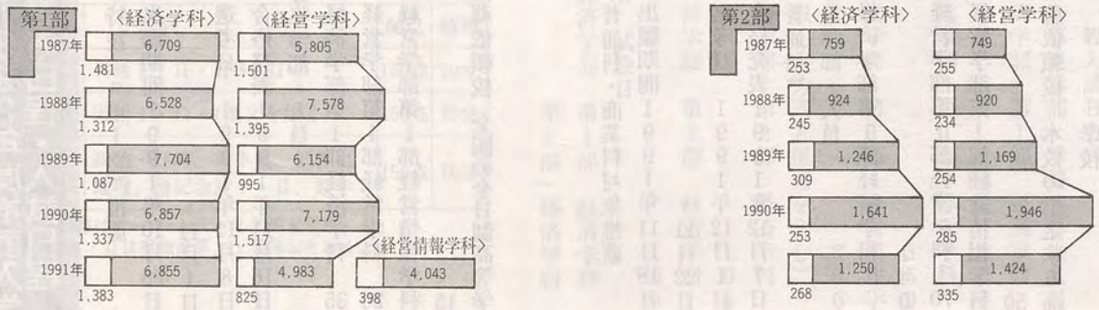
◇1991年度入学試験結果

2月9日㈯経済学科・10日㈰経営学科の入学試験を実施し、2月19日㈫に合格発表を行いました。

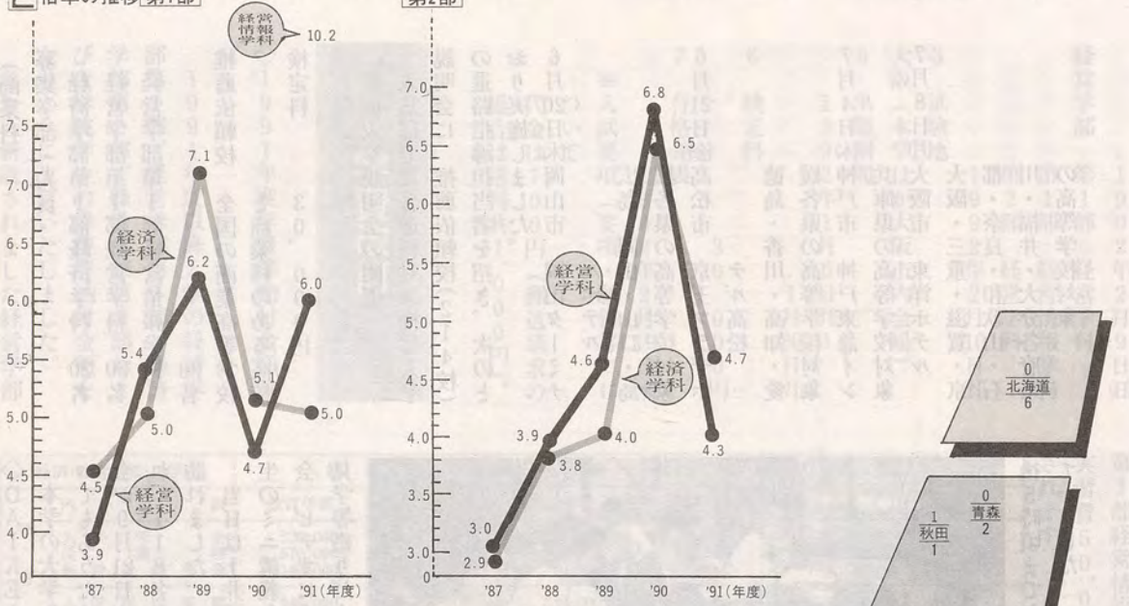
また本年度から開設された経営情報学科の試験は3月7日㈭本学で実施、3月12日㈫合格発表を行いました。なお、経営情報学科の入学試験の選択科目に新たに「数学Ⅰ」を加え、解答方法はすべてマークシート方式で行いました。

志願者・合格者等の状況は次頁の図表のとおりです。

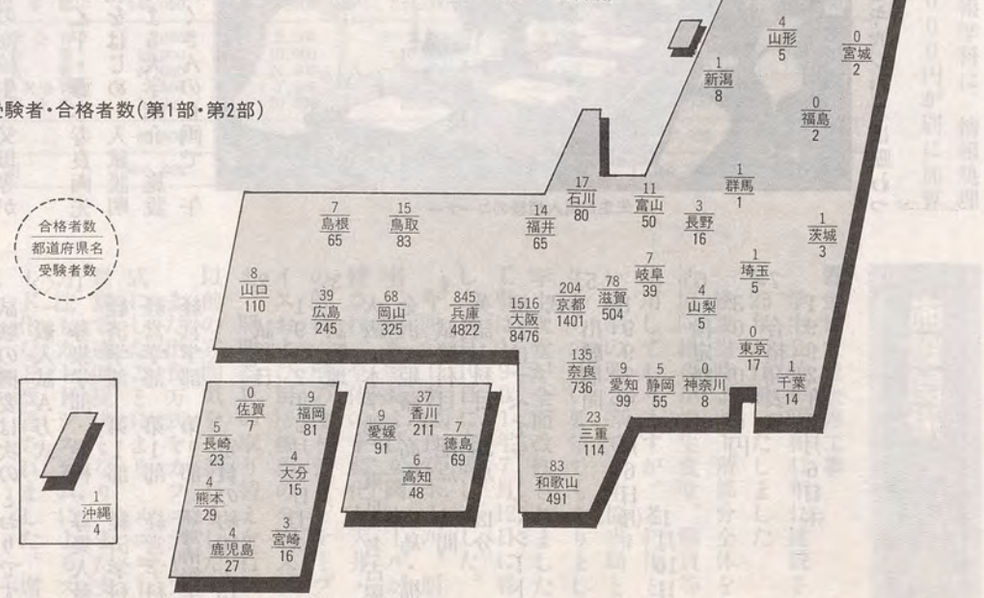
1 受験者・合格者数の推移



2 倍率の推移



3 都道府県別受験者・合格者数（第1部・第2部）



1992年度推薦入学選考日程・入試日程

◇特技（スポーツ）推薦
出願期間 1991年10月28日(月)～11月1日(金)
選考日 1991年11月8日(金)
合格発表 1991年11月16日(土)
募集学部・人員
経済学部第1部経済学科 35名
経営学部第1部経営学科 20名
経営学部第1部経営情報学科 15名
推薦依頼校 全国の全日制高等学校

◇普通科・商業科対象推薦
出願期間 1991年11月18日(月)～11月22日(金)
選考日 1991年12月1日(日)
合格発表 1991年12月7日(土)
（普通科）
募集学部・人員
経済学部第1部経済学科 140名
経営学部第1部経営学科 70名
経営学部第1部経営情報学科 50名
推薦依頼校 本校の指定する高等学校
（商業科）
募集学部・人員
経済学部第1部経済学科 20名
経営学部第1部経営学科 30名
経営学部第1部経営情報学科 20名
推薦依頼校 全国の商業高等学校と商業科のある高校
検定料 30、000円

◇推薦入学説明会の開催
入試部では普通科対象推薦入学説明会に、推薦依頼校（214校）の進路指導担当者を招き、次のとおり実施しました。
6月20日(木)岡山市 岡山ターミナルホテル
広島・岡山・山口・島根各県の高等学校対象
6月21日(金)高松市 京王プラザホテル高松
徳島・香川・高知・愛媛各県の高等学校対象
7月4日(木)神戸市 神戸東急イン
兵庫県の高等学校対象
7月8日(月)大阪市 東洋ホテル
大阪・三重・滋賀・京都・奈良・和歌山・石川・福井・大分各府県の高等学校対象

◇DAIKEI CAMPUS'91
本学の大学生活の雰囲気を味わってもらうため、キャンパス見学会が9月21日(土)午後2時から行われ、118名の高校生・父母等が訪れました。
当日は土井乙平・藤本寿良両先生のミニ講義をはじめ、入試説明会、ビデオによる大学紹介、施設見学等盛りだくさんの企画で、午後5時頃までキャンパスは賑わっていました。

先生と個人相談のコーナー

■1992年度入学試験概要
1992年度から入学試験制度を変更し、一般入試をA方式とB方式の2方式で行います。
試験の概要は次のとおりです。

◇一般入試A方式
1 募集学部・学科・募集人員
経済学部 第1部 経済学科
経営学部 第1部 経営学科
経営学部 第1部 経営情報学科
定員の約10～15％
2 試験日
1992年2月1日(土)
3 試験地
大阪（本学他）・東京・名古屋・金沢・姫路・高松・広島・福岡
4 試験科目・配点・時間
英語1科目・300点 120分
解答はすべてマーク・シート方式。
5 出願期間
1992年1月6日(月)～1月16日(木)
6 検定料
30、000円
7 合格発表日
1992年2月6日(木)

4 試験科目・配点・時間

教科	科目	配点	時間
外国語	英語Ⅰ・Ⅱ・ⅡB・ⅡC	150点	70分
国語	国語Ⅰ・Ⅱ・（漢文を除く）	150点	70分
選択（1科目）	政治・経済、日本史、世界史 地理、簿記会計Ⅰ・Ⅱ、数学Ⅰ	150点	70分

※全科目、解答はマーク・シートと記述を併用。
※簿記会計Ⅰ・Ⅱは原価計算、工業簿記を除く。

◇一般入試B方式
1 募集学部・学科・募集人員
経済学部 第1部 経済学科 650名
経営学部 第1部 経営学科 350名
経営学部 第1部 経営情報学科 300名
（以上A方式と推薦を含む）
経済学部 第2部 経済学科 100名
経営学部 第2部 経営学科 100名
2 試験日
経済学部 第1部 経済学科
第2部 経済学科
1992年2月9日(日)
経営学部 第1部 経営学科
第1部 経営情報学科
第2部 経営学科
1992年2月10日(月)
3 試験地
大阪（本学ほか大阪市内会場）
5 出願期間
1992年1月6日(月)～1月20日(月)
6 検定料
30、000円
7 合格発表
1992年2月19日(水)
※入試要項（要項・願書等）について
代金は700円（郵送請求の場合は送料共1、000円）。

学費改訂

◇1991年度学費等納付金額改訂
1991年度以降入学の経済学部第1部、経営学部第1部、経済学部第2部、経営学部第2部および大学院学生の学費等納付金額を次のように改訂いたしました。
なお、新設されました経営学部第1部経営情報学科は、情報処理実習費50、000円が別に加算されます。

経済・経営学部・大学院		第1部		第2部		大学院	
	内訳	改訂学費	旧学費	改訂学費	旧学費	改訂学費	旧学費
学費	入学金	230,000	200,000	90,000	60,000	230,000	200,000
	授業料	570,000	450,000	210,000	140,000	570,000	450,000
	施設設備資金	140,000	110,000	30,000	18,000	150,000	120,000
	入学年度年額	940,000	760,000	330,000	218,000	950,000	770,000
委託徴収金	大学会費	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
	阪経会費	10,000	10,000	10,000	－	－	－
	後援会会費	27,000	24,000	27,000	24,000	30,000	30,000
	同窓会費	7,600	7,600	5,200	5,200	5,000	5,000
	自治会・学友会費	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000
	生協同組合						
	計	66,600	63,600	64,200	51,200	57,000	57,000
合計		1,006,600	823,600	394,200	269,200	1,007,000	827,000

施設関係

■生協食堂改修工事
学生会館が昭和41年に建設されて25年が経過いたしました。
建設当時より1階部分全体を生活協同組合が学生食堂、購買等に使用しておりますが、老朽化と使い勝手の悪さ等で、生協当局と学生からの強い要望でもありました学生食堂が全面改修されました。
工事は1991年7月12日に着工し、9月10日に完成しました。
今回の工事は食堂ホール、厨房室、喫茶室および玄関ホールが改修され、全体の空調化と天井・床の張替、壁の塗り替え、テーブル、イスおよび厨房機器の全面入れ替え、照明器具の取り替えを行い、以前の雰囲気を一新しました。
また出食方式をカフェテリア方式にしたことにより、メニューが豊富で適温提供となり、また支払方法もカードシステムによるスピード化など改善されました。席数は350。
日々の学生生活で重要な食生活面での厚生施設の充実が図られました。

就職関係

◇1990年度就職状況

空前の売り手市場を背景に、短期即決型の様相を呈した就職戦線のもと、別表のとおり優良企業への就職が決定しました。規模別にみると、資本金10億円以上の大企業への就職者が742名（全就職者の55・6%）を数え、また上場企業への就職者が514名（全就職者の38・5%）という好結果となりました。なお求職者は、本人の都合で就職しなかった者を除きすべて決定しました。

就職相談

◇就職説明会
開催日　4月15日(月)・16日(火)
テーマ「就職活動を始めるにあたって」

◇就職特別講座
開催日　4月19日(金)
テーマ「就職活動について」
講　師　繊研新聞社　森貞雄氏
出席者　271名
開催日　5月22日(水)
場　所　ホテルプラザ
講　演　「これからの日本経済について」
日本経済新聞大阪本社
編集局次長兼経済部長
田中　元　氏

◇先輩就職活動報告会
就職部では、標記報告会を次のとおり開催しました。いずれも会場は記念館4階大会議室、時間は14：00～16：00。

5月13日(月)　出席者　33名
社名　OB在籍者数
養命酒製造㈱　1名
タカラスタンダード㈱　57名
㈱トーモク　8名
日本電気ホームエレクトロニクス㈱　7名

5月14日(火)　出席者　57名
㈱ジャックス　24名
㈱池田銀行　94名
㈱泉州銀行　62名
大和證券㈱　15名
㈱関西銀行　68名

5月15日(水)　出席者　19名
協和電設㈱　9名
前田道路㈱　5名
センコー㈱　27名

5月16日(木)　出席者　53名
㈱日伝　17名
シャープエレクトロニクス販売㈱　35名
八洲電機㈱　2名
㈱キーエンス　11名

5月17日(金)　出席者　35名
㈱ニチイ　208名
イズミヤ㈱　96名
生活協同組合コープこうべ　103名
上新電機㈱　89名

■1991年度業界説明会開催
大学主催の業界説明会を左記のとおり開催いたしました。

記

日　時　7月2日(火)　12時10分～13時50分
場　所　記念館4階大会議室
出席者　100名
企業名
◎百貨店
大丸　人事部　専任課長　西谷　潔　氏
◎電　機
富士電機　人事勤労部　人材開発センター部長　山内　勝博　氏
◎鉄　道
西日本旅客鉄道　人事課　杉原　清道　氏

国庫助成

◇平成2年度私立大学等経常費補助金について
平成2年11月28日付けで申請していました標記の件について、平成3年8月23日付けで確定通知がありました。
〔確定額〕362、122、000円
（海外研修派遣補助金　2、676、000円を含む）
※前年度比3・67%減

本学のみで開催された学術講演会・学会

◇1990年度　学生奨学論文受賞作決定
学生諸君の学術研究活動を奨励するための「学生奨学論文」の標記受賞作が、13編の応募作品から、次のとおり決定しました。

入選　日本の国際化をどう考えるか
―地方自治体における国際化の在り方―
経営学部3年　宮田　公人

入選　高水準言語の習得
―その過程と意義の概要―
経営学部3年　瀧瀬　和之

佳作　ペレストロイカと北朝鮮
経済学部3年　金山　雄史

佳作　経済発展と環境保全
―緑のビジョンにむけて環境保全を基盤とした経済体制―
経済学部4年　大森津夜子

佳作　株式相互持合とM&A
経営学部2年　武久　功司

佳作　石油について
―石油の歴史的推移・輸入の現状・用途―
経営学部3年　江間　浩崇

佳作　あらためて東京を考える
―東京の問題と関西の在り方―
経済学部4年　亀村　治彦

佳作　現代イベント考証
―官公庁イベントの現状と未来―
経営学部4年　高見　幸寿

佳作　高級志向の消費者心理
経営学部4年　嶋田　幹也

受賞式は1月14日(月)、50周年記念館で行い大阪経大学会から賞状

■業種・規模別就職状況

業種	会社数	規模 大企業	中堅企業	中企業	小企業	規模不明
農林・水産・鉱業						
建設	52	40	8	4		
製造	355	235	81	37	1	1
卸売	274	109	106	57		2
小売	131	76	35	18		2
金融・保険	221	188	26	1		6
不動産	44	15	16	11		2
運輸通信	43	27	13	3		
電気・ガス・水道						
サービス	146	52	42	23	2	27
公務	67					国家19地方48
その他	1			1		
合計	1,334	742	327	155	3	107
		55.6%	24.5%	11.6%	0.2%	8.0%

■おもな就職先

建設		岡村製作所	
前田建設工業		三和シャッター工業	
積水ハウス		トーヨーサッシ	
大和ハウス工業		吉田工業	
製造		オーク	
宝酒造		グローリー工業	
明治製菓		日本NCR	
デサント		富士ゼロックス	
東京スタイル		シャープ	
タカラスタンダード		日本ピクター	
レンゴー		日立マクセル	
大塚製薬		松下電器産業	
小野薬品工業		キーエンス	
参天製薬		三洋電機	
大正製薬		日本電気ホームエレクトロニクス	
田辺製薬		日本電池	
中外製薬		いすゞ自動車	
ツムラ		豊田自動織機製作所	
日本新薬		卸売	
日本チバガイギー		蝶理	
バイエル薬品		オンワード樫山	
持田薬品		グンゼ産業	
大陽酸素		ワールド	
日本化薬		三星堂	
コスモ石油		日本商事	
バンドー化学		山善	
三ツ星ベルト		キヤノン販売	
日本電工		日本たばこ産業	
丸一鋼管		小売	
三協アルミニウム工業		西武百貨店	
そごう		三洋証券	
イズミヤ		新日本証券	
ジャスコ		和光証券	
西友		明治生命保険	
ダイエー		住友海上火災保険	
灘神戸生活協同組合		大正海上火災保険	
ニチイ		東京海上火災保険	
上新電機		富士火災海上保険	
金融・保険		安田火災海上保険	
三和銀行		オリエントコーポレーション	
住友銀行		ジェーシービー	
太陽神戸三井銀行		不動産	
池田銀行		大京	
伊予銀行		運輸通信	
近畿銀行		近畿日本ツーリスト	
山陰合同銀行		全日本空輸	
四国銀行		東急観光	
泉州銀行		日本交通公社	
中国銀行		日本通運	
阪神銀行		日本道路公団	
百十四銀行		日本旅行	
兵庫銀行		阪神高速道路公団	
広島銀行		福山通運	
福徳銀行		日本電信電話	
大和證券		サービス	
日興證券		インテック	
野村證券		ダスキン	
岡三證券		公務	
勧角証券		国家19名	
国際証券		地方48名	

■地域・規模別就職状況

		大企業	中堅企業	中企業	小企業	規模不明	計
北海道・東北		1		1			2
関東	東京	243	71	23	1	8	346
	その他	7	3				10
中部		10	13	7		1	31
北陸		16	8	4		4	32
近畿	三重		1	1			2
	滋賀	6	4	1		3	14
	京都	23	9	5		6	43
	大阪	293	140	77	1	40	551
	兵庫	95	47	13	1	20	176
	奈良		7	2		3	12
	和歌山	7	3	2		2	14
中国		24	17	15		8	64
四国		14	4	4		8	30
九州		3				4	7
合計		742	327	155	3	107	1,334

※大企業：資本金10億以上
中堅企業：資本金1億以上10億未満
中企業：資本金1千万以上1億未満
小企業：資本金100万以上1千万未満
規模不明：資本金で分類できない企業

と副賞が贈られました。
また、後援会から応募者全員に記念品が贈られました。

■第7回経大生のためのパネルディスカッション

テーマ　**冷戦後の世界と日本**
―ソ連クーデターにも触れつつ―

戦後はヤルタ会談に始まり、マルタ会談で終わったといわれる。INFが全廃され、ソ連東欧の集権体制も終焉しつつある。米ソ・デタントはSTART調印にまで拡がり、ヨーロッパでは通常兵器削減交渉や全欧安保構想へと進展した。91ロンドン・サミットは、7プラス1という事実上の世界会議に変身した。もっとも、湾岸戦争やソ連の三日天下クーデター（91年8月19～21日）という、この流れへの前近代性を露呈する場面もあったが、想えば、脱冷戦はチャーチルが「鉄のカーテン」と断じてから40有余年後のことである。

日本は、この間、冷戦と自由貿易体制によってビッグ・エコノミック・パワーになった。しかし世界の風当たりも日増しに強まっている。同時に、日本はサミットの一員とアジアの構成員という二つの顔を持っている。さらに、安保と憲法というアンビバレンスをも内包している。

真のデタントを世界全域にまで発展させるためには何が必要か。政治軍事・経済・思想の観点から冷戦後の世界と日本についてディスカッスしてみたい。

パネルディスカッション「冷戦後の世界と日本」

日　時　1991年11月12日㈫
　　午後1時～4時
場　所　記念館4階大会議室
出席者　250名
パネリスト
坂井　昭夫氏（京都大学経済研究所教授　国際財政論　国際公共経済学）
「軍事の経済的負担とバードン・シェアリング」
岩垂　弘氏（朝日新聞編集委員）
「湾岸戦争後の日本政府と日本世論の動向」
上島　武氏（本学教授・社会主義経済論）
「ソ連にとって冷戦とは何だったのか」
コーディネーター
松村文武氏（本学教授・国際経済論）

◇1991年度大阪経大学会研究会（第1回）
日　時　6月15日㈯午後1時30分
場　所　記念館7階同窓会ホール
テーマ　社会主義に未来はあるか？
―中国・ソ連・東欧―
司　会　山本　恒人氏
報告者　程　極明（チョンチーミン）氏
　江蘇省社会科学院世界経済研究所所長
出席者　18名（第2回）
日　時　9月27日㈮午後1時
場　所　記念館7階第1・2会議室
報告者・テーマ
森田　寿一氏
「スウェーデン　限りなき制度化への努力」
（付）カナダ范々
重本　直利氏
「意識と情報における管理」
尾嶋　史章氏
「シアトル遊学記」
出席者　14名

◇その他の学会・研究会
土地制度史学会近畿部会　1991・1・19
関西中小企業研究会　1991・3・16
　1991・5・18
　1991・7・13
経営診断学会流通診断部会　1991・4・27
商法研究会　1991・8・2
日本労務管理協会　1991・4・27
経済学史学会・関西部会大会　1991・5・3
経済統計学会関西支部例会　1991・5・25
第33回国際経済学会関西支部総会　1991・6・2
日本中小企業学会西部部会研究会　1991・6・15
　1991・9・21

公開講座

◇第9回公開講座開催
（大阪府立文化情報センター共催）
〔メインテーマ〕
世界がみた日本の労働
〔趣　旨〕
KANBAN　KAIZEN
KAROSHI　日本的経営が賞賛されて日本語がそのまま国際語として通用しています
カンバン・カイゼン　そして徹底的にムダを排し効率を求める日本的経営を支える労働者には若くして突然に死が襲いかかるこれが国際語として通用しています
カロウシ　この奇妙な循環国際化の流れのなかで日本的経営をもう一度考えてみる必要があります
外国人労働者・女性・高齢者の視角から労働を再検討しますそこから何が見えるか!?
〔日時〕
9月13日㈮～10月18日㈮　夜
〔場所〕
大阪府立文化情報センター
〔スケジュール〕
9・13㈮　ストレス社会をいかに働くか
―街のひとりの医師として―
大阪府済生会中津病院　院長　辻野　博之氏
9・20㈮　日本企業のサラリーマンとモラール
―労務管理との関連で―
鈴木　滋氏
9・27㈮　人生80年時代をどう生きるか
―家庭と職場―
土井　乙平氏
10・4㈮　外国人労働者との共生
―中小企業の人手不足問題から―
高城　寛氏
10・11㈮　これからの働く女たち
―女子差別撤廃条約と機会均等法―
西口　俊子氏
10・18㈮　世界がみた日本の労働
―三つの尺度から―
置塩　信雄氏
申込者数570人、出席者数は延べ744人（内女性228人）で、好評のうちに無事終了しました。

9月20日　鈴木　滋氏

◇平成3年度大阪市大学開放講座〈大阪経済大学市民教養講座〉の開催
平成3年度の標記公開講座（大阪市教育委員会と共催）は延べ950名の出席者を得て左記のとおり実施しました。
開催日時　5月11日～7月6日
　毎土曜日午後2時～4時
開催場所　50周年記念館大会議室
テーマ　**くらしと環境**
5月11・18・25日
「子ども・教育・環境」
柏木　正氏
6月1・8・15日
「水循環から環境を考える」
山田　國廣氏
6月22・29・7月6日
「地球環境と農林業」
里上　譲衛氏

「子ども・教育・環境」柏木 正氏

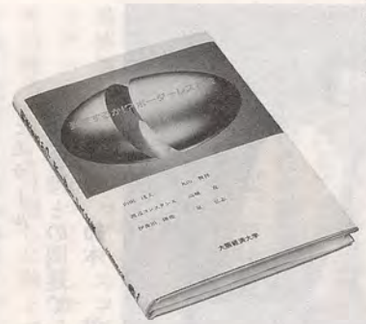
◇第8回公開講座講演集
『到来するか!?
ボーダーレス社会』
大阪経済大学公開講座委員会編
1991年4月30日
大阪経済大学企画広報課発行
定価2、000円

公開講座は、「開かれた大学」「生涯学習」のひとつとして、大阪経済大学の日ごろの研究成果をひろく社会へ還元しようと、1983年から創立50周年記念事業の一環として、実施して参りました。

以来、昨年で8回と積み重ね、このたび、初めて講座の全内容を1冊の単行本にまとめることができました。

講座そのままの語り口で、くらしと大きく関わりながら難しそうなテーマを、より分かり易く、また読み易いデス・マス調で表現しました。

この際ぜひ、ご購読をお薦めいたします。



マスコミ関係

◇1991年新聞紙上での本学記事

1／28 朝日新聞朝刊
「カギ握る大金負担する日本」湾岸戦争での談話
永野 仁 教授

1／31 読売新聞夕刊
「人間が主役の情報学を」
渡辺 泉 教授

2／18 読売新聞朝刊
泉州マラソン
土井さんが優勝
経済学部3年
土井 秀之 君

5／18 朝日新聞夕刊
「住みやすい大阪」めざそう
重森 暁 教授

5／18 毎日新聞夕刊
公開講座の「講演集」出版

6／27 毎日新聞朝刊
和歌山県・かつらぎ町「西方寺の阿弥陀如来座像」
談話 田村 寛康助教授

7／3 日本経済新聞朝刊
「登場」欄
証券投資信託協会会長
評議員 井阪 健一氏

8／29 産経新聞朝刊
「体温計」で談話
西山 豊 助教授

◇西山豊先生が日本テレビ『ご存じですか』に出演

2月28日㈭午後1時、東京の日本テレビ取材班が『ご存じですか』（生活ミニ情報）の番組づくりのため、本学を訪れ、西山豊助教授に「体温計」についてインタビューを行いました。

先生は番組の中で、視聴者に体温計について正しい知識をもってもらおうと、電子体温計の特徴、体温計の測り方などアドバイスされました。

本館3階　特別会議室において

『ご存じですか』は3月11日㈪、読売テレビで午前11時25分から、約5分間にわたって放映されました（全国ネット）。提供は総理府。

■西山豊先生がABC⑥TV「小枝王国」に出演

1991年6月5日㈬午前9時30分からABCテレビのビショップinナイト「小枝王国」の番組取材が西山先生にあり、大学院館において録画撮りが午後3時まで行われました。

番組は落語家の桂小枝等出演者7名に西山先生が数学を出題し、苦手な数学に親しんでもらおうと企画されたものです。

先生の生活に関連した数学の出題と分かり易い解説で、楽しい数学教室となりました。

6月24日㈪深夜12時35分から「小枝王国これなら簡単・知って得するオモシロ数学」と題して40分間放映されました。

ご覧になりたい方は企画広報課までご連絡下さい。

新刊紹介

青水 司 著
『情報化と技術者』
青木書店 1990・10
223ページ
定価 2、575円

重本 直利 著
『意識と情報における管理』
窓社 1991・2
277ページ
定価 3、940円

西山 豊 著
『サイエンスの香り—生活の中の数理—』
日本評論社 1991・2
194ページ
定価 2、000円

滝内 大三 著
『西欧人間形成史』
晃洋書房 1991・4
273ページ
定価 2、900円

松井 和夫 著
『M&A—20世紀の錬金術』
講談社現代新書 1991・4
275ページ
定価 650円

上田 慧・谷口明丈・松岡憲司 著
『企業社会のゆくえ—21世紀への胎動—』
昭和堂 1991・7
166ページ
定価 1、600円

大阪経済大学公開公座委員会
『到来するか!?ボーダーレス社会』
湯川書房 1991・4
227ページ
定価 2000円

大阪経大学会編
『地球環境とくらし』
昭和堂 1991・3
195ページ

『地球環境とくらし』の刊行によせて

本書は、1990年11月27日に行われた第6回経大生のためのパネルディスカッションの報告集です。

「はじめに」と「むすびにかえて」は総合司会の山田達夫先生、第Ⅰ章「太陽活動による温暖化・寒冷化」は久保田諄先生、第Ⅱ章「温室効果ガスによる温暖化の仕組みとその影響」は神戸商船大学教授斎藤実先生、第Ⅲ章「地球規模の環境変化」は奈良大学教授池田碩先生に、パネルディスカッション当日の録音テープを起こしたものをもとに、貴重な写真や資料も加えて、あらためて執筆していただいたものです。

第Ⅳ章「ディスカッション」にパネルディスカッションの討論を収録しています。当日、参加した学生諸君より200通近くの質問書が寄せられました。あまりに多数にのぼるため、総合司会の山田先生にいくつかのグループに分けていただき、それぞれにパネリストの3人の先生より答えていただきましたが、それらの記録を収録しています。

付録は、参加学生より寄せられた感想文8篇と、本学図書館により編集された所蔵関係図書リストからなっています。

本書の冒頭には、広告研究会の学生諸君が作成してくれましたパネルディスカッションのポスターを飾らせていただきました。

本書は3,500部発行しました。1989年の第5回パネルディスカッションの報告集『あらためて関西を考える』は当初とりあえず2,000部発行しましたところ、関係諸機関をはじめとする皆さまよりご好評を頂戴し、増刷を重ねて最終的に3,000部の発行となりました。この経験をふまえ、今回は当初より3,500部を発行しましたが、本書もまた学内外で広くご利用いただけることを願っています。

なお今回も、本学の生活協同組合書籍部のご協力を得て頒価にて配布させていただいています。

◇京阪守口市駅に柱付電照看板を設置

4月1日から、京阪守口市駅西口（売店前）に柱付電照看板を設置しました。

サイズは100×100（cm）。

京阪守口市駅は急行停車駅として乗降客もとみに増加しており、乗降人員数は55,000人。京阪沿線中第12位です。

ゼミ短信

これからも現役同様に頑張ります

井上　清先生

（井上ゼミナール）ゼミOBの皆さん、激動する国内外の政治・経済情勢の下、元気にご活躍されていることと思います。私も引き続き元気に講義とゼミの指導にあたっています。学外ではOB会＝清寿会以外にOB有志による文化サロンや六甲シルバー会（60歳以上）が組織され、知的向上と懇親を図り、活気あふれる生き方が探求されています。

1993年3月末で、私の特任教授の期間が終わりますので、それまでは現役と変わりない迫力で頑張りたいと思っています。

内外政治・経済情勢が激変していますが、原理・原則をしっかり把握して対処しないと「最後に笑う者」とは成りえないでしょう。

最後に一言、バブルはじけて道理貫天地。

「工業経済論」

遊び人(?)集団です

伊豫田　隆俊先生

みなさん〃お元気ですか?〃

「伊豫ゼミは遊びゼミやでエ～」という無責任なウワサのおかげで、私の思惑とは違って遊び人の学生が沢山ゼミに集まってしまいました。おかげで前期はソフト大会にコンパetc.と、やたらレクレーションが増えてしまいました。「こんなことではアカンなア～」と思いながらも、人の性とはいつしかハメを外してばかりです。せめて10年後の「ゼミ短信」にはもう少しマトモなことが書けるようになっていればなぁ…などと思っていますが、無理かなぁ、やっぱり。

「複式簿記システム論」

先生の近況

金文を勉強中

岩井　茂先生

本年1月、右眼の白内障の手術を受け、お蔭さまで順調に快復。片眼ながら（左眼も手術を受けましたが、眼底出血のために明暗がわかるのみ）とにかく再び読み書きができるようになりました。それに乗じて、目下金文（キンブン＝中国古代の青銅箔に刻された文字）の勉強をしています。まだ拙劣ですが、ご希望があれば、墨書の色紙をさし上げます。老後のご奉仕のため、無料にて送らせてもらいますので、どうぞご遠慮なくお申し込みください。

近況報告

倉辻平治先生

20年ほど前から毎年、夏休みを、信州野尻湖高原で過ごすことにしています。北信濃のこの高原地域でも最近、自然環境の悪化が目につきます。とりわけ、トンボ、蝉、蜘蛛などの虫類が少なくなりました。鬼やんまも、15年ほど前には散

上田慧ゼミ短信

上田　慧先生

上田ゼミ卒業生のみなさん。その後、元気でご活躍のことと思います。私も、1977年に本学に赴任してから、はや14年目になります。みなさんとの懐かしい思い出がつい昨日のように思い起こされます。

私の方は、大学がにわかに改革に迫られている折、多忙な日々をおくっています。

ゼミでは、卒論の内容重視は変わりませんが、近年は、コンピュータを利用して文書作成や簡単な統計を並行して身につけさせ、ビデオも活用しています。皆さんが関西ブロックゼミ参加のため、苦労して準備していたことを思い出します。

1985年には、1年間、アメリカのミシガン州立大学（MSU）公益企業研究所に留学し、帰路、フランスなどヨーロッパを廻ってきました。その年、最初の自著『転換期のアメリカ企業』同文舘、を出版しました。最近、政府系機関を通じてミシガン州公益事業委員会委員長が訪問してくれるなど、国際交流も盛んになりそうです。

現在、公益企業とアメリカ企業に関する本2冊、来年中に出版予定でまとめています。

1989年秋には、本学の公開講座で講演しました。その講演をもとに、この度、本学の谷口・松岡先生とともに、『企業社会のゆくえ―二一世紀への胎動―』という共著を、昭和堂より出版いたしました。アメリカで撮った写真も掲載してますので、気がむいたら読んでみてください。

卒業後、ひょっこりと研究室を尋ねてくれる卒業生もおります。II部のある年度の卒業生は、今でも毎年コンパを開いています。OB会結成の希望の声もチラホラ聞こえることもありますが、みな多忙でしょうから負担にならないよう、よい機会があればということにしましょう。どうぞお元気で。また、近況をお知らせします。

「公益企業論」

シアトル留学を終えて

尾嶋　史章先生

経大に着任して早くも5年が経過しました。社会学の講義では、かなりの方とお付き合いしたことになります。

さて、昨年4月から本年3月まで、アメリカのシアトルにあるワシントン大学に留学していました。シアトルといっても、剛染みがうすいかもしれませんが、アメリカ西海岸の北の端、カナダのバンクーバのやや南といえば、地理的な位置はおわかりいただけるでしょうか。北海道より緯度的には北ですから、夏でも30℃を越える日は少なく、冬の寒さは海流の影響で大阪と同じくらいと、非常に過ごしやすいところです。去年の猛暑と比べると今年の大阪はとても涼しいようですが、久しぶりに経験する蒸し暑さに少々夏バテ気味です。

卒業生の皆さん、私に顔でも見にきませんか。お待ちしています。

「社会学」

先生の近況

コペルニクス的転回

平　實先生

世界史的に見て大仰に言えば、まさにコペルニクス的転回と考えてもよいような、局面の展開が生じている如くに思われる。ソ連を始めとして東欧諸国の市場経済への傾斜。資本主義的政策への接近など、まことに世界情勢の急激な変化には、実に桑田変じて滄海と化す如き感じを覚える。

社会主義、共産主義はそれほど無力なものだったのであろうか。ルーマニアその他東欧諸国の指導者たちのやり方が悪かったとしても、レーニン像が次々と撤去され、時には引き倒されるなど、我々の青年時代には考えられなかったことで、歩の折時たま見かけたものですが、今は全くその姿を消してしまいました。五味康祐氏の『柳生武芸帳』に出てくる、鬼やんまをシンボルにした、宮本武蔵と柳生兵庫介の出会いの名場面を読み返しながら、鬼やんまの翔んでいた過ぎし日の高原風景を想起しています。

平成3年8月
信州野尻湖高原にて

現代英語にカルチャーショック

片山　麻美子先生

私の学生時代は、古い(19世紀の)英語を読んでいました。大経大で教えるようになってから、私の英語観はひとつのカルチャーショックを受けたようです。

英語も米語も大切だというのが、今の私の気持ちでしょうか。まだまだ学ぶことが多いという実感です。

「英　語」

恒例の野尻湖へのゼミ旅行

木村　敏男先生

卒業生の諸君、元気で有意義な日々を送っていますか。私は相変らずですが、変わらないのが何よりと以って瞑すべきこの頃です。

今年(91年3月)卒業したゼミ生と来年(92年3月)卒業予定のゼミ生はともに30人前後の多数でした。演習は2班（2時限）に別けてやりますが、そうしないと各学生の報告のチャンスが少なくなるからです。

しかし、恒例の野尻湖へのゼミ旅行は30人が一緒ですから、セミナーハウスだけでは収容し切れず、私の山荘の離れ部屋にも数人をとめました。昨年は数人が前日にやってきて、一緒に黒姫山麓で山菜（たらのめ）を採り、夜の食卓を賑わしましたが、今年は私と妻が健闘して30人分を採集しました。「珍しい」、「美味い」と言ってくれるのが嬉しくて。

昨年度の卒業生の就職希望者はすべて早々に内定し、概ね本人希望の企業や役所などに就職しましたが、今年はさらに早々と内定しつつあり、まことに結構です。

「産業構造論」

はじめまして

桜井　三枝子先生

この四月より眉目秀麗なる若者を前にして、スペイン語と文化人類学を教えることになりました。立派な先輩方々がたくさんいらっしゃるとお聞きしていますが、21世紀に向かう大経大の後輩をどうぞよろしく。

「スペイン語」

"バブル"に想う

重本　直利先生

最近、学生が変わりはじめてきたように思う。ソフトで「辛口」のものを好む態度から、ハードで「甘口」のものを好む態度に座標軸をずらしつつあるようだ。現代日本社会が、〝やわらかさ〟〝やさしさ〟〝平易さ〟の過剰であったことの一種の反動なのだろうか。

バブル経済のあおりか、大学もバブルがみられるようになってきている。泡は吹けば飛ぶ。過去60年間に培われてきた経大アイデンティティがバブルのあおりで少し揺らいできたようだ。刺激ともなりうるが、危険な誘惑である。情報化社会は容易にバブル社会となる。バブル経済だけでなく、バブル文化、バブル生活、バブル人間といった具合の危険が常につきまとう。

40年たてば、経大創立百年である。その時

先生の近況

回顧すれば感慨無量と言わざるを得ない。世をあげて財テクやマネー・メーキングに狂奔し、世紀末的な享楽消費にうつつを抜かしている世相を観察すると、人間不信の念が湧いてくるのである。結局、金力に結びついたマハト、ゲヴァルトなどが人間社会を支配する根元的なものであり、私有財産制を基礎にした弱肉強食優勝劣敗は、この世を貫徹する不動の原理なのであろうか。

こんなことを考えていると、かつて小生が研究したカルル・ゲオルク・ヴィンケルブレッヒ（筆名カルル・マルロ）の思想、すなわち世界は自由主義、共産主義の二つが統合されて、連邦主義になって行くという思想が想い出される。それと同時にまことに不幸なことであるが、人類社会は自然科学が非常に発達し地上の楽園の如くになるが、その後は種々な好ましからざる事態が発生し、やがて人類社会は滅亡すると喝破したシャルル・フーリエのことが思い浮かんでくるのである。

そうした破局は何時のことか判らないが、それまではケ・セラ・セラでやって行きましょう。

同窓会諸兄姉の御健勝を心からお祈りして擱筆します。

までにどういう大学づくりをするのか。世紀末から新世紀をむかえるこの10年間が正念場であると思う。学生が変わりつつあると言ったが、もうそろそろ変わってもらわなければ、大学教育は日本では成り立たなくなってしまうという思いが強い。もちろん教員も変わらなければと思う。団塊の世代の大学教員の一人として、まさに正念場の今後10年である。

学生が、社会への関心をもちはじめた今、バブル教育にならぬようゼミと講義に励みたいと思うこの頃である。

「情報管理論」

高翔会の皆さんへ

高城　寛先生

〝お元気ですか?この手紙、北の街で書いてます〟なんていうのは、演歌（挽歌）の世界ですが、小生もどうやら元気です。学生部長の任期も終わり、今は中小企業・経営研究所の所長としての仕事が始まっています。専門の領域で小生自身は勉強のやり直しですが、先生方と〝こうしようかい〟なんてガヤガヤやっています。昨秋の大学の公開講座〝到来するか!?ボーダレス社会〟では、〝人手不足と中小企業〟の問題を駄弁りましたが、講演集として印刷されましたので、お読み下されば幸甚です。今年のテーマ〝世界がみた日本の労働〟でも外国人労働者の問題を話する予定です。ゼミのモットーである〝よく学び、よく遊び〟の後半部分だけは十分実行していますが、今年はよく学んで、仕事をまとめようと思っています。高翔会の皆さんとの再会を楽しみにしております。

「企業ネットワーク論」

今年の目標……遊びを追求

高津　芳則先生

私の近況について、ご報告させていただきます。

関西にきて2年目。ようやくこちらの生活に慣れてきました。

仕事のほうも徐々に増えてきましたが、今年はそれに負けず、『遊び』を追求したいと思っています。

「教育行政学」

ゼミ再開、8年目に突入

滝内　大三先生

ゼミを再開して3年目。年々希望者が増加し、うれしい悲鳴です。今年はじめはOBに学内実習講師を委嘱し、好評を得ました。

私は今春、『西欧人間形成史』を出版。来年はイギリス留学の成果を本にしたいと思っています。

「603　京都市北区紫竹下長目町」まで、ぜひ近況をお知らせください。ゼミ通信紙をさし上げます。ゼミ生の就職活動も順調です。一度同窓会を開きませんか?

「教育学」

先生の近況

「三かく」の実践

田中健一先生

ゼミ学友諸君には御健勝で各分野でご活躍の趣、大慶至極ですと共に老生へのご配慮に多謝しています。お陰で老生文字通り健（康）一（番）で、アルツハイマー型痴呆防止の為、「三かく主義」―汗かく文かく声をかくーを、実践中ですのでご放念下さい。只、老妻が痴呆・神経系諸疾患・脚弱の為、日常生活雑事にふりまわされて、引退時の目的が未だに果たせずにおるのです。

学友諸君には在学中、「一体三水」―汗し泪し血を涌かすー（夏の高校野球試合そのもの、三水の尊くきれいなこと）の実行を促したものでしたが、本年6月頃の読売紙上で安田生命会長氏が「一体三流」―汗し涙し血を流すーを称えおり、この「血を流す」には抵抗を感じたものでした。

学友諸君は老生の「一体三水」の人生訓を参考に願えれば幸甚です。

処で老生のゼミ（教職関係）卒は昭和47年（1期）から8期で終り、総数105人にすぎず、就職先は公務員・商社マン・家業人等、然し流石に教職従事者が最も多く、又、ゼミ外でも老生指導下の教職者が全国で何人に及ぶか数えたこともないが、昨今、各地教育界で教師問題多発するや、我が教え子教育者には問題なしと思いつつも神経を尖らすのです。

明治―平成と時代変り社会・技術の進歩変遷にも拘らず、「人間形成」を目的とする教育の理念は不変であり、その人間関係は全く独自なもの、教育の場ではその人間関係は単なる手段でなく目的そのものなのである。教育者はあくまでもシュプランガーの人間個性の6類型（理論型・宗教型・権力型・審査型・経済型ではなく社会型）である。本質的に社会的人間、ペスタロッチの愛の人、ケルシェンシュタイナーの被教育者との心のつながりの実践を貫いていく人であるべきでしょう。

教育者の在り方については拙著『機会均等の教育原理』の第8章「教育者の本質」を再読願いたい。

末筆で失礼ですが、御結婚のことで心配しています。既に殆どが結婚済みですが、まだ数人未婚のようなのです。種々ご事情もあろうと存じますが、出来れば早く結婚披露宴にお招き下さい。彦根・伊予・金沢へのように、まだ元気でどこでも旅行できますから。

現代っ子がんばれ

土居　充夫先生

父の初盆で郷里の高知に帰っています。南国とはいえ、朝晩はもちろん、昼間から涼風が吹きぬけて心地よい眠気に誘われます。

さて、初めてゼミを担当して痛感したのは、「世代のズレ」です。1953年生まれの私は、テレビが家にはいり、遊び場だった野原や小川が消えあるいは汚れ、「節約と勤勉」の道徳が「使い捨て」の道徳にとって代わられたことを身をもって体験しています。）

一般化して言えば、文化の世代間伝達の問題なのでしょう。無数の先人たちも思いを伝えられない悔しさを胸にだいて、あるいは諦念でもってこの世を去っていったのだ…と考えるとさすがに神妙な気持ちになるのです。

「政治学」

スポーケン市は魅力いっぱい

中川　操先生

卒業生のみなさんお元気ですか。この「ゼミ短信」はアメリカ・ワシントン州のスポーケン市で書いています。今泊っているところは2、4万坪の土地に16室もあるどっしりと落ち着いたヨーロッパのホテルのような建物で、この家の持ち主は三つも家があって夏の間湖の家に居るからと言って私達だけで住んでいます。21日にはスポーケン市の「わが家」が完成予定で22日新しい家へ引越します。スポーケン市での英語研修には今年は経大生は10名参加しその半数が私のゼミ生です。今年の2月はゼミの卒業旅行にフロリダへ行きましたが、その中7名がロスアンゼルスから別れてスポーケン市へ行きホームステイをしながらスキーを楽しんできました。英語研修の時お世話になったホストファミリーが喜こんで泊めて下さったそうです。スポーケン市は夏は特別にすばらしい所ですが、冬、特にクリスマスの魅力にとりつかれてしまいます。

「英語」

気軽にお付き合いしましょう

長岡　延孝先生

今年度から、縁あって本学の一員にさせていただきました。経済政策の講義を担当していますが、とくにヨーロッパ経済に関心をもっています。

経大は庶民的な様子なので、初めからとても身近に感じており、学内の方もそうであれば…と思っております。

今後、気軽にお付き合いいただければ幸いです。

「経済政策」

先生の近況

もう10年目になりました

樋口　克次先生

樋口ゼミ卒業生の皆さん、いかがお過ごしですか。当方は何とか元気にやっております。91年度現在、第9期の仲間と一緒に勉強しています。私自身今年で10年目です。第1期の卒業生の皆さんはもう30歳ですね。

すっかり変わってしまったでしょうね。逞しくなっているのでしょうね。ぜひ一度近況をお知らせ下さい。楽しみにしています。なお、今年度は月、火、土曜日に授業をしています。電話でも下さい。

健康にはくれぐれも気を付けて頑張って下さい。それではまた、さようなら。（91年秋）

「証券市場論」

ゼミ旅行で、海外へ

松原　和男先生

卒業生のみなさん、元気でご活躍のことと存じます。

本学の就職は史上最高といってよいほどの好調のうちに今年もほぼ終わったようです。これもみなさんのご協力のおかげと感謝しております。なお、小生の就職部での仕事もかなり長くなりましたので、マンネリ化するまえに辞めたいと思っていましたが、いま暫くやってほしいということになりました。本学の就職をさらに良くしていくために頑張るつもりですのでよろしくお願いします。

小生のゼミの国際化はマンネリ化するどころかさらに進み、昨年末にはグアム島へ、今年の2月下旬にはハワイへゼミ旅行にいってきました。グアム島では直撃はまぬがれたものの風速78メートルという猛烈な台風に遭遇しましたし、ハワイでも湾岸戦争下の米国の市民生活の一端に触れることができ、学生諸君にとってもそれぞれ良い経験をすることができました。

来年はどんな報告をすることができますか…みなさんの近況もお知らせ頂ければ幸いです。

「経済変動論」

学部長の任務を終えて…

松村　文武先生

OB、OGの皆さんお元気ですか？

私は3月末に何とか学部長の任務を終えました。無事かどうかは最低今後1年間の体調を見てみなければ分かりません。何しろ本学の積年の課題が一気に噴出したのですから。幸い経営情報学科が正式に認可されましたし、経済学部のカリキュラム改革の方向性も出しました。自分自身で学部長としての任務は、そこそこ果たしたと思っています。

さてゼミですが、4回生20名、3回生16名でうち7名が女子となっています（大学院にも1名、女子のゼミ生がいます）。4年の卒論指導には大学院生も参加させています。また12期生の藤村君が米国の大学院（ＭＢＡ）の入試に合格しました。私の担当しているゼミも、いろいろと賑やかになってきました。さ

経大の一員としての悦び

寺尾宏二先生

夏のはじめ、大阪経大同窓会から原稿を徴せられた時、その一員の認知を得たような悦びを持った。黒正先生の日本経済史研究所員に昭和8年に加わえていただき、その後昭和高商創設に当ってもお手伝いの中に入れられ、昭和19年の学制改革で大阪経済専門学校となり、黒正先生が旧制六高の校長専任となられた際、他流試合で鍛えられて来いと京大学生3年に転出したが、それ以来の変事もあって、遂に大隅乳牛牧の地に呼び戻される事がなかった。老化甚しくもともかく米寿の年になって寄稿せよとの恩令は、総会などの招待状や昭和高商12回までの卒業生のクラス会で、往時を語り合って黒正・菅野・大北・福井・藤田等の先生方を偲んでも、何か大阪経大同窓会には一抹の遠慮を感じていたことは否めなかった。今度の恩令にこれは払拭されて、更めて仁義をきって、諸先生はじめ諸兄に御無礼を陳謝せねばならない宿題を課せられた思いでいることを表白し初の御挨拶とする。

らに卒業論文集は今年も立派なものができあがり、わがゼミの慣習になりつつあります。さて世の中は小選挙区制、ＰＫＯ、米の自由化という物騒な3大話が飛び交っています。あくまでも平和あっての人生、地球あっての物種という真理を忘れずにいたいものです。

皆さんのご健康とご活躍を期待して筆をおきます。

「国際経済論」

タヴォースの空の下で

六浦　英文先生

トーマス・マンの小説『魔の山』の舞台になったダヴォースを、一度は訪れてみたいというのが、長い間の私の念願であった。

スイス連邦グラウビュンデン州の山中海抜千六百メートルにある国際的保養地ダヴォースの秋の空は、驚くほど青かった。

西側の山の中腹シャッツアルプには、針葉樹林に囲まれて、白亜の優美なホテルが立っていて、当時の雰囲気を感じさせてくれる。その麓の斜面には、町と並行に、ホーエ・プロメナーデと呼ばれる細い遊歩道が走っていて、教会の美しい尖塔や、谷間の向こうにそびえる山々の峰を眺めながら、散歩を楽しむことができる。

シーズンオフで人影もまばらな遊歩道を、ゆっくり歩いていると、リスが、人懐っこいようすで肩に上って来る。林の中の静寂。一瞬、時間が止まったような錯覚に陥る。

ふっと我に返ったとき、「生活小国日本」には、こういう国際的な保養地がほとんど無いことに気がついた。

「ドイツ語」

ほっと、一息

渡辺　泉先生

卒業生の皆さん、変わりはありませんか。私は、この4月から、長年愛用してきたシャープのワープロ「ミニ書院」を東芝の「ダイナブック３８６」に換えました。浮気の一番の原因は、言い訳がましくなりますが、ツゥインスターという英文ワープロ用ソフトを利用できることです。こいつはすこぶる頭のいいやつで、スペルの間違いまでチェックしてくれます。5月末締切の約束でアメリカのPergamon 出版社から出す〝Handbook of Accounting Education and Certification Process- A Global Survey〟の1章の分担執筆の依頼を受け、思い切って交換してみました。おかげで、その後の手紙のやりとりも、すこぶる便利になりました。もちろん、この原稿も「一太郎」で打っています。

ともあれ今は、久しぶりにのんびりと机に向かっています。今秋に予定されている会計研究学会関西部会のプログラムの調整と発送の準備。夏休み明けに提出を予定している原稿の作成。そんなところです。なんとなく一日が過ぎて行きます。良い機会なので、今後の研究プランをじっくりと考えてみるつもりです。

「複式簿記システム論」

中尾ゼミＯＢの皆様へ

中尾茂夫先生

お元気ですか。早いもので、大阪経済大学を離れて4年半になります。時々みなさま方から、結婚したとかいうお便りをいただくと、忘れてはいないんだなあという感慨を覚えますし、順調にいっているような写真をみると、良かったなあとホッとします。

とはいえ、なかなか順調にいってはいない場合もあろうかと思います。そういう場合は、連絡しがたいと思いますが、気楽にお便りをくださいませ。悩み苦しんだときに一番いいことは利害の外にいる信頼できる人間に話すことのように思います。

わたくしの方、この秋に『ジャパンマネーの内幕』岩波書店、を刊行します。最近のジャパンマネーの膨張に関して私見をまとめたものです。店頭で覗いてくだされば幸いです。

では、お元気で、みなさま方のご健康と御多幸を祈ります。

（大阪市大経済研究所）

岡本先生の思い出

岡本　正先生

経済学部教授　上島　武

先生は普段、口数の少ない方で、議論する時も相手の話をまずじっくりと聞くというのが常であった。そんな先生がある時珍しく語気を強め、こう言われた。「ソ連の計画経済で一番の問題は労働価値説が誤解されていること、そして、計画作成者が神のように無謬な者とされている事です」。それはまだペレストロイカが提起されるよりずっと前の事だったと思う。しかし既にその頃から先生は、ソ連社会主義が今日の運命を持つ事を予知されていたのである。労働価値説の誤解云々は、いかにも経済原論専門家にふさわしい言い方ではあるが、市場（国民の需要）を考慮に入れぬ計画の恣意性と官僚性とを深く批判されたものである。

一方、あくまで性温厚の先生は、その日常の言葉使いにおいてきわめてユニークだった。われわれなら「あの老いぼれ」と言ってしまうところを、先生は「仙人」と言い、「生意気な若造」とやるところを「快男児」と呼んだ。こんな言葉は戦後ほとんど用いられなかったから、人が先生を評して、さながら大正の紳士のようだとか、古武士の風格を思わせるとか言ったのも当然だろう。私としては、後者の方が気に入っていた。

1991・8・30

「清寿会文化サロン」たより

井上ゼミOB会

井上ゼミOBの清寿会、井上先生との交流メンバーを中心とした60歳以上の六甲シルバー会（この8月で4回目の宿泊交流）とも多彩な人的結合を深めています。

この2月には商業捕鯨禁止は私達の生活に一つの波紋を投げかけていますが丁度国際捕鯨会議が開かれるので、より理解を深めるため漁業流通問題に造詣の深い酒井亮介(15)会員を得ています。その後の親睦会も楽しく行っています。

井上ゼミOBを母体に幅広い経専経大OBのサロン的な集まりで（50歳以上が中心）、生涯学習と親睦を趣旨とし、昭和63年発足以来年2～3回の会合を重ね、今年2月で9回の催し、内容も実年期後の健康、税金（相続）、時事政治問題、財テク、海外旅行見聞報告等々をとり上げ、常時10数名から20数名の参加者

◆税理研究会からお知らせ◆

税研では、新しい名簿を作成する予定です。卒業生の皆さんのなかで、住所変更された方は、左記まで新住所を至急お知らせ下さい。

宛先　〒533　大阪市東淀川区大隅2－2－8
大阪経済大学内
渡辺泉宛

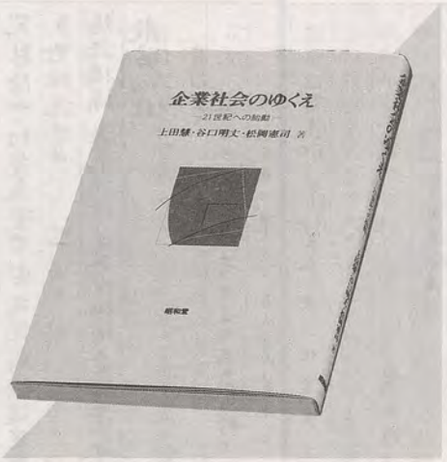
▼新刊紹介

上田　慧・谷口明丈・松岡憲司

『企業社会のゆくえ―二十一世紀の胎動―』

本書は、1989年秋に開催された大阪経済大学第7回公開講座に、講師として参加した3名の講演をもとにまとめたものである。本書はⅠ（ネットワーク社会のゆくえ）とⅡ（公共事業ネットワークが拓く新世紀）を上田　慧、Ⅲ（見える手から、見えざる手―規制緩和と競争―）を松岡憲司、Ⅳ（近代・現代・ポストモダン―企業社会の変遷―）を谷口明丈、の各氏が執筆分担している。執筆者はそれぞれ、公益企業論・企業論、産業組織論、経営史を担当しており、アプローチは異なるが、「ネットワーク」をキーワードとしたユニークな21世紀展望論となっている。

「いま、21世紀に向けて企業社会は大きく旋回しつつある。それをもっともよく示しているのは、情報化と国際化の波を受けている企業組織のダイナミックな構造変化である。それとともに企業社会を制度的に支えている規制のシステムと公共セクターもかつてなく変貌している。このような21世紀への胎動を探り、企業社会のゆくえを問うことが本書の目的である」（まえがき）。



激動期にあるこんにち、著者たちはそれぞれの視角から21世紀への胎動を示す兆候を分析し、これまでの20世紀企業社会を総括し、来るべき21世紀を透視したいと考えているようである。

「本学の教育・研究成果を広く世に問い、社会に還元したいという」公開講座の趣旨からみても、本書はまことに時宜を得たものとなっている。同窓生諸兄に広く一読をお奨めしたい。

昭和堂、1991年7月（定価1600円）

より、鯨よもやま話として蘊蓄ある話を聞いた後、吟味された鯨料理で冬の一刻を楽しく過ごしました。

8月以後、ソ連邦の目まぐるしい激動に対し、「社会主義の行方」について井上先生を中心にシンポジウム形式の催しを11月9日㈯に郵政会館（梅田）で企画しています。親睦会も。同窓の皆さん、ちょっとのぞいてみませんか。

菅　脩(16)

ご一報下さればご案内を致します。

第11回北里総会

北里ゼミOB会

北里会も回をかさねて11回目の総会となりました。偏に皆様方のご支援の賜物と存じております。今回は企画も新たに「ハワイアン&フラダンス」と銘うちまして、21回卒の吉川氏のご協力により実施いたしましたが、参加者が非常に少なく寂しい会となりました。だが、先生から大変立派な「般若心経」の書を頂くことができました。

一字一字真心をこめて1枚を約2日かかって書かれたものを頂き参加者全員感激致しました。

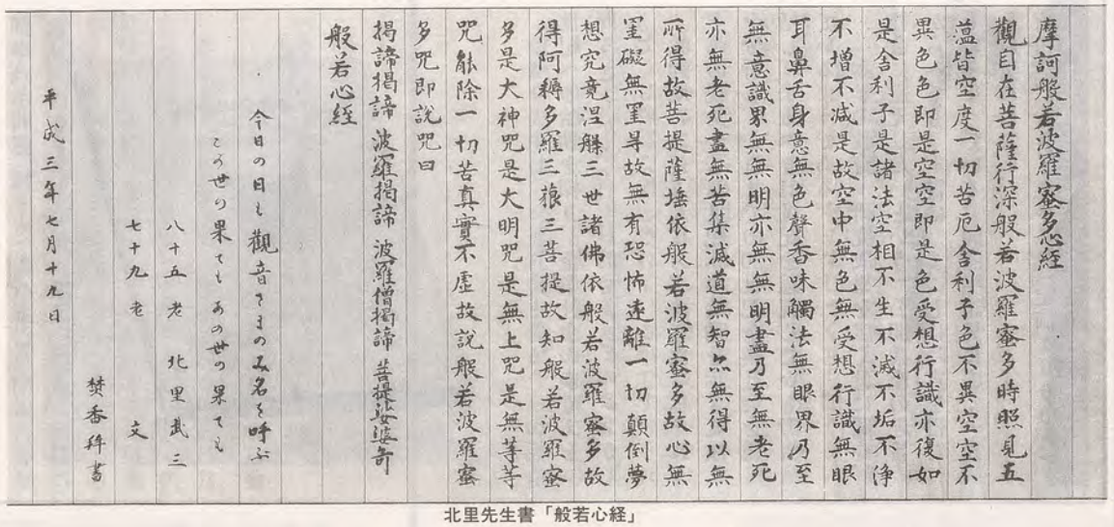
今年は役員改選の年ですが全員留任と決議致しました。

なお、住所変更・お問い合わせ等ございましたら次の住所までご連絡下さい。

越川　昇

追伸、運営費に関しましては多数の人からご協力頂きまして感謝いたしております。引き続き募集したしております。郵便振替にて「大阪5-30032　北里会」宛までよろしくお願い致します。

北里会での北里先生ご夫妻



般若心経

摩訶般若波羅蜜多心経
観自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舎利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舎利子是諸法空相不生不滅不垢不浄
不増不減是故空中無色無受想行識無眼
耳鼻舌身意無色声香味触法無眼界乃至
無意識界無無明亦無無明尽乃至無老死
亦無老死尽無苦集滅道無智亦無得以無
所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心無
罣礙無罣礙故無有恐怖遠離一切顛倒夢
想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故
得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜
多是大神呪是大明呪是無上呪是無等等
呪能除一切苦真実不虚故説般若波羅蜜
多呪即説呪曰
掲諦掲諦　波羅掲諦　波羅僧掲諦　菩提薩婆訶
般若心経

今日の日も観音さまの名を呼ぶ
どの世の果ても　あの世の果ても

八十五　老　北里武三
七十九　老　文

賛番拝書

平成三年七月十九日

北里先生書「般若心経」

牽牛と織女のように…

倉春会（倉辻ゼミOB会）

「七夕に会おう」を合言葉に、今年も約束どうり7月の第2土曜日に、梅田のレストランパレスにおいて倉春会が開催されました。当日は遠方からの参加者も含めて約40名余りが集い、倉辻先生を囲んでそれぞれの近況報告や、友人との思い出話に時の経つのも忘れて語り合いました。

倉春会（レストランパレスにて）

今年は倉春会全員の名簿も完成。当日の参加者に配られましたが、まだ一部不備な部分もありますので会員の皆様からの情報提供をお待ちしております。名簿の部数には少し余裕がありますので、来年の倉春会でもお渡し致します。ご希望の方は是非ご参加下さい。

又来年は倉春会発足20周年の記念すべき年にあたります。（内4回は休会になった年がありますが）これを機会によりいっそう会の発展をめざすべく、多くの方々のご参加をお待ち申し上げます。

毎年7月の第2土曜日は倉春会。今から予定に入れておいていただきますようお願い致します。

世話人　森川・吉村・大原

森杉夫先生逝く

教養部教授　北崎豊二

森　杉夫先生

本年4月19日、森杉夫先生は経大での講義のため大学へ出勤される途中に倒れられ、救急車で病院へ運ばれたが、奥様らが急を聞いて駆け付けられた時、すでに息をひきとっておられたという。惜しい人をなくしたと思う。心から先生の御冥福をお祈りしたい。

昔はよく〝文武両道の達人となれ〟といわれたものであるが、森先生こそ文武両道をきわめた人であった。先生は、中学校4年を修了し、旧制松山高等学校に入学、ついで東京帝国大学文学部国史科に進学された。そのころの東大では、皇国史観の主導者である平泉澄が幅を利かせていたが、中村孝也教授について日本近世史を研究された。そのかたわら、東京専門学校（現、早大）出身で、早大の教授となった津田左右吉に師事し、津田左右吉を学問上の師としていつも尊敬しておられた。先生の実証主義に徹するあの学風は、主としてこの2人の師から学ばれ、形成されたものであった。先生はまた、歴史学を専攻しながら、数学が得意で、貢租や検地などの研究にそれを生かされたが、歴史学の授業においても計算しなければならない問題を出されることがあり、時々、受講生がとまどわなければならなかった。

とにかく、歴史学の研究に情熱を傾け、寿命をも縮められた先生であるが、お若いころからスポーツや武道にも精力的に取り組まれ、その方面の実力も並のものの到底及ぶところではなかった。中学生時代は陸上競技の選手として活躍され、高校、大学では柔道部に籍をおき、学生時代すでに柔道五段であったが、他の武道の段をあわせれば一〇段以上になると、生前に先生から伺っている。馬術でも、裸馬にのる術を心得ておられ、ボクシングも少しご経験がおありとのことであった。

大柄な先生であったので、〝森の熊さん〟という人もいたが、先生は陰口をたたくことを好まれず、心のやさしい、思いやりのある人であった。晩年、被差別部落の研究に多くの時間をさかれ、被差別部落の人びとに何かと手を貸されたのも、そうした先生の心情からだと、わたしは思う。人一倍、史料を収集し、論文を執筆することを自己の使命のようにしておられた先生であるが、研究の半ばで、ついに倒れられた。さぞ心残りのことと思うが、いまは、ただ、後進のものにすべてを託され、安らかにお眠り下さいと申しあげたい。

合　掌

是非一泊で同窓会を

松村(幸一)ゼミOB会

「よう、お久し振り!」「元気でやってるか?」今年も恒例の松村幸一ゼミ同窓会は、梅田のいつもの「鳥よし」で開かれました。

卒業してから早や17年。頭が薄くなり始めたかつての学生が、二重顎に三段腹に堂々と成長したかつてのゼミ生が、先生を囲んで学生時代の思い出、仕事での成功話・苦労話、子育ての話題、欠席者の近況報告、果ては各種愚痴まで飛び出し、ワイワイガヤガヤ。この日ばかりは昭和48年・49年へタイムスリップしてしまいました。

かねてから、「一泊で同窓会を」という案も出ております。熟年期のスタートラインに着こうかというかつての教え子に、徹夜で酒を酌み交わしながら、人生経験豊富な先生から、今後の生活設計をご教授いただくというツアーはいかがでしょうか?是非実現したいものです。

それでは同期の皆さん、平成4年初夏元気でおあいしましょう。

最後になりましたが、先生、クッキーありがとうございました。美味しかったです。

高橋　渡(40)

松本ゼミ・剛友会の近況

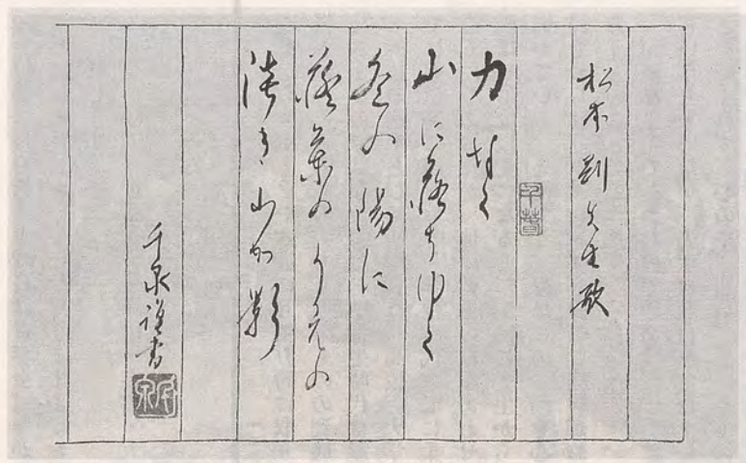
剛友会(松本ゼミOB会)

1月13日・4年振りの第3回ゼミ総会を名園・太閤園で盛大に行いました。卒業生も本年で24回目を数え、しかも松本先生が母校に赴任され、早や30年を迎え、また、会計学を学ぶ者のために『ドイツ商法会計学用語辞典』を発行されたことなどがかさなり、当初はゼミ生のみの総会を予定していましたが、先生に御縁のある一部の方々にも声を掛けましたところ80名を越える総会となりました。

当日はデール・カーネギーコース・元米国公認インストラクターの長尾晃先輩の講演もあり、同窓会からは磯野会長・陰下事務局長も出席いただきました。この原稿を書いているとき、先生から『樟花抄—経大三十年—』の御本をいただき、学校を中心とした御活躍の姿を思い浮かべながら一読しました。未だ体調のすぐれない先生ですが御身を大切に、増々の経大の発展を陰ながらお祈りしています。

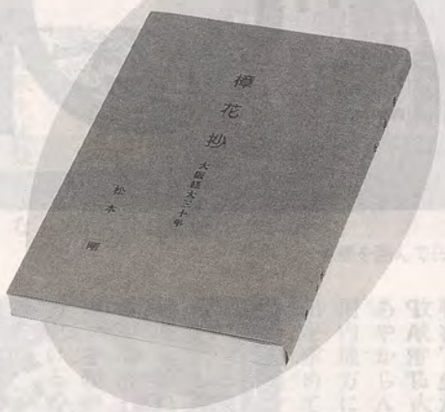
剛友会会長　植村　祐三(32)

剛友会総会(太閤園にて)


松本剛先生歌(井手口茂美書)

書評

松本　剛『樟花抄—大阪経大三十年—』



大阪経大のシンボル大樟、大樹に成長するが、されどその花は人目につかないほど小花だと、題して『樟花抄』。心ゆかしいタイトルで今回、松本剛先生が標題の本を発刊されました。

松本剛先生の人間味が随所に垣間見え、在勤中にかかわったゼミ生・第二部会計学研究部卒業生たちとの心暖まる交流が綴られています。形は学内誌やサークル誌掲載の小文でありながら、教育者・研究者としての集大成であり、足跡が生き生きとうかがえます。

「教師はいつも謙虚に学んで、学生に真剣勝負で向かっていく」姿勢の30年であり、「学生も教師も自分の精神を日々新たに創造していくためにともに刺激しあい、批判しあって前進していく」同志愛の松本教授像でもあります。

しかも、先生は健康に恵まれたわけではなく、大病との共生を余儀なくされて、50歳を人生の折り返し点と静思する哲学の人でもあります。「本を読むのは理論を学ぶというのほかに、著者の人柄をしのぶため」にあると言い切る。努力の人、松本先生の魅力的なお人柄が納得できました。常に人の出会いを宝珠のごとく、大事に慈しんでこられた「先生道」—教師としての修練の道のりを「道」といえるなら—。松本「先生道」に心から敬意を表します。

土岐政蔵博士夫人の話では、図書館の土岐文庫目録づくりで数日間書斎で作業をした一人として、当時の情景を思い出して一層懐かしく印象深く読ませていただきました。

(1991年7月1日発行　淡路印刷所)

前田　悦子　記

本学の学術総合雑誌

大阪経大論集

創　　刊　昭和25年　年6回発行
年間購読料　3,000円以上
お申込み先　母校学事課内大阪経大学会

同期生クラブ OB会

90年 昭寿会

城崎温泉にて

PART I

拝啓、晩秋の候　諸兄御健勝の趣心からおよろこびを申し上げます。陳者昭和59年有馬の会合より連続して、7回目を迎える本年度の昭寿会を次の通りに開催します。年1回の再会、心身リフレッシュの為にも是非御参加を御願申し上げます。

記

日時　1990年11月2日15時
於　城崎温泉　天望荘一泊
参加者
武田先生、三木薫、宮平盛助、原秀夫、内田辰四、山本(駒田)富郎、桜井秀雄、平野多賀司、周藤秀夫の合計9名

昨年米寿を迎えられた武田先生をお迎えして、先生お元気の万分の一にでもあやかりたいと乾杯の音頭をとっていただき、クラス会は始まりました。元気者の佐々木君の欠席で、もう一つ盛り上りを欠きましたが、カラオケで得意の喉を聞かせたり、聞いたり、大いにメートルが上がり、明日の朝食を楽しみに別室の大広間で一同枕を並べて就寝、慌しかった一日の幕を閉じました。

PART II

11月3日城崎発8時9分の上り特急乗車のため早目に起床、肌寒さの中で、朝食もそこそこに城崎駅へ車を急がせました(今日は母校の同窓会総会に全員参加)。大阪着11時、新大阪へ出て、タクシーを飛ばし懐かしの上新庄へ。城崎では肌寒かったものの大阪の暑さにはびっくり。半世紀ぶりに見るマンモス経大にびっくり。辛うじて懇親会に間に合い、今昔の感に浸りつつ御馳走を頂き乍ら旧知の面々と挨拶を交す。そのうちに13時になり、前田広報課長手配の3階33号室に場所を移す。武田先生をはじめ藤原先生、建林先生、米津夫人も見えて半世紀ぶりの対面となり、師弟共に元気な顔を見合わせて昔話になったり、経大の話になったり、昔の良さは生徒数も少なく、教授・学生共に肝胆相照す仲になっていたこと。黒正先生は慈愛の人で菅野先生は秋霜烈日の人であったが心は暖く、黒正先生と名コンビで経済大学が誕生したこと等々色々な話の中に学園の基礎が固まっていったことを感じた。

以上は在阪の名幹事三木薫、宮平盛助兄の案内状を借用させて貰いました。

第4期生会

恩師を囲んで(50周年記念館)

私達4期生は元来生徒数が少なかった上に戦死者も多く、生存者の中でも、次々と亡くなる人が出て、学園の同窓会幹事であった中村源、森本梧郎の両君も病魔に倒れて欠員となってしまい、総会にも出席者が少なかったが、今回は大挙8名の出席者があったことは特筆すべきことであったと思います。

原秀夫記

第6期生会

少年気分で修学旅行

5月21日、快晴、萬緑に包まれた富田林駅頭に23名が集う。いづれも白髪の古老乍ら、若き日を胸に、元気一杯。時恰も、NHKの放映する大河ドラマ〝太平記〟にあやからんと、此処ゆかりの地、河内地方に過ぎし青春の日の思い出を求めてのことである。

事務局から陰下事務局長を迎えて、さらに意気上り、門前屋旅館差し回しのバスにて、観心寺、楠妣庵を訪ね、遠き史実に耳に傾ける。心洗われる中に門前屋に到着。一夕を賑やかに、かつ懐旧談に夜の更けるのを忘れ、グラスを傾ける者あり、カラオケを楽しむ者あり、例により学園歌斉唱で一応の幕を閉じる。明くれば22日、午前10時旅館を出発、金剛山麓へバスにて直行。ケーブルカーにて山頂を目指す。途中の全山緑の眺望は筆舌に盡し難く、正に値千金。心身共に生き返りたる心地す。山頂「楠香荘」にて昼食。但しここに至るにやや難澁し、勾配の余りに長きに、数名の落伍者を見たるは、何とも遺憾の極みであった。午後4時は、再び富田林駅にバスにて到着。茲に全行程を無事終了する。

河内方向への修学旅行団一行

この度の集会は、時宜を得たものと、概して好評であった。確かに、少年の日に返えり、懐かしき日本歴史の一頁を繙き得たことも意義があったと言える。その上全行程をバスにてスピードと、広い地域にわたって見聞し得たことは、恰も修学旅行を思わせ、気持を少年に返らせる楽しさがあった。惜むらくは、諸先生のご高齢のゆえにご参加を賜らなかったこと、行程に若干の無理がなかったかということである。なお席上、陰下事務局長から母校の現状をつぶさにご報告戴き恰も一同、講義に耳を傾けたる若き日さながら興味深く拝聴した。次回は姫路地区の諸兄を煩すこととなったが、当集会が如何に我々の若返えりに役に立つかは参加諸兄のよく立証される所である。よって各位に一層のご参加をお願いして最後に諸兄のご健勝をお祈り申上げる次第である。

伊藤音七郎記

昭八会、齢(よわい)古稀を迎える

第8期生会

日時　平成3年6月4～5日
場所　岐阜　下呂温泉～飛騨高山周遊

恒例の我等〝昭八会〟の今年の集いは、早梅雨の真只中で、心配された天候も快晴に恵まれ、新緑映ゆる飛騨峡の3名湯の一つ〝下呂温泉から伝統のたくみ技と山菜の味、高山散策〟のコースを満喫いたしました。

久し振りの地方開催でしたが、遠路山口から串田一、藤本(青山)両君や、香川から矢野保郎君ご夫妻をはじめ総勢24名（内夫人2）の参加を得ました。省みれば昭和16年暮、太平洋戦争勃発のため異例の繰上卒業となりペンを銃に換え、殆んどの仲間が参戦に駆りたてられ、支離滅裂となってから早くも半世紀を迎え恰も齢古稀を過ぎる大きな節目にあたる記念すべき同期会となりました。毎年参加者が減るのは淋しいことですが致し方のないことです。それでも集った仲間達の日焼けした顔、額の深い皺、白髪まじりの頭には昭和の激動を生き抜いてこられた姿を思わせましたが、それぞれ元気な顔を見せお互いの健康を喜びあいました。流石一泊旅行ともなると宴会後の語らいも又楽しいもので、夜の更けるのを忘れる程でした。友との出会いにより、今思えば短かった青春の一齣一齣を心のビデオにはっきりと納め、また明日からの未来を頑張る手だてとして行きたいと念願する次第です。

最後になりましたが、本会の準備運営にあたり素晴らしい企画の心温まるご盡力をいただき、本会を大いに盛り上げられました地元世話人丹羽好輝君に対し、心から感謝とお礼を申し上げます。次回来年度は北陸金沢の村山良久君にお願いして――また元気でお会いしましょう。

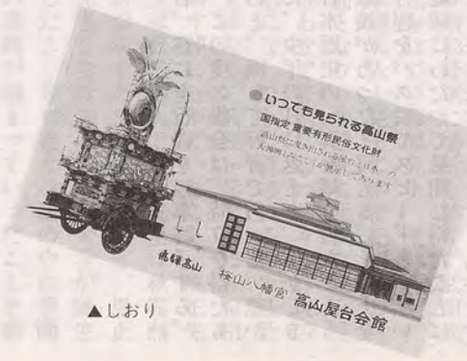
▲スタンプ

（参加者）
串田、藤本、矢野(夫妻)、琴野(夫妻)河田、沢田、足立、大谷、柴田(秀)、関田、糸瀬、工東、前田、三原、山本(克)、近藤、滝中、宮崎、村山、長尾、丹羽、岡田（以上24名）

岡田清記

飛騨下呂温泉にて

「追記」
冨永訓三君が今年春の叙勲で「勳四等瑞宝章」を受賞された。まことにおめでとうございます。わがことのように嬉しいですね。
著書に『回想録三等校長――哀歓のドンキホーテ振り』があります。



▲しおり

〝ぼたん会〟第11回

第8期生阪神部会

日時　平成3年2月9日(土)
　　13：00～16：00
場所　レストラン・パレス大阪　梅田

嬉しいことが二つあった。

一つは、関田正司君の絵『廃虚』（100号）が第22回日展で特選を受賞、4年前の第18回の特選に次いで僅かな間に二度目である。まことにおめでたい。

二度とも岡山県の犬島に残る煉瓦づくりの銅精錬所跡の廃虚を画いたものである。関田君によると、表面的な美ではなく、形あるものが壊れたとき、そんな中にその物の生涯が凝縮されているようで、何か人生の縮図のような美を感じるというのである。今後はイタリアや英国にも足を伸ばし、そんな美を追求していきたいのだそうだ。老境に入りつつある私たちに、大きな感動と励ましを与えて戴いた、まさに快挙である。

二つ目は、佐藤順郎君が雑誌『丸』に〝屠龍…飛行機野郎…空戦一代記〟を書かれたことである。昔を偲び、何かふっと目頭が熱くなる。

出席者一人ひとりの素敵なスピーチが忘れられない。

同窓会からは、陰下事務局長がご出席下さった。お陰様で盛会裏に終わることができた。

出席者
岡田　清．丹羽好輝．浅野義逸．伊藤　勝．石垣俊興．市川　宏．大橋秀男．琴野　浩．佐藤順郎．柴田秀一．柴田真典．関田正司．丹家邦夫．林　正吉．長尾　晃．

長尾晃記

ぼたん会の面々

腕白小僧にかえり、「九友会総会」

第9期生会

私達の九友会は、昭和17年卒業生の同期会である。丁度、太平洋戦争の真只中で、繰上げ卒業の第1回組として、9月卒業。10月には入隊し、戦死を覚悟した仲間である。

現在130名が生存し、古稀をむかえる年齢になっているが、まだ現役で活躍中の者、老後を元気にエンジョイしている者、病床にある者など全国各地からよせられる近況報告に、クラスメート一人ひとりが私の目に浮んだ。今回集った仲間は30名、夫人13名で、東京在住者が世話役となり、熱海で6月9日行った。出席者はみな元気で、50年ぶりに再会した者、毎年会合に顔をみせる者、お互いに健康を祝福し乾杯した。和気藹藹、学生時代の腕白小僧にかえり、楽しい一夜を過した。同窓会本部事務局長陰下嘉典氏から「母校の現況と将来の展望」についてお話があり、一同熱心に拝聴した。夜も更けて一同輪になり手をつないで、童心にかえり、童謡「くつが鳴る」♫おててつないで、野道をゆけば…♫と高らかに合唱散会した。

明年は四国・高松市で開催予定。

幹事　佐野義光記

熱海温泉での九友会

みんな若々しく、青春を懐かしむ

第11期生会

第11期生の皆様お元気ですか。同期生の投稿を『澱江』の「北から南から」で読み、懐かしく、また頑張っているなと心強く感じております。私達は67歳を過ぎましたが、人生は80年時代です。若さを保つためにも、遠方の同期生も、母校と各地の観光を兼ね奥様同伴で振るって同期生会に出席してみませんか。ご案内は、世話人が積極的に引受けます。

同期生会は、63年から足の便を考えて、大阪駅前の新阪急ビルにある「レストラン・パレス」において開催しております。平成2年度（12月7日㈮）は、東京から田中秀直君が卒業以来元気な顔で初参加、近況報告がありました。大垣の谷君も3年連続で、また毎年出席する同期生も増えております。会合に出席して顔を見合せると、みんな若々しく、元気で「ヤア！」「ヨッ！」と声をかけあい、過去に置き去りとなった感動、楽しかった、辛かったこと等高商時代の話題を中心に、談笑、青春を感じる雰囲気でした。9時前、河津君の音頭で学園歌♬商都の東北澱江に…♬を合唱、来年の再会を約束して、家族へのみやげを持ち家路につきました。

11期生会（大阪梅田にて）

（出席者）
（来賓）藤原先生・大槻弘先生、陰下同窓会事務局長
（同期生）伊東、井上（豊）、井口、岩谷、大島、河津、酒井、榊原、武田、谷、田中（秀）、土屋、津田、西浜、林（光）、宮脇、村田、桑津、筒井

筒井英夫記

可愛いい孫も、いっしょにひとみ会

第13期生会

平成3年8月17、18日鳥羽で一泊旅行同窓会を開催しました。新しい発案としてご家族の参加も頂き、参加者15名、ご家族16名、計31名出席、座敷を走り回る可愛いいお孫さんの姿も見られました。

卒業して45年、激動の戦時下のもとで青春を送った思い出も遠くなり、今ここに眼下に迫った伊勢湾、そしてたくさんの緑、美しい風景に心を洗われました。広々とした浴場に入り、新鮮な海の幸に恵まれた配膳につき一同乾杯。なごやかな雰囲気に包まれ、白髪の話も飛び出し、学生時代そのままの姿にかえり語り合って、楽しい一時をおくりました。

翌日、次の再会を健康で迎えられるよう祈りながら帰路につきました。

森岡（糸川）須美子記

鳥羽でのひとみ会

課題は健康？でも明日から元気で

ひとみ会東京支部（13期生会）

今年の「ひとみ会」東京支部は、9月28日、薬膳料理で名高い「シンフウ」銀座店で開催。珍しく10人（大草、大場、北住、久野、西村、松岡、山田、米田の各姉と、当番の鈴木、小駒）が参加して、円卓を囲み、真珠粉入りふかひれスープ、クコ入り鶏肉の炒めもの、龍眼肉入り鮑の煮込み、車えびの串ソースかけ、おかゆ、タピオカ、ココナッツまんじゅう他に、金木犀のお酒を特注して、舌鼓を打ちました。やはり話題は健康？でもまたこれで明日から元気で行けるワとみんなが明るい表情。そして「銀座茶廊」で名残りを惜しんで解散となりました。

小駒（佐々木）葉子記

ひとみ会東京支部の面々

よう！元気かい。なごやかに「はたちかい」

第20期生会

懐かしい顔が、ひとつ、ふたつ―。昭和29年3月卒生の集い「二十回会」の第7回懇親会は、平成3年9月7日午後3時から、大阪・曽根崎の「本むさし会館」で、同窓会側から陰下嘉典事務局長をねぎ、なごやかに開かれた。

今回は、お互いに還暦、人生の節目を迎えての記念すべき会合とあって、ひとしお感慨深く再会を喜び合った。

西山忠君の開会あいさつ、物故者への黙とう、会計報告とつづき、陰下氏から、経営学部経営情報学科の開設、茨木校地の移転問題、同窓会の現況など説明があり、とくに10年後の学生数の減少対策として、いま全学あげてPR作戦を展開、21世紀の大学を目ざして前進しているとの力強い報告があった。

開会セレモニーのあと、大平順二君の音頭で乾杯、歓談にはいった。杯をかわしながら自己紹介、近況報告がすすむ。遠く福井の鯖江市から駈けつけた吉田叡君は、地元商高の教師として経大のアピールに盡力。会社役員でカラオケ愛好家の打出清君は、多忙な中、プロ級の歌唱力を地域の音響振興に生かしているなど、社会での皆さんの活躍ぶりが目に浮かぶ。

会場にカラオケもはいり、歌の盛りあがりにつれ、「よう！元気かい」「キミも」。手を握りしめたり、肩をたたき合って、学舎の思い出、世間話、孫の自慢話へと話題がはずんだ。

それぞれ年輪を刻みつけてはいるが、すっかりタイムスリップした青年に様変り。「やれ定年や」「退職や」と言った会話も、いつしか姿を消し、元気いっぱい、時を忘れて秋の午後を楽しんだ。

パーティーは延々3時間におよび、6時すぎ、青春の足跡をしっかり確認、再会を約して解散した。

当日選ばれた役員はつぎの通り。

同窓会理事　吉村　忠
　　打出　清
　　西仲　章治
はたち回　役員
　会長　西山　忠
　幹事　大平　順三
　　西仲　章治
　会計　打出　清

北西久男記

はたちかい（大阪・曽根崎にて）

冨久屋ホテルで31名の集い

第23期生会

今や2月11日に恒例となっておる23期生の集いが、今年も大阪心斎橋筋にある冨久屋ホテル（代表者玉岡良夫㉓）で盛大に行われました。来賓として学校側より田所事務局長のご出席を得て、経大の現況についてお話戴きました。23期生は31名が出席し、楽しい時を過ごしました。

毎回出席の人も多数おりますが、卒業以来34年ぶりの人も数名いて、卒業後の色々な話が飛び出し、正午からの4時間程はアッという間に過ぎてしまいました。

23期生の会は現在年1回、2月11日に集いをやっており、来賓は学校側、同窓会本部の両方にお願いしております。なお、当日は都合で出席出来なかった人で返信戴いた葉書は、今年も53通全部をコピーして出席者全員に配布し、皆懐かしく読んでおりました。

卒業以来35年全力投球でやってきた私達が、現在第一次定年を迎え、第二の職場で頑張っておる人、悠々自適の人、あるいは心ならずも体調をくずし病気静養の人もおられると思いますが、こういった時こそ、同期生の集いが必要と思います。今後とも萬障繰り合せのうえご出席をお願い致します。

尚23期生の会としてゴルフコンペも続いております。奮ってご参加願います。

酒井弘光記

恒例の23期生会

おやじを迎え、夫婦同伴で再会

寮友会2期生会

平成3年9月22日㈰午後1時より、母校の50周年記念館会議室において、学生寮の2期生OB会が開催された。地方出身の働き盛りメンバーだけに、参集者は72名中15名（二次会で2名増）と少々寂しかったものの、会合は予想通りに盛り上がった。

今回の会合には、卒業後四半世紀を迎えての再会、そして在寮中おやじ並みにお世話になった井手口茂美先生との再会に眼目があった。井手口先生には古稀を一昨年迎えられ日々療養中の身ながら、喜んでご出席いただきご挨拶いただいた。

更に、夫婦同伴を強く呼び掛けたことにより、今までにない盛り上がりと和やかさが感じられ、今後はより一層の夫婦同伴を実行することとなった。

また、一次会の後の学内見学（経営情報学科専用館、新装学生食堂）では、参加者一様に学内の変貌ぶりに感激し、廃寮となった学生寮にまで足を延ばせなかったことを残念がりながらも、21時近くまで母校近所の居酒屋で旧交を暖めたのであった。

波根伸俊㉜記

おやじを囲んで学生寮OB会

大正会の現況について

硬式野球部OB会

当会は昭和61年1月に発会致しました。当会は大阪経済大学硬式野球部OB会の一部として会員が集い、相互に親睦を図ると共に、現役の大学硬式野球部部員の諸君に対しささやかな一助となることを目的としています。

当会は現在次の役員をもって運営に当っています。

一、名誉顧問2名　一、最高顧問1名
一、代表幹事1名　一、名誉幹事1名
一、事務局長1名　一、幹事　若干名

総会については発足以来毎年11月中旬頃に、主として京阪を中心に、1泊2日の予定で、開催します。平成3年度第8回総会は、富田林門前屋において開催する予定です。総会前に、ゴルフコンペを、その夕刻から総会を予定しています。また、参加予定はゴルフが約8名ぐらい総会は15名前後ではないかと予測しています。

今後とも役員一同および会員が一丸となって、初期の目的達成に努力する所存です。

佐野珠太郎⑽記

第6回総会　於経大同窓会ホール
左より
伴野　順三(6)
山下　逸男(9)
前田　寿弘(7)
黒正　　明(ゲスト)
琴野　　浩(8)
京谷　嘉一(6)幹事長
吉田　軍之(7)幹事

大正会の面々

寄多郎会―第7回

柔道部OB会

今年で7回目を迎えた寄多郎会を6月22日、23日の両日、福井県小浜で行いました。当日、忙しい最中にもかかわらず懐かしい面々が元気な姿を見せてくれました。

頭の黒い人、又それなりにフサフサとした人達が、各地から10名集まりました。（吉田、三輪両夫人を含む）

午後6時旅館〝一力館〟で、幹事を代表して岡本氏の挨拶、続いて逸見氏の乾杯の音頭で酒宴に移りました。各自、近況を語り合い、いつもは最後に柔道の話がオチになっていたのですが、今年はなぜか最後まで柔道の話題が出ず、若干寂しかったのは小生だけだったのでしょうか。

翌日、車3台に便乗して人魚の像を振り出しに、若狭メノウの工場、若狭塗りの実演等を見学しました。

又、海のある奈良と言われているように、国宝級の古寺が点在しているので、神宮寺、明通寺、萬徳寺と散策しました。その内、若狭のお水送りの寺で有名な神宮寺の名水を戴きましたが、味はどんな美酒より旨かった…と言いたいところですが、我々凡人に取ってはやはりアルコール水に、軍配を上げたのは小生だけだったでしょうか。

午後、鰻料理で有名な「源よ門」で美味に舌づつみをうち、来年、お世話になる第27期生の諸氏にバトンタッチをして再会を約し、小浜の地を後にしました。

源幸夫㉖記

小浜で再会した寄多郎会

過ぎ去った日々の貴さを想う白馬ヒュッテ建立30周年記念式典

経稜会（山岳部OB会）

長野県の大阪経済大学白馬ヒュッテは昭和36年、現役部員が、一万貫の資材を夏休み（40余日）返上で、ボッカ（荷揚げ）して建立されました。のち、大学に寄贈され、昭和60年に屋根の全面葺き替え工事、台所の整備がされました。今年30周年を迎えるに当たり、山岳部現役・若手OBにより、発電機・テラスが増設され、より使いやすい環境となりました。今後とも、多くの学友、OB諸兄に愛されてゆくことを願い、ここに30周年記念式典のご報告をいたします。

1991（平成3）年9月22日に、体育会山岳部及び、経稜会の主催により、白馬ヒュッテ建立30周年記念式典が行われました。

顧問大槻先生はじめ、集い来たOB33名、現役7名、ワンゲルOB2名、来賓として鳥居学生部次長・福岡管財課係長・総務部舟川一豊氏・降籏義道氏（現地管理人）・体育会本部長、OB友人・家族24名を迎えて、ヒュッテ1階に入りきれなくなりながら、午後4時開会。旧友を偲び物故者黙禱の後、会長の挨拶、30周年記念実行委員長の挨拶があり、委員が紹介されました。大槻先生、鳥居学生部次長より、経稜会及び山岳部にお礼と励ましの言葉をいただき、各方面よりのご寄付を報告。会長よりテラス・発電機の大学への贈呈が行われた後、鏡割り・乾杯へと移りました。

豪華な仕出し弁当と樽酒に、杯が激しく行き交うなか、お互いに何年来かの再会や、初参加の顔もともに同じ想いで過ごした学生時代に想いを馳せ、あのころよく歌った山の歌を皆で再び歌っていると、次第に声に力が入り、過ぎ去った日々の貴さを感じました。

あけて、23日も好天に恵まれ、9時に白馬ヒュッテを後にし、一路大阪へ。帰りのバスもアルコールが入り、前夜の余韻を引きながら楽しいバスの旅は続いていきました。

藤原広太郎(54)**記**

建立30周年を祝う山岳部OB達

来年、創立30周年を迎える

旅行研究OB会

旅研も来年で30歳。よく続いたと思う。各回の在阪代表者に連絡をとり、去る7月14日、経大でOBと現役の合同会議をもった。出席者は、25名程度。最古のOBは、現役の親父より年が上、頭髪の具合では、顧問より貫禄のある者もいる。ワイワイがやがや。同じ釜の飯を食った仲間、初対面でもすぐ馴染んでしまう。30周年記念事業準備委員会を結成、音川良一氏(33)を委員長に選出した。会場確保は急いだほうがいいので、記念パーティを平成4年6月21日(日)に行なうことに決めた。手続的に問題はあるが、OB会も結成されていない現状に鑑み、ご勘弁願いたい。

9月29日に第1回準備委員会を開催の予定。記念事業として、(1)OB会の結成、(2)OB会規約の作成、(3)OB名簿の作成を決め、さらに(4)平成4年6月21日（於梅田）記念パーティ開催の件を委員会として確認した。

まだ、誰からも、なにも連絡を受けていない旅研OBの諸君！氏名、住所、電話番号、卒業年次、勤務先など、経大の内海まで連絡して下さい。そして、来年6月の記念パーティには、ぜひ参加して下さい。

顧問　内海　健一記

旅行研究OB会の面々

学歌　逍遥歌大いに歌う

川西市役所大樟会

兵庫県川西市役所関係職員の同窓会グループとして発足した「大樟会」も発足以来、はや14年目をむかえています。

この間、歴代幹事のご尽力により毎年欠さず忘年会もしくは新年会を、またゴルフ大会を開催し、会員相互の融和と親睦を図ってきました。

本年は、川西市議会議長に就任された井上武彦氏(36)の就任祝も兼ね、新年会を1月11日池田市内の「源宗活魚店」において同窓会本部より陰下事務局長をお迎えし開催しました。

当日は22名の会員が出席し、なつかしい学生時代の話、家族の話、ゴルフの話などに花をさかせ、締めくくりは吟詠部出身の竹本勇氏(35)、グリークラブ出身の田中一義氏(36)を中心に全員で学歌、逍遥歌を大いに歌い、楽しい一時をすごしました。

幹事　岡田（坊之本）雄次(39)**記**

川西市の表玄関

「税理士大樟会」誕生

税理士大樟会

平成3年7月20日同窓会ホールで創立総会を開催し、「税理士大樟会」が誕生いたしました。当日は税理士179名中87名の入会者があり、出席者は45名となりました。また、ご来賓として鈴木理事長のご出席を賜りましたことを心より厚く御礼申し上げます。

この会は、約10年前から同窓会の部会として、職業会計人の会を設立するために、有志が数回にわたり会しましたが、設立までには至りませんでした。今回は松本ゼミと喜田ゼミ同窓生の有志が会し、4月19日に設立準備委員会、6月8日に発起人会を開催し、創立総会を迎えることができました。今後は、官公署および職域部会との交流により母校の発展に寄与すると共に、お互いのメリットを見出して行きたいと考えています。なお入会ご希望の方は、同窓会事務局までご連絡下さい。所定の入会届用紙を送ります。

また、ある企業の経理担当同窓生から会社の顧問税理士が高齢者のために若い税理士を紹介して欲しいとの問合せがありました。

主な役員は次のとおりです。

会長	磯野　斉	3回卒	尼崎支部
副会長	佐藤　順郎	8〃	天王寺〃
同	筒井　英夫	11〃	豊能〃
同	大城戸武子	13〃	神戸〃
同	岡本　光正	21〃	浪速〃
同	植村　祐三	32〃	住吉〃
専務理事	福元　輝雄	37〃	北〃
常務理事	佐藤　吉春	30〃	東〃

税理士大樟会の発会式

（事務局長）
同　佐藤　吉春　30回卒　東支部
（総務部長）
同　南中平八郎　37〃　北〃
（研修部長）
同　西川恭三郎　34〃　住吉〃
（組織部長）
同　鬼頭真佐夫　38〃　北〃

（広報部長）
同　小林　幸一　37回卒　西支部
（厚生部長）
同　藤本　節雄　33〃　東〃
監　事　三丸　正寿　9〃　西宮〃
同　松浦　国展　36〃　大淀〃
同　畑岸　隆一　44〃　北〃

一人でも多くリクルート、母校訪問

日立大樟会

日立大樟会が発足して今年が5年目、メンバーも21名（日立金属4名、日立金属商事12名、日立ツール5名）になり、昭和27年卒（第18回卒）の日立金属㈱田中常務取締役をはじめとして、平成3年卒（第57回卒）の日立金属商事㈱木村、森本両君のフレッシュマンまで多士済々です。来年はさらに数名増える見込みであり、ますます、日立大樟会の発展が期待されます。

日立大樟会は毎年11月、大阪お初天神通りにあるニューミュンヘン本店で開かれ、東京・名古屋・広島からの参加者もあり、限られた時間での近況報告、学生時代の思い出等が語られ、大いに盛り上がりますが、最近の母校が新設校の後塵を拝しており、今一歩の躍進が見られないだけに残念だ、との声があり、我々OBの責任も重大であることをつくづく痛感している次第です。

その意味では、日立大樟会のメンバーを一人でも多くと、リクルートのためわざわざ東京から、田中富三常務、中西国男理事（昭和32年、第23回卒）が母校を訪問し、幅広く人材を求めたことは画期的なことで、他企業（官公庁）のOBの方々にも、どしどしお願いしたいものだと考えます。

我々の当面の目標は、第10回のメモリアル同窓会を大阪ホテル・プラザ鳳凰の間で、OB・OG総勢50名が集まって盛大にやることです。

日立金属㈱関西支店
営業課長　**国代公寛**(37)

岡山黒樟会について

岡山黒樟会

この会は昭和高商、大阪経専、大阪経大出身者で岡山県内高等学校教職員とOB（教職員退職者）の集いです。昭和40年頃から今日まで十数回集まっています。名称は黒正先生の黒と大学の中庭にある樟をつけて黒樟会（こくしょうかい）と語呂あわせをしました。堅苦しい集りでなく、酒ビールを飲みながら大学を懐かしんだり、各高等学校の実状を話し合ったりして、2～3時間の会合を毎年楽しみにしています。

10年ほど前に黒正先生の墓参もしました。

今年は37名の人にご案内をして17名と大学から二人のご列席をいただき盛大に挙行する事ができました。今年はなんと言っても「大経大へは入学しにくくなった」と話題集中、なんとかもっと入学させたい現場の先生方でした。

今年ご出席下さいました陰下同窓会事務局長、黒正教務課長、ほんとうにありがとうございました。

岡山東商業高等学校
教諭　**藤原一志**(36)記

岡山黒樟会の面々

若手市議会議長 新生「川西市」を語る

川西市議会議長

井上　武彦氏(36)

大阪梅田から阪急宝塚線で約30分、川西市の玄関口川西能勢口駅に着く。面目を一新した駅前を通り、建設中の新市庁舎を眺めながら、市役所議長室に井上氏をお訪ねする。

昭和50年若手31歳で初当選して以来、平成2年に市議会議長となるまで、市議員として活躍してこられた氏は、新生川西を代表するように現状とその将来像を多いに語って下さった。

川西市は兵庫県の東端に位置し、山と緑に恵まれた住宅都市として発展し、最近では地価上昇率全国一として有名になったが、「川西は急激に発展して来たのでハード面が不足しています。また人口急増に伴って学校教育費が50％を越えているが、今後は文化面にも力を入れて行きたい」

また市議会として「情報を公開し開かれた市政を行い、地方自治のモデルを作りたい」

学生時代は大学紛争のさなかで休講が多かったと話される氏は、また、情熱のある経大生にぜひ川西へ来てほしい。地方自治体で活躍出来る学生を育てるためにも経大には法学部が必要ではないか。と経大に寄せる思いと期待を語って下さった。

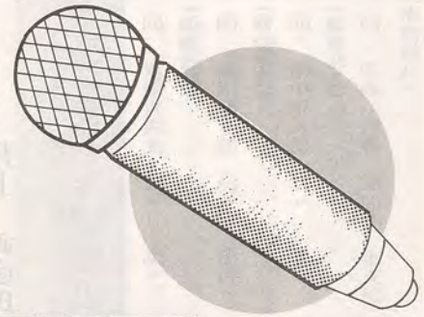
「日々拓礎」―議員になって以来の言葉とのことである。

市政に対する情熱が並々ならぬものであることが感じられたインタビューであった。

（兵庫県出身、36回卒、卒業後ダイハツ勤務、昭和50年川西市議会議員、平成2年同市議会議長）

吉村和利記

同期生インタビュー



灰釉との出会い、陶芸家

茅濠窯
古野幸治(32)

8月のある日、大阪経済大学の卒業生としては本当にめずらしい「陶芸家」の道に進まれた、古野幸治さん宅にお邪魔しました。

「陶芸の道にはいられたきっかけは」という我々としては最も興味ある質問に対し、「本当に偶然でした。知人の紹介で学校の教材用陶器を焼きはじめたのが、直接のきっかけです」とサラリと答えられました。

さらに「それまで陶器など全くと言っていいほど無縁の世界にいた自分がここまでやってこれたのは、妻をはじめとする大勢の人との出会いに恵まれていたから。手探りの状態からはじめた陶芸の道ですが、それでかえって陶器と新鮮な気持で出会うことができました。また人がやっていないことをやりたいという気持からつくりあげた〝灰釉〟が私の作品の転機となりました」とのこと。

現在も生活の大部分が、陶器を焼くこととおっしゃる古野さんですが、家族やその他の事をいっさい忘れてもっと〝陶器のことだけ〟に専念したいとのこと。また自分の作品を通しての出会いは、今後も大切にしたいとのことでした。インタビューを通じて古野さんの〝陶器〟に対するひたむきな姿勢がうかがわれ、我々も興奮した時を過ごすことができました。

(昭和41年、32回卒、泉南市出身　泉谷ゼミ　日本工芸会正会員　日本伝統工芸展入選受賞　三越、高島屋他で個展を数多く開催　妻、1男1女、阪南市在住)

阿部衣子記

座右の銘は《らしくなれ》

北興化学工業㈱取締役　企画部長
上岡　豊晴氏(23)

はげしい秋雨の10月9日、東京日本橋本石町の北興化学工業本社に上岡豊晴氏を訪ねる。

黒正先生ゆかりの岡山県のご出身。経大受験のきっかけともなる。一部上場会社・北興化学のケミカル畑で唯一の文科系出身の重役として、91年8月に昇進された上岡氏。

入社後、34年間のうち営業・資材・製造部門へと17回も転属を重ね、日本各地を回って、こんにちの地位を築いた企業人。

「私は百姓の出身で、化学の知識以前の、田んぼの体験が仕事を支えてくれたんです」と。地方に赴任する時は県単位の幕藩制度を研究して、その地方人の心になりきり、人脈も大切に生かした努力家でもあります。「東京に帰った現在でも方々のシュン(収穫後1週間以内の作物)のものを、しかもその特定地域こその最良の田んぼからの最良の気象条件のササニシキなどを試食に届けられ、贅沢なグルメを楽しませて貰っています。これは一種の役得ですネー」と破顔一笑。

母校に対しては、今は大学淘汰の時代。受験生が大学を選ぶ時代。会社の企業理念と同じく、昔からの学風をいまの時代にあう言葉で高校生に対応する。一味違うグットカレッジを。経大スピリッツを大きく育て、教職員とOBが協力して捨てるものと育てるものを見出す努力をし、21世紀にふさわしく打ち出して行って欲しい、と熱っぽく語られる。

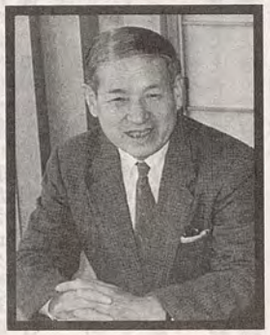
後輩に求めることは、転勤を厭うな。今は地元志向がふえてきて人材難。転勤こそが人間を鍛えてくれる。

座右の言葉は《らしくなれ》最後のこの言葉が今日のインタビューのメインテーマとなりました。

(学生時代はバスケット・陸上競技等のスポーツに熱中、岩井ゼミ　昭和32年経大卒　同年入社)

前田悦子記

親友内田真二君(1)の死を悼む



平成3年5月14日㈫、各種報道機関が信楽高原鉄道の惨事を報道し、その死亡者の中に学友内田真二君の名のあることに気づき、ご自宅に電話してそれが事実であることを知ったとき、あの温和な頭髪もふさふさとした76歳とは思えない頑健な姿からは突然の死など想像も出来ず、その驚きと悲しみは筆舌につくせません。

過ぎし学窓の頃を思い出しますと、昭和7年4月、共に入学の栄を与えられ、着席順も近かったことから最初から親しく旧交の学友といった感じでした。

先ず思い出されることは、3年生の夏、彼と映画部の宇野善四郎君と私で母校を大いに高揚しようということになり、朝日会館で「映画と音楽の会」を開催し、校長はじめ関係各方面の了解・承認を取りつけ、全校生徒一丸となってことに当たり、昼夜とも満員盛況の成果を収めたことが思い出されます。

また、卒業真近にも拘わらず編集責任者として、あの当時としては立派な卒業アルバムを完成されたのも彼でした。

卒業後は名古屋市役所に勤務され、将来を嘱望されながら同所を退職、長兄の経営される染色加工工場を手伝われ、戦時中は北支・満州各地に駐屯され、終戦前に内地帰還除隊されたと聞いています。

その後、ご尊父の経営される丸三製作所を継がれ順調に業績を拡大され、近時は悠々自適の生活を送られ、ご夫婦で国内旅行は勿論世界各地を旅され、国内旅行の際にはご夫妻に誘われて四国、東北、北海道の温泉旅行に同行したのが昨日、今日のような気がします。

その間、母校同窓会の役員として活躍され、また、地元地区世話人として地元集会所建設のために奔走され、立派に完成したその集会所が彼の告別式の会場になろうとは感無量といわざるを得ません。

この悲報に接し、内田真二君の人徳を偲び、惜しみても余りあり、断腸の思いであります。

内田真二君どうか安らかにお眠り下さい。

合掌

武川吉男(1)記

現在、学生生活を過ごしています

藪内（山口）正博(1)

地域社会にて自分に可能なボランティア活動に参加。余暇は、健康保持のため、また新しい友達を求めて楽しんでいます。平成元年には、岸和田健老大学（在学生400名）に入学し、現在3期を迎えています。往年の学生生活に似たプログラムに従い、豊かな生活の創造に励む毎日です。

体力に変化を覚えますが、「気持ちの持ち方次第」と努めて外出しています。

同窓会の活躍も年を追って充実し、何よりと存じます。これからも人の輪を大きく広げていきましょう。

在学中の恐怖の思い出

河内　啓三(6)

①目下現役中。毎日たいへん忙しく、余暇はありませんね。
②酒を飲むこと。そして、今日一日を忘れることです。
③校門に教務主任(?)が立っていて、その当時長かった私の髪の真中を、バリカンで切られてしまいました。
④毎年ありがとうございます。

なつかしいあの〝大接戦〟

岸本　貞二郎(8)

①余暇は庭いじりや昼寝など、のんびりと過ごしています。ストレスは感じませんが、たまにはゴルフで気分転換を…。
②昭和16年の春にバレーボール部ができ、その秋には、関西学院を相手に大接戦を演じました。ちなみに私は、初代キャプテンです。

楽しみは、海外旅行

北井　清之(9)

清酒製造業のため、11月から翌年4月までは毎日が緊張の連続。夏には余裕ができるので、隔年の6月に夫婦で海外旅行を楽しんでいます。

そんな私のストレス解消法は気ままなドライブ。すべてを忘れて運転に熱中し、気分一新を図っています。

在学中の一番の思い出は、校内新聞に投稿し、原稿が採用されて記事として発表されたことです。たいへん感激しました。

素晴らしき青春時代

木村　栄一郎(7)

余暇は趣味のカメラで一喜一憂してます。ストレス解消法はとくになく、若いときに鍛えて蓄積した健康体に感謝しながらのんびりやっています。

学生時代は戦争の真最中。統制経済で何をするにも不自由なときでしたが、黒正イズムのもと各教授のヒューマンリレーションの教えを満喫。とくに、「社会に出て、どのような本を読むべきかを教えた3年間である」というある教授のユニークな送別の言葉が、今も忘れられません。それが社会生活において、たいへん役に立ったと思います。

〝真の自由〟を学んだのもこの時代。素晴らしい時間を過ごすことができ、そして思い出の多い青春時代となりました。

『澱江』を読んで、時は流れ、そして若い人の息吹を感じています。

『澱江』は、バラエティーに富んでいるので、送られてくるのが待ち遠しいです。

心身ともに健康です

谷　修自(11)

健康は私たちにとってかけがえのない財産です。健康には「体の健康」「心の健康」「頭の健康」の3つがあります。この3つが揃ってこそ、真の健康なのです。さらに、健康とは自分自身で築くものですから、自分にあった健康法を創り出すことが必要。その方法も短期間で効果を求めるものでは何の意味もありません。永続的に努力、実行することによってはじめて効果が期待できるのです。

現在、私が実行している健康法は

①適度の運動
毎日5kmのコースを決めて、約1時間歩く。月2回のゴルフ（1R）
②バランス良く栄養を摂取する
食べ物の好き嫌いをなくし、何でも食べる。
③心の若さ
朝寝は厳禁。規則正しい生活。そして、いつまでも活力を失わない。

年齢を意識しない。

以上、快眠快食、予防にまさる治療なし、です。

わる〜い(?)生徒の今の姿は…

宇田（車力）久美子(14)

終戦の年に入学、はや40数年が過ぎました。現在は、学生時代に考えもしなかった簡単手芸やボランティア活動に明け暮れています。地域婦人会の手芸リーダーを任されておりますが、リーダーとは名ばかりのめだかの学校の先生です。それでも、「手先を動かすことは、健康のため」と変な理屈をつけて、毎日忙しくがんばっています。

布やらボンドやら、さぁ、何が出来上がることでしょうか…学生時代、家政科の授業（テスト?）をボイコットした悪い生徒の今日の姿です。

テニスにかけた青春

平岡（高木）幸夫(15)

昭和21年から3年間の学生時代の話です。日本全体が荒廃した中で、「旧円封鎖、新円へ切替」があり、夜は停電でローソク頼りの生活が度々、岡山の自宅へ帰郷するにも、汽車の切符が上郡までしか買えず…。学内の上級生は女性（美女多し）ばかり、同級生は16歳から30歳くらい（復員軍人多し）まで年齢差があり、マルクス主義思想に興味を持つ学生もいました。65歳となった今、当時の純真な学生時代がなつかしく、あの頃の体験が社会人としての40年間にたいへんプラスとなり、リーダーシップを発揮できたと感謝しています。

書評

『国際物流の経済学』

柴田悦子(14)編著

近年経済活動が盛んになるにつれて企業は多国籍化し、資本・ヒト・モノは国境にかかわりなく移動しはじめる。いわばボーダーレスの時代に入っている。

本書は国際物流に焦点を当て、経済活動に伴う輸送システムや、企業の国際物流戦略を総合的に解明している。

第1章の運輸業の立場からの分析に始まり、ボーダーレス活動を展開する企業と物流、国際複合一貫輸送の形態、情報と国際物流、等8章からなり、執筆陣には編著者の柴田先生と「国際物流研究会」の名称で共同研究されてきた8名の方が分担されている。

なお柴田先生は本学14期（昭和23年）卒業、91年3月で大阪市立大学を定年退職され、現在、本学で非常勤講師として4月から交通論を担当しておられる。

（平成3年2月発行　㈱新生社　226頁　定価2800円）

（吉村和利記）

書評

『上海風雲録重松為治翁伝』

遠藤和子　著

富山支部長重松尚氏(23)が代表取締役社長を務めるカサマツ株式会社（医薬品販売）が、このほど同社の基礎を築かれた先代社長（尚氏の父）の一代記をまとめ出版された。

同書は、越中売薬300年という記念すべき時期に上梓されたが、富山売薬が国内にとどまらず、明治39年に中国上海の地に創設された「重松大薬房」を基点として、広く中国各地に薬品事業を展開した歴史を知ることができ、また、「商売に国境はなし」をはじめとする同社の経営理念（重松商法の神髄）は、真の国際化を追及しなければならない我々に多くのことを示唆してくれるであろう。

なお、著者は富山市在住の作家（66歳）だけに、筆力に加え取材活動にも努力され、同書を読みごたえのあるものにし、多数の上海カラー風景写真も目を楽しませてくれる。

（カサマツ株式会社　平成3年1月発行、226頁、非売品）

（波根伸俊記）

北から南から

「同窓生」の良さを実感

新岡　繁男(16)

今をときめく大蔵大臣、橋本龍太郎氏の岡山地方有力後援会の総責任者の一人で、同期である守屋光太郎君と仲良くしています。

今度、はからずも岡山北部にわが社の郊外店を出すことになり、旧友のよしみで彼にいろいろと手伝ってもらい、たいへんお世話になりました。同窓生とは、ほんとうによいものです。

現在、大学周辺は、当時に比べるとほんとうに様変わりしましたが、今でもよく守屋君と話しています。「下宿生活」の楽しみなどを…。

あれから44年。卒業、就職、定年、関連会社出向、そして還暦を迎えて孫も誕生しました。まさに、光陰矢の如し。時折、青春時代がなつかしく思い出され、あのメロディーを聴いては柄にもなく感傷にひたっています。私が、そのメロディーがモーツアルトの「トルコ行進曲」と知ったのは、ずいぶん経ってからでしたが…。

安来節とモーツアルト

陶山　益三(18)

今年はモーツアルトの没後200年―私が安来節の片田舎から経専に入学したのは、昭和22年。戦後の混乱期でした。空腹と友達もいない不安な日々を過ごしていたある日の放課後、ピアノのメロディーが聞こえてきました。文化祭出演のための練習のようでしたが、クラシックといえばベートーベン。しかも、名前しか知らない安来節と歌謡曲の私が、いつしかその曲の主要部を覚え、口ずさんでいました。本当に心がなごみました。

わが青春の思い出

大植　春男(19)

私の書棚の片隅に並んでいる河上肇著『経済学大綱』上下刊、『資本論』5冊。どれも新刊の専門書がなかった頃、天牛書店で買い求めたものです。

物の価値はそれに投下された労働量によって決定される――この労働価値説は、藤原先生の経済原論で学んだもので、期末試験の問題もこの説についてであったと記憶しています。卒業後、数回の転勤にもこれらの書物は持って行き、家内からの再三の廃棄忠告も無視。還暦を過ぎた今もこれらを眺めるたびに、当時の感激が鮮明に思い出され、処分するには忍び難い心境なのです。

追伸　黎明会のみなさま、早々に相集い、青春のときを思い出して楽しく過ごしましょう。

テニスに夢中です

大平　順二(20)

卒業後、入社した会社でテニスを始めました。結婚してからも入居した豊中市・旭ヶ丘団地にテニスコートが一面あったので、ご近所の方と遊び程度ですが、プレイを楽しみ、48年、川西市に転居してからはクラブに入会。休日には必ずコートに立つようになりました。家内も大のテニス狂。プレイの後、酌み交わすビールの味が格別！　で、翌日は爽快な気分で出社できます。健康法、ストレス解消法にもなり、まさに〝一石二鳥〟。動ける間は続けたいと思っています。

第2の人生がスタート

田中　善郎(21)

母校を卒業して36年。この5月に読売新聞を定年退職しました。やはり長い記者生活が忘れられず、フリーライターとして第2の人生をぽつぽつ歩み始めたところです。

最近の『澱江』は卒業生の直撃インタビューなど目新しい企画が増え、興味深く読んでいます。OBの消息「北から南から」に加え、母校に対するOBの声など、特集されてみてはどうでしょう。

私の人生

高野　守(22)

出生、室戸台風、戦争、疎開、そして敗戦。旧制中学、高校、大学入学・卒業。結婚、転職…58年の歳月でさまざまなことを経験。そのなかで健康第一を実感し、そして仕事、友人、家庭、生活環境など恵まれた状況で今日に至っています。

さて、残りの人生はあと何年か、これからどうして生きていくか。酒も飲まず、女遊びもせず、昭和38年から始めたゴルフも現在は週に1回歩くことを目的としたラウンド。息子の家庭を気にしながら、孫の成長をひたすら楽しみにしています。また多くの人たちに交じって（ゴルフコンペ、ライオンズクラブの会合）、しゃべり、討論し、そして仕事に精を出す、そんな毎日です。

苦しかったこと、さみしかったこと、悲しかったことなど嫌なことは一切忘れ、寿命がくれば西方浄土へ無事行けるように「南無阿弥陀仏」を念じながら、円満な残りの人生を過ごせれば最高、と願望しています。

合掌

同窓の活躍に期待

大供　竹太郎(23)

同窓のご活躍頼もしく、また旧知の便りをなつかしんでおります。

北から南から

私は、まだまだ〝蟻〟のように働いています。それが「健康法」でもあり、「ストレス解消」にもなっている因果な世代です…。

「学生運動」の全盛期、多くの〝つわもの〟から薫陶を受けたのも新聞会に席を置いたおかげです。

『澱江』編集にあたり、お役に立てなくて残念ですが、せめて同窓会・支部会には、努めて参加したいと思っています。キャンパス・同窓の便りを楽しみにしていますので、編集部のみなさまのご健闘をお祈りしています。

ついに、後輩ができました。

磯田　郷一郎(26)

石油メジャーのエクソン直系会社で、英語のストレスと悪戦苦闘しているうちに、「もうこんな年齢になったのか」と実感。今は、ゴルフにかこつけて気に病むことを忘れています。

この会社には、大経大出身者が私一人だけだったのですが、今年、中年の後輩が入社。うれしくて電話で話をしましたが、面会はまだ…。会える日を楽しみにしています。

山岳部の再建や山小屋の実現に日夜情熱を傾けた現役時代の仲間も遠く離れてしまい、酒を飲むこともできませんが、会えばすぐ気持ちと口だけは若返ることでしょう。これを見ていただいた旧友のみなさん、お便り待ってます。

思い出の地・沖縄

鳥羽　健夫(27)

南からの便りが東からとなりました。同窓会への住所変更の手続きの前に同窓会から送られたはがきが沖縄経由で埼玉に転送されてきました。沖縄では2年間、那覇市内のホテル会社に出向し、この間に思いもかけない貴重な経験をさせていただきました。なにしろ私にはホテル事業の勤務が初めてでしたから…。

沖縄は来年が本土復帰20周年となります。また国際的トロピカルリゾート観光立県として大きく動きだしています。那覇市内では新しい県庁舎、リュウボウパレットビル（デパート）の竣工…と、見る間に市内の様相が一変しつつあります。

もちろん、リゾート地での大型開発計画が目白押し。しかし、それと同時に環境破壊の問題も大きくなっています。

沖縄滞在のなかで私がとても残念に思ったのは、沖縄の明るさの裏に本土に対する目に見えない壁が存在しているということ。これは歴史の過程の傷跡というのでしょうか。これの解消には、まだまだ年月が必要でしょう。

私としてはせめてあと一年沖縄に残り、もう少し沖縄のことを知りたいという思いを残しながら、東京に帰ってきました。

とにかく歩く

国西　良昌(29)

私の余暇は、経大ワンゲル部出身らしく今も極力歩くように心がけていること。休日は双眼鏡を持って、バードウォッチングを兼ねて近隣の山や川を徘徊しています。また毎日の通勤時30～60分電車区間も歩く（その日の体調によって距離を調整）ようにしています。これが私の健康法でもあり、ストレス解消法にもなっています。

学生時代の思い出については、ワンゲル部の夏季合宿において、当初から無理なスケジュールを若さでカバーしようとしていた際、メンバーの一人が雪渓に足を取られ、百数十メートル落下！　擦り傷で済んだので良かったものの、今考えてもぞっとします。

澱江は毎回楽しく読ませてもらっていますが、最近は記事の内容や同窓会支部便りなどの一部にマンネリ化があるように感じられます。ひと工夫していただければ…と思います。

仕送りの気持ち

石崎　文明(31)

1936年5月30日付の母への手紙「前略　授業料の納入ありがとうございました。…中略…学期始め教科書代もいるので、来月の送金は勝手を申しますが、一万四千円を送ってもらえませんか…。」

母への便りは、いつもお金のお願いと催促であった。封書切手代が10円、大経大のマークが入った便箋が当時を懐かしく思い出させます。

使用した教科書の一例『経済学講義（藤原光治郎編）』390円、『市民革命と協同思想（平実著）』580円、『デューイ研究（巡政民著）』380円。岩波文庫は★一つが40円でした。

現在、子ども二人に学資を送付する身となり、親の苦労を感じることができ、ありがたく思っています。

いつも『澱江』をご送付していただき、感謝しています。

趣味を楽しく健康的に

御牧　平八郎(32)

卒業して25年。すなわち勤続25年ということになります。私は3年前より秋田の経済人にトレードされ、オーナー店の秋田いすゞ自動車に出向。おかげさまで大型トラックディーラーとしてナンバー1の地位を築き、かつ継続しているものの、市場

が荒れて厳しい戦いとなっています。
そのようなサバイバル合戦のなか、私は趣味によってストレスの発散と体力の増強に心がけています。その一つ目はゴルフ。近郊五ヵ所のメンバーとなっており、日曜日は月例競技でシビアな感覚で攻めと守りを勉強しています。二つ目は釣りで、時々深さ150メートルの深海（男鹿半島沖）の春メバル、ホッケを釣りに行きます。これがたいへん体力のいる釣りなのです。真面目に取り組めば必ず成果があるので、体力増強に役立っています。
最後に、『澱江』で稲原先生が退職されたのを知り、非常に残念でなりません。飲むほどに昔が懐かしくなる今日この頃です。

余暇にストレス解消!?

西岡（河本）弘美(33)

1年1回の『澱江』を楽しみに拝見させていただいてます。
私の余暇は、ソフトボールやバドミントンに汗を流し、息子のラグビーの応援で声をからしていることが、健康法となり、ストレス解消法になっています。
卒業して25年余りの歳月がたちますが、時折、今は亡き土生先生のゼミで白浜にゼミ旅行したときのことを懐かしく思い出します。
毎年『澱江』発刊に際してたいへんな苦労があるとは存じますが、毎年、懐かしく楽しみに拝見させていただいていますので、今後とも頑張ってください。

同窓会にも海外支部を!

曽根 源蔵(33)

毎回、澱江を楽しく拝読させていただいています。
国際化が叫ばれて久しい昨今、わが母校の同窓会にも海外支部を設けてはいかがでしょうか。私自身も仕事柄、長年国際ビジネスの世界に身を置いており、75年から80年にかけては仕事の関係上ニューヨークで生活をしていました。帰国後も勤務先のアメリカ現地法人の役員を兼務する関係で、常々何かお手伝いをさせていただくものはないかと考えています。
卒業生の中には海外で活躍されている人も多いと思いますし、今後も益々そのトレンドは顕著なものであると推察します。国際的に羽ばたくわが母校であってほしいと念願します。

東京での生活

難波 征昌(34)

皆さんお元気ですか。私は昭和43年に卒業し、建設機械メーカーの北越工業に入社して23年になります。その間、新潟・大阪・高松・松山・名古屋を転々として、東京に移って9年目になります。
仕事はブームに乗って順調なのですが、寂しいことに未だ後輩の入社がありません。そのため母校の話しをする相手も無く、大隅周辺も忘れてしまいそうです。
人生の折り返し点を過ぎ、神戸の桐月正邦大先輩の「健康が第一…」という言葉が身にしみる歳となり、健康維持に最も気を使っている日々です。
営業というと仕事柄不規則・不健康なことが多く、できるときにできることを楽しくすることをモットーに、ゴルフとジョギングをして健康維持に努めています。やっと5～8キロ走れるようになり、気のせいか腹の出っぱりも小さくなったと自己満足しています。これからも元気にやっていきたいと思います。

大経大のあるべき将来像

小西 広満(34)

中・長期的に茨木市に大学を移転して、経済学部を基本に、経営学部を経営情報学部に発展させ、柴田教授や山本学長がおっしゃっている人間文化の分野を集大成した国際文化学部の3学部にユニバーシティ・アイデンティティを確立することだと思います。
当面はいくつかのスポーツ部門で一流を目指すこと、税理士や通産省の情報処理試験、教員の合格率に実績を上げることで、大経大を内外にアピールすることが肝要だと思います。

内容の充実が目立つ「澱江」

下野 和彦(35)

ここ数年の『澱江』の内容の充実

には目を見張るものがあり、毎年、楽しく、なつかしく拝読しています。とくに「学園の近況」は最近の経大がよく分かるようになっていると思います。
私は現在、市役所の教育委員会に籍をおいており、入試結果にはいつも注視していますが、志願者に占める合格率は私の時代（25年前）に比べると、非常に難しくなっているのが分かります。
また91年度からは、経営学部に新しく経営情報学科が新設されたことを、OBとして、非常に嬉しく思います。
最後に経大の今後の益々の発展と『澱江』の充実に努力いただいている編集部の皆さんに感謝申し上げます。

なつかしの経大新聞づくり

山本 長彦(32)

在学中は山本（現学長）ゼミで新聞会。勉学よりも経大新聞づくりに明け暮れた4年間でした。村田さんや足立さん…など、澱江が届くたびに当時の新聞会のメンバーの顔が当時のまま浮かんできます。
私はそんな新聞づくりの面白さにとりつかれ、今だに新聞をつくっています。母校の楽しい話題などは、つい大きくしてしまいます。
変則勤務なので「寝れる時に寝る」が健康法の一番。庭の手入れがその次かな？ それにうまい酒も欠かせません。

犬の散歩と晩酌のビール

狩野 明義(36)

私の健康法とストレス解消法は、タイトルの通り犬を散歩につれて行き、晩酌にビールを一本飲むことです。余暇についても下手なゴルフと庭いじりをして、わりと健康的に過ごしています。
学生時代はゼミの友人たちと鳥取の温泉に行き、スウィージーの「独占資本」をテーマに語り合ったことがなつかしい思い出の一つとなっています。
これからも毎回いろいろな企画・編集を楽しみにしています。

余暇・健康・エピソード

坂本 正夫(36)

私は家の仕事をしながら、音楽（とくに演歌）を聞いて余暇を過ごしています。
健康法ストレス解消法に関しては、毎朝の柔軟体操、縄飛び、腕立て伏せをして、健康維持に務め、お酒を飲んでストレスを解消しています。
学生時代は友人と朝まで飲んだことや飲み歩いたことをよく覚えています。
『澱江』は、うまく編集できていると思います。わが母校・経大のために、今後とも頑張っていきましょう。

休日の過ごし方

奥 正信(36)

卒業して20年になりますが、毎年母校からの定期便『澱江』を楽しく拝読させていただいてます。
私の余暇は「自然との共生」をモットーに健康・体力維持のために、山歩き、スキー、サイクリング…などのアウトドアライフを楽しんでいます。しかし昨今は、「リゾート開発」の名の下、自然が簡単に破壊されている「金満日本」の現状を非常に残念に思います。学生時代は「法研」で楽しく青春を過ごし、今でも各地に散在するOBとの交流は有意義です。また「OB会」では同窓会事務局の方々、門坂先生にはいつもお世話になり感謝しております。
最後に母校ならびに同窓会の発展を心よりお祈りいたします。

この頃思うこと

金子 洋巳(36)

最近の世の中はどうなっているのか!? バブル経済、いざなぎ景気以上の好景気か知らないが、儲かれば良い、それも自分一人、わが企業だけが儲かれば良い、儲けるためには手段を選ばないという、倫理観も社会秩序もルールもない、ましてや人を思いやる心などを持ち合わせていると尻を叩かれそうな罪悪感さえ感じられます。まったく嫌な世の中になったものです。
口先と人にやらせる、ごまかす、一見まっとうな理屈を言い、額に汗しようとしないのだから……。ごますりと強い者には論戦を張れないひ弱なイエスマンが多すぎる、それも処世術なのか!?
グルメだ何だと食べ物を粗末に使った料理を、不健康な顔を厚化粧で隠した女性、アッシー君か貢ぐ君か知らないけれど汚く食べる若者、余るほどないと機嫌が悪い脂ぎった60過ぎのおじさんたちなど、もったいない食べ方が偉い・上品と思っている人が多すぎる。そんなに物やお金があるのならば、今日のミルクも無く死んでいく人々に手を差し伸べればいいのに……。このままでは心が干上がり、日本も世界も危なくなってしまう。少しぐらい減速・マイナス経済になっても（本当は長い目で見れば良い経済成長なのですけど）、思いやりのある、優しい心のある世の中にするため、今まで以上に人や周囲から煙たがられても物申してみよう、行動を起こしてみようと思うこの頃です。

現在の私

小池 信行(37)

卒業して早20年。学生時代は、あまり学校へ行かず、近くの雀荘や友人の下宿先に入りびたりしていた毎日が、非常になつかしく感じられます。
そして現在は東京での生活も20年を過ぎ、第二の故郷として頑張っています。
いつまでも気持ちだけは若いつもりでいますが、最近は歳をとるにつれて体力に自信がなくなり、日々健康に注意している次第です。

私の健康法

浅浦　哲夫(39)

卒業してから18年。歳月とともに髪の毛と腹の様子に、変化の兆しが見え隠れする今日この頃です。

現在、私は銀行の支店長職にあります。そのため夜の付き合いも多く、運動不足になりがちなので、体型の維持とストレス解消を目的に次のような健康法を行っています。

①午後10時以降は食事をしない。（みそ汁程度で済ます）

②朝は必ずシャワーをした後に食事をする。

③日曜日は子どもとともに少年野球のコーチとして参加し、腹から声を出して練習を見る。

このなかで3番目の健康法は、ストレス、肩こり解消と金銭面で家庭円満です。皆さまも一度始められらいかがですか？

忘れられない卒業式の言葉

梅原　敏郎(39)

今年も『澱江』が送られてくる季節となり、歳月の早さを感じています。この『澱江』によって母校の発展の様子がよく判り、毎年楽しみにしています。

さて学生時代、先生に憧れ、鈴木享ゼミに参加しましたが、今になって「経済哲学」をもっと学んでおくべきだったと後悔しています。

一方、クラブはＹＨＣ（ユースホステルクラブ）に入り、全国津々浦々を旅した思い出が貴重な体験として心に残っています。当時のＹＨＣの皆さんお元気でしょうか？　当方は卒業式で聞いた「先見の明を持て！」のお言葉を忘れないように、がんばっています。

心痛む、バブルの崩壊

中井　一夫(40)

経大卒業後も13年間大阪で勤務し、わが第2のふるさととなった大阪を5年前に後にしました。東京では支部総会が毎年、新宿野村ビルで開催されています。実は、出席通知を出しながら、一度も出席したことがなく、今年こそはと思っています。

近時、バブルの崩壊により、金融機関の不祥事がマスコミを騒がせていますが、職業柄、心が痛む思いです。学生時代は鈴木享先生のゼミで経済哲学を学びましたが、物（金）に人間が振り回される（疎外される）状態は長続きしないようですね。

余暇があれば…ふと、あの懐かしい経大の図書館を訪れ、ゆっくりと読書でもしてみたいな、と感じるこの頃です。母校の発展をお祈りします。

今後も、「澱江」に期待します

黒川　恵三(40)

卒業して17年、『澱江』を拝読するたびに学生時代のことがよみがえってきます。サークルは経営経済研究会に所属し、先輩諸氏の暖かいご指導によって、たいへん有意義な学生生活を送らせていただきました。また、3回生からはゼミナール協議会で書記長を任され、大樟祭の実行委員長として走り回ったことをなつかしく思い出します。

現在、奈良市で中小企業の皆さんのお世話をしながら、今春の5月より市会議員として奮闘いたしております。『澱江』は大学の現状や卒業生の近況を知るだけでなく、卒業生の絆として、大きな役割を果していると思います。

編集部の皆さんにはたいへんご苦労をおかけしますが、今後とも豊富な情報をご提供ください。

トライアスリートを目指してます

里村　喜好(40)

「老化は足から」と聞かされ、ジョギングをはじめたのが8年ぐらい前。それからタバコもやめ、フルマラソンに挑戦しました。

今では欲を出して、トライアスロンにも挑戦していますが、残念ながら抽選もれのため大きな大会には出場できていません。水泳、自転車、マラソンと、自分の体調に合わせて、ゆっくりと練習しています（あまり練習熱心ではありません）。

また日曜日の午前中は、近くの小学校で少年サッカーの指導をしています。もしよろしければ、練習試合をお願いしたいと思いますので、☎0797-32-2631里村までご連絡ください。

時の流れを感じながら

湯川　泰志(40)

思い起こせば、経大入試のため、長崎駅を発つ日も雪、試験が終わり博多駅に戻ったときも雪でした。そういえば初めて経大を訪れるために、上新庄の駅に降り立った日も雪で、その日、学生部の窓口で「下宿はない」といわれ、「これからの4年間どこに寝ぐらをおこうか」と心細い私の肩に降りしきる雪をひどく冷たく感じたものです。

4年生のとき、ＯＬだった彼女を連れてＤ館の大教室で財政学各論の講義を聞いたことも、忘れ得ぬ思い出のひとつ。その彼女との子供2人を連れて5年ほど前に経大を訪ねました。生協の食堂で定食を食べさせると、「おいしいから、僕もこの大学へ行く」と長男が。その子も来年は高校生。本当に経大に行くようになるかも…。

時の流れを痛切に感じます。これ

からの日々も大事にしていきたいと思っています。

私のストレス解消法

清重　弘子(40)

ごろっと横になって、好きな本を〝めくり〟ながら、昭和40～50年代――まさにわが青春時代の音楽を聴くことが私のストレス解消法。その頃ですから、反戦歌、フォークソング、スクリーンミュージックなど、いろいろあります。子供からはよく「どうして、もっと新しい歌を聴かんの？」と聞かれますが、今の曲はとうてい理解できません。青春時代に思いをはせながら、なつかしい音楽に耳を傾ける――これが心身ともにリラックスさせる方法です。

競馬ブームに思うこと

村上　隆志(42)

世はまさに競馬ブーム。若手ナンバーワンの武豊騎手の魅力によってか、若い女性ファンも数多くいるとのこと。そういえば、私の学生時代も「怪物」ハイセイコーの出現で、かなりの盛り上がりを見せました。当時、関西では豊騎手の父、「名人」武邦彦現調教師と落馬事故で騎手生命を失った「天才」福永洋一さんが双璧。競馬場で見るサラブレッドの美しさは感動的でさえあり、人馬一体のレースは今も鮮明な記憶として残っています。

ただ思わず夢中になってしまうのが競馬の欠点。やはり学生さんには、おすすめできません。

毎日、クラブ活動でした

吉岡　充信(45)

母校を卒業して12年が過ぎました。振り返ってみると、学生時代の思い出は、グリークラブに尽きるといっても過言ではありません。4年間を通じて授業にはでなくとも、クラブの練習は欠かしたことがないという生活でした。4回生のときに関西合唱コンクールで銀賞を受賞した喜びが、最高の思い出となっています。

またクラブの合コンで知り合った妻との8年間の結婚生活や、一男一女を得たことなど、すべての礎がグリークラブにあったような気がする今日この頃です。

私のリフレッシュは、家族との団らん

中筋　政人(46)

経大を卒業して12年が過ぎようとしています。現在商業科の教員として勤務。日々の仕事に追われ、また軟式庭球部の顧問としても国体・インターハイを目標に、休日もなく生徒とともにがんばっています。

そんな私が、すべてを忘れて心身ともにリフレッシュするのは、日に数時間しかない家族との団らんです。家族とはこんなに素晴らしいものかと、最近つくづく感じています。妻と子に感謝しながら、精一杯生徒に接していこうと思っています。

わたしのバードウオッチング生活

仁井　靖彦(46)

学生時代は体育会硬式庭球部で4年間過ごし、硬派の日々を送りましたが、今や一転してホテル・旅館のサービス業。ブライダルシーズンのウィークエンドに休日という言葉はありません。

ふと、手にした双眼鏡から、急に鳥が好きになり、2年ほど前から日本野鳥の会に所属し、「鳥を通して自然に親しむ」生活をしております。また、今年の愛鳥週間を契機に会社の愛好者とともに、野鳥などに関する社内報を発行しています。

鳥を観察したり、自然に親しむことは、何より余暇の利用法、ストレスの解消になると考えている私は、まだ、33歳、二児の父親です。

海外生活で得た、貴重な経験

森光（前田）　明美(46)

主人（同期生）の転勤で台湾・台北市に来て、もう3年7カ月が過ぎ、あとわずかで日本に帰ります。思いがけない海外赴任で、当初はいろいろとショックを受けましたが、考え方を変えて「今、私たちは貴重な経験をしているのだ」と思うことで、精神的に楽になりました。

日本に近いとはいえ、外国にいるので、家族の健康面が一番心配です。毎日を楽しく、内に閉じこもらないように心がけ、交友関係をとくに大切にしています。お誘いの声がかかると無理のない程度にでかけていき新しいものを見つけたり、家に友人を誘うなど…思いっ切りエンジョイしているわが家。仕事に疲れて帰宅する主人も〝平和な家〟を見て、ホッとするといってくれます。おかげで、3人元気に駐在生活を送ることができました。

淡路島支部の幹事をやってます

石井　克明(48)

毎年、『澱江』の発行を楽しみにしています。

卒業後、3回目の採用試験により、兵庫県立洲本実業高校の教壇にたっています。昨年初めて、教えた生徒が2名経大に入学し、喜んでいます。

北から南から

また、縁あって37番目の支部・淡路島支部発足のお手伝いをし、発足後は、支部の幹事を務めさせていただいております。この7月7日には、高知で淡路島支部と高知支部の交流会を開催。楽しいひとときを過ごすことができ、改めて同窓会の良さを感じました。高知支部の皆さん、ありがとうございました。

これからも経大に、良い生徒を送るとともに、支部活動も盛り上げたいと思っています。淡路島より「経大」と『澱江』の発展を祈り、ペンをおきます。

東北への家族旅行を計画中

西原　集(48)

同期生の皆さん、お元気ですか。早いもので経大を卒業して、もう10年が過ぎようとしています。この10年を振り返ってみると、就職、結婚、長女の誕生など、私個人にとって、多くの出来事がありました。経大においても記念館の完成、学科の新設など、同窓会誌『澱江』により、その様子を詳しく拝見しております。

さて、私は日頃、可能な限りの余暇を見つけては、旅行するように心がけています。普段、仕事の面で随分と迷惑をかけている家族のために、この機会を利用して家庭サービスをしたり、私個人としても社会的見聞を広めることにもなります。過去、北海道、信州などに旅行しましたが、今年は東北旅行を計画しています。余暇を有効に活用するために、一度家族旅行をしてみてはいかがでしょうか？

ストレス解消はカラオケ、サウナで

弓削　雅哉(52)

教職に携わり6年目を迎えました。多感で活発な中学生を教えることが自分への活力の源となっています。ストレス解消には、先生仲間とカラオケに行ったり、サウナで汗を流したりして、精神的にも肉体的にもリフレッシュしています。

『澱江』で、先輩や後輩達の活躍の様子を知ることが、いい励みになっています。

ドイツに駐在しています

小野　数仁(52)

ドイツ駐在となり、早1年半。そのなかで、もっとも痛切に感じる日本との違いは、精神面における個人生活の豊かさです。

労働時間は年間にして、約1600～1700時間（日本の平均は、2100時間）権利であり義務でもある年間の有給休暇は平均でも30日間以上です。全国にアウトバーンが張り巡らされ、しかも無料、速度無制限と、文字通りのフリーウェイ。都市の至るところに駐車場が完備され、空港も日本に比べ断然近くて、便利。一方、都市中心部でも緑が多く、家の軒先には野うさぎや野鳥が訪問します。

確かに、物質面で日本に勝る先進国はないでしょう。日本は自他ともに認める世界No.1の経済大国だと思います。しかし、精神面ではどうでしょうか？個人の生活にとって、いろいろな経済力の指標は何を意味するのでしょうか？

仏首相クレッソン女史の発言に憤慨し、当地でも日本流の労働スタイルを貫きながらも、ふと疑問に感じる今日この頃です。

生徒達との、奮闘の毎日

吉岡　克己(53)

現在、私は堺市立商業高校で、教師としてがんばっています。生徒達との奮闘で、一日があっというまに過ぎていく、毎日です。

卒業して早4年。学生時代のいろいろなことが思い出されます。私の生徒達にも、後から「よかった」と思えるような学生時代を送らせてやりたいと、毎日一生懸命がんばっています。

いま思う、懐かしいあの頃

吉川　健司(55)

人は「それ」にどっぷりと浸かっていると「それ」に麻痺します。学生時代いくらでも勉強できたものが、その環境にあったために分からず、学生をはなれた今になって、あの時もっと勉強しておけばよかった…ということがしばしばあります。そのような環境を離れたからこそ、強くそう感じるのです。

考えれば、人間とはなんとおろかな動物でしょうか。

あの時の講義が懐かしく、もう一度聞いてみたいものです。

ご投稿いただきたい内容

・あなたの余暇は？
・私の健康法・ストレス解消法
・学生時代のエピソード（忘れえぬ思い出）
・昨年の『澱江』はいかがでしたか（感想）
・その他

事務局だより

記念事業募金ご協力へのお礼

（記念テレホンカードのご案内）

平成3年4月から、母校の経営学部に、新しく経営情報学科が開設され、従来の経済学部経済学科・経営学部経営学科の2学部・2学科から、2学部・3学科の大学となったことは、皆さん既にご承知のことと思います。

新学科開設にあたって、専用学舎F館（Management Information Centre 略称MIC）も完成し、同学科に入学した多くの学生が勉学に勤しんでいます。

同窓会では、昨年度この新学科の開設をお祝いするための記念事業を計画し、当初は校庭の緑化などを考えていましたが、学校当局とも相談の結果、50周年記念の際、後援会並びに同窓会から寄贈した流政之氏作の彫像「雲」「風」に続いて、第3作を新学舎の中庭に寄贈することとし、その資金として、皆さんに募金のご協力をお願いしましたところ、本誌「本部だより」に記載しております方々から、目標額を大幅に上回るご芳志をいただきました。

ただ、彫像の完成は、当初計画より多少遅れまして、平成4年春以降となる予定です。

完成の暁には、改めてご案内したいと思いますが、取り敢えずご協力いただきました方々に心よりお礼を申しあげます。

記念事業募金委員会

「卒業」「成績」証明書等の申し込み方法

卒業生の皆さん、各種証明書を申し込まれる場合は、日数に充分な余裕をもって、左記の要領でお申し込み下さい。特に、英文による証明書には学長のサインが必要なため、10日以上の余裕をもってお申し込み下さい。

なお、電話による申し込みは間違い等ございますので、取り扱っておりません。（母校教務部より）

①来学して申し込む場合

所定の用紙で申し込んでいただくと、約10分でお渡しいたします。

（手数料1通につき、100円）

②郵便にて申し込む場合

氏名、生年月日、卒業学部（1・2部の別）、卒業年度、証明書の種類、必要枚数を記入したメモと、切手（手数料同右、送料62円）を同封のうえお申し込み下さい。なお、お急ぎの場合は速達料金（210円）を追加して下さい。

③英文による証明書の場合

右記②と同様です。ただし、手数料が一通200円となります。なお、パスポートに記載の英字氏名を明記して下さい。

異動のあったときはただちにご連絡ください。

●住所変更　●呼称変更
●勤務先変更●所属部課
●役職異動　●電話番号変更

などの場合は、同封してあります「名簿作成調査表」をご利用のうえ、本部へお届けください。

とくに、官公庁、金融機関、損保関係、国公立学校にご勤務の会員のご協力をお願い申しあげます。

コンピュータシステムの名簿をご利用ください。

同窓会会員名簿は、現在、同窓会独自でシステム化したコンピュータによる管理体制を採用しておりますので、

1、郵便番号による都道府県市町村別会員名簿作成
2、ゼミ別会員名簿作成
3、卒業回数別会員名簿作成
4、クラブ別会員名簿作成
5、業種別会員名簿作成
6、封筒用漢字ラベル作成

などのアウトプットが可能です。会員の皆さん、大いにご利用ください。

逍遥歌

作詞　中村行男（16回卒）
作曲　松川圭一（15回卒）

1．此処　城北に迎えたる
紺碧淀の春の夢
惜春の賦のただよえば
薫風静かに流れ来て
逝きし苦節の十余年
歴史は吾等に教うなり

2．水や濁れる人の世に
真理求めて遊ぶ子の
友愛久遠に変るまじ
汝が悲しみに我は泣き
吾が喜びに君や舞う
惜しみて励め我が青春を

3．踏めば小草も柔き
弥生の庭に集い来し
我が学舎の乙女子は
生命新たな此の曲に
花咲く野山花の下
声美しく歌うかな

学園歌

作詞　黒正　巖
（昭和高商初代校長）
作曲　水野康孝
（元本校教授）

1．商都の東北澱江に
臨みて高く聳り立つ
我等が昭和学園は
産業日本を双肩に
担うて進む若人の
力の糧の広野原

2．一千余年の其の昔
大隅の宮の在りませし
聖き跡の学園は
忠孝日本を心肝に
銘して学ぶ若人の
教えの道の元標

3．黒煙天をひた蔽い
船車どよもす八衢を
静かに臨む学園は
科学日本の究明に
生命を注ぐ若人の
心の花の咲く園生

学歌

作詞　秋本吉郎
（元本学教授）
作曲　柴田南雄
（放送大学教授）

1．大淀の　水は春ゆく
ゆたかな春だ
芽立つ葦原　緑が泌みる
この若さ
希望は明るい　蒼穹かけて
永遠の青春　みなぎる学園
大阪　大阪経済大学

2．大樟の　蔭は裕々
夏風そよぐ
学徒師弟が　幹負いもちて
諸汗に
確かと植えた　融和の象徴
繁れ自由の　花さく学園
大阪　大阪経済大学

でんこう
澱江
1991

■発行日　1991年12月20日
■編　集　同窓会広報部
■発行所　大阪経済大学同窓会
〒533大阪市東淀川区大隅2-2-8
電話(06)328-2431
■印　刷　凸版印刷株式会社
〒553大阪市福島区海老江3-22-61
電話(06)454-3256

事務局だより

平成4年度版 同窓会名簿 限定出版申込受付

新名簿を発行いたします。申込みによる限定出版になっておりますので、お早くお申込み下さい。

収録概要
◇第1回卒業生より第58回卒業生（平成4年3月卒業）
◇創設時より平成4年3月までの大学院の卒業生

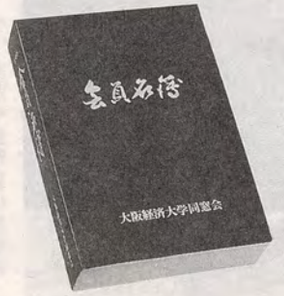
価　格
◇一冊　6,000円（送料込）

予約金支払方法
◇郵便振込
◇銀行振込
いずれの場合も同封払込用紙をご利用下さい。
㊟郵便局または、三和銀行本支店をご利用になれば払込手数料はいりません。
ただし、三和銀行本支店以外の銀行をご利用の場合は、払込手数料がいりますのでご了解下さい。
◇現金書留
〒533　大阪市東淀川区大隅2-2-8
大阪経済大学同窓会
名簿係宛

予約締切
◇平成4年5月末

発行予定
◇平成4年末頃

問合せ先
◇大阪経済大学同窓会事務局
☎06・328・2431(代)



『澱江』購読料のお願い

「自らの購読料で、『澱江』を育てよう！1,000円にご協力を！」を合言葉に、昭和59年度からスタートしました澱江購読料は、お陰さまで深いご理解とご協力をいただき、感謝いたしております。

われわれ編集子一同は、この力強いご声援に応え、親しまれる『澱江』を目指し、一ふんばり、二ふんばり頑張っておりますので、引き続き購読料へのご協力のほど、よろしくお願いいたします。（ご送金は、同封の振込用紙をご利用ください。郵便局、三和銀行本支店をご利用になれば振込手数料は不要です。）

編集後記

▼来年度は『会員名簿』を発行します。限定出版ゆえ、本誌「事務局だより」を参照のうえお申し込みください。▼本年の総会は「経営情報学科の開設を祝い、この日で確かめようわが母校」、記念募金の目標額突破報告と母校への贈呈、野球（硬式、準硬式とも）、ハンドボールの優勝表彰など盛会でした。▼支部活動では池田、和歌山市支部が誕生、総勢39支部となり、全国支部長会活動も精力的です。▼『澱江』では「支部だより」を復活しました。講読料へのご協力をお願いし、ご意見をお待ちしております。▼来年度「表紙」掲載の作品を、自薦他薦にてお申し出ください。また、編集委員を募集します。手伝いが可能な方はご連絡ください。▼多数のご投稿、直撃インタビュー等でご協力いただいた方に感謝し、やむなく原稿を掲載できなかった方に深謝いたします。

経